

IV. 調査結果の分析

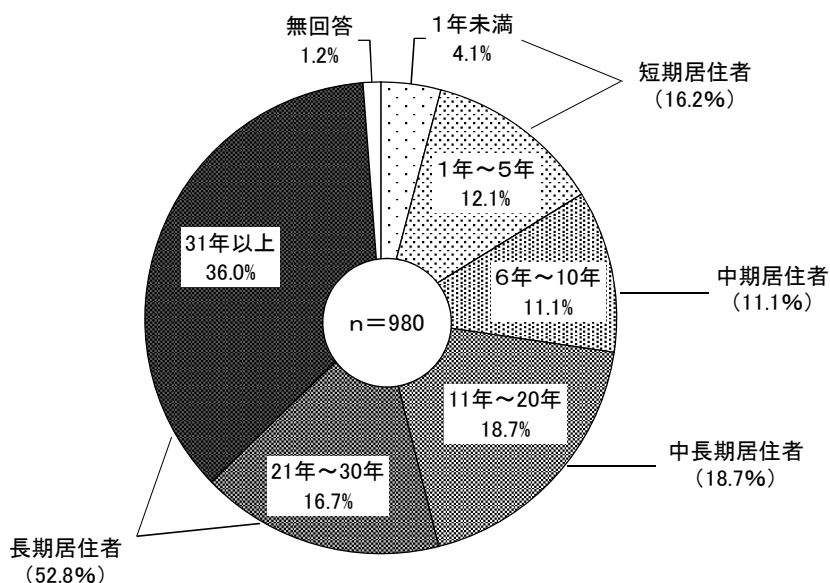
1 区の施策および評価について

(1) 居住年数

◇『長期居住者』が5割を超える

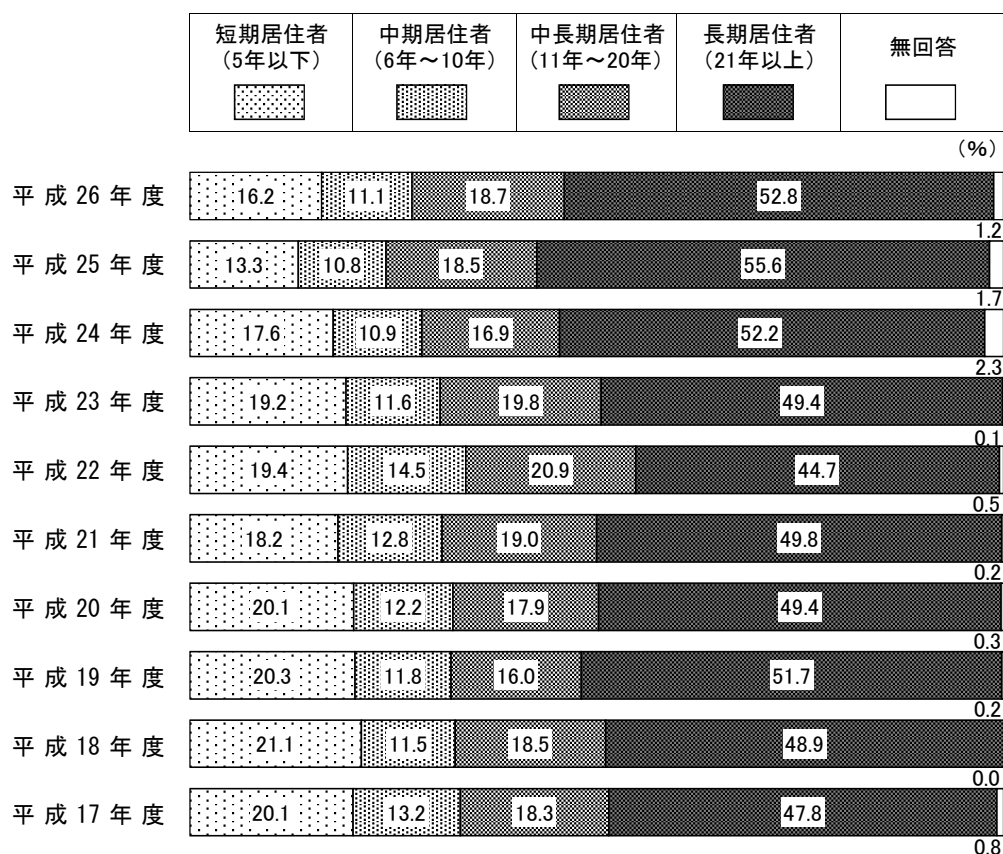
問1 あなたは、練馬区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

図1-1-1 居住年数



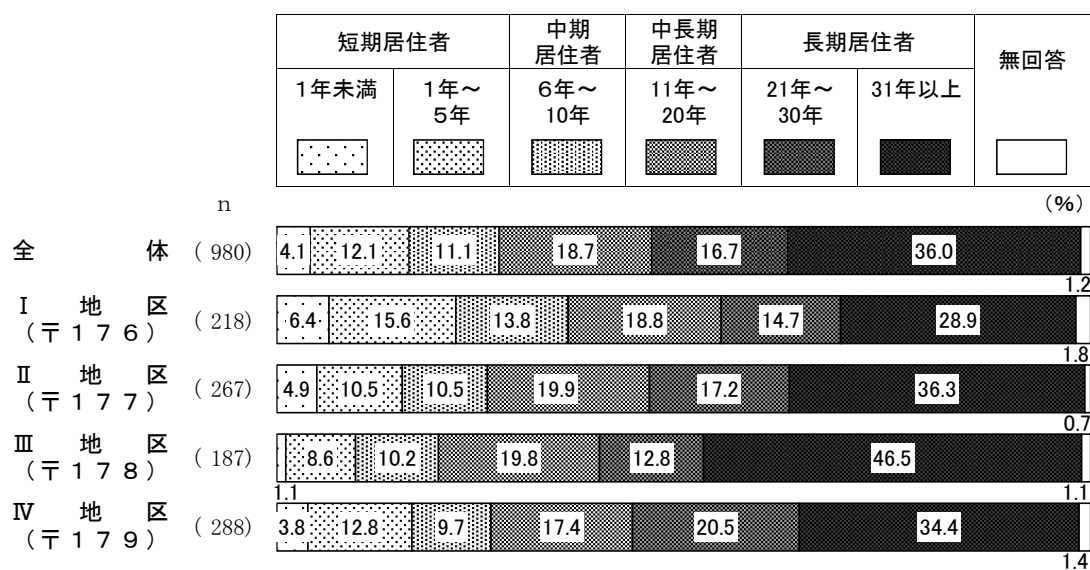
練馬区に住んで何年になるか聞いたところ、「31年以上」(36.0%)と「21年~30年」(16.7%)を合わせた『長期居住者』(52.8%)が5割を超えている。また、「11年~20年」の『中長期居住者』(18.7%)が2割近く、「6年~10年」の『中期居住者』(11.1%)がほぼ1割、「1年~5年」(12.1%)と「1年未満」(4.1%)を合わせた『短期居住者』(16.2%)が1割半ばとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 居住年数一過年度比較



過去の調査と比較すると、『長期居住者（21年以上）』は前回調査（平成25年度）より2.8ポイント減少しているが、過去9年と同様、最も多くの割合を占めている。（図1-1-2）

図 1-1-3 居住年数一地区別



地区別にみると、『長期居住者（21年以上）』はⅢ地区（178）でほぼ6割と最も多くなっている。『短期居住者（5年以下）』はⅠ地区（176）で2割を超えて多くなっている。

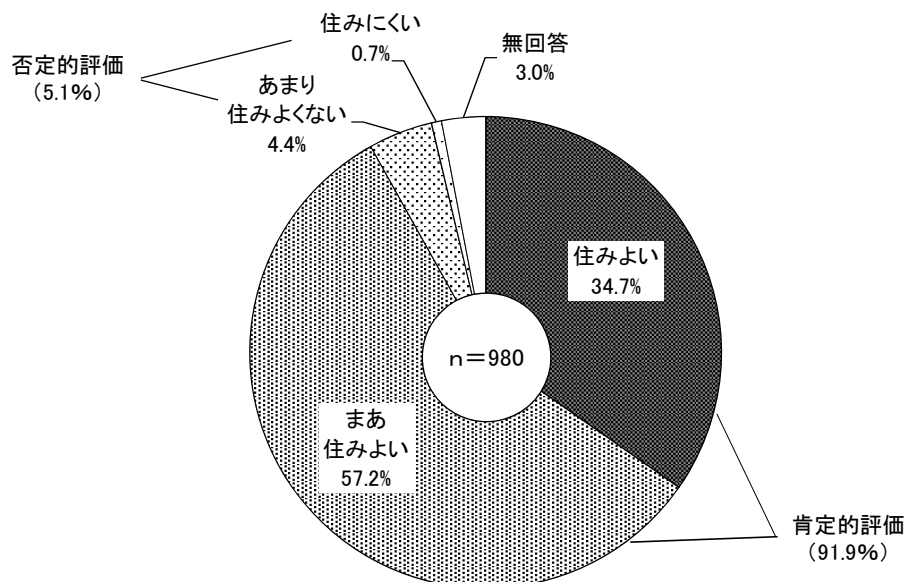
（図1-1-3）

(2) 住みごち

◇『肯定的評価』が9割を超える

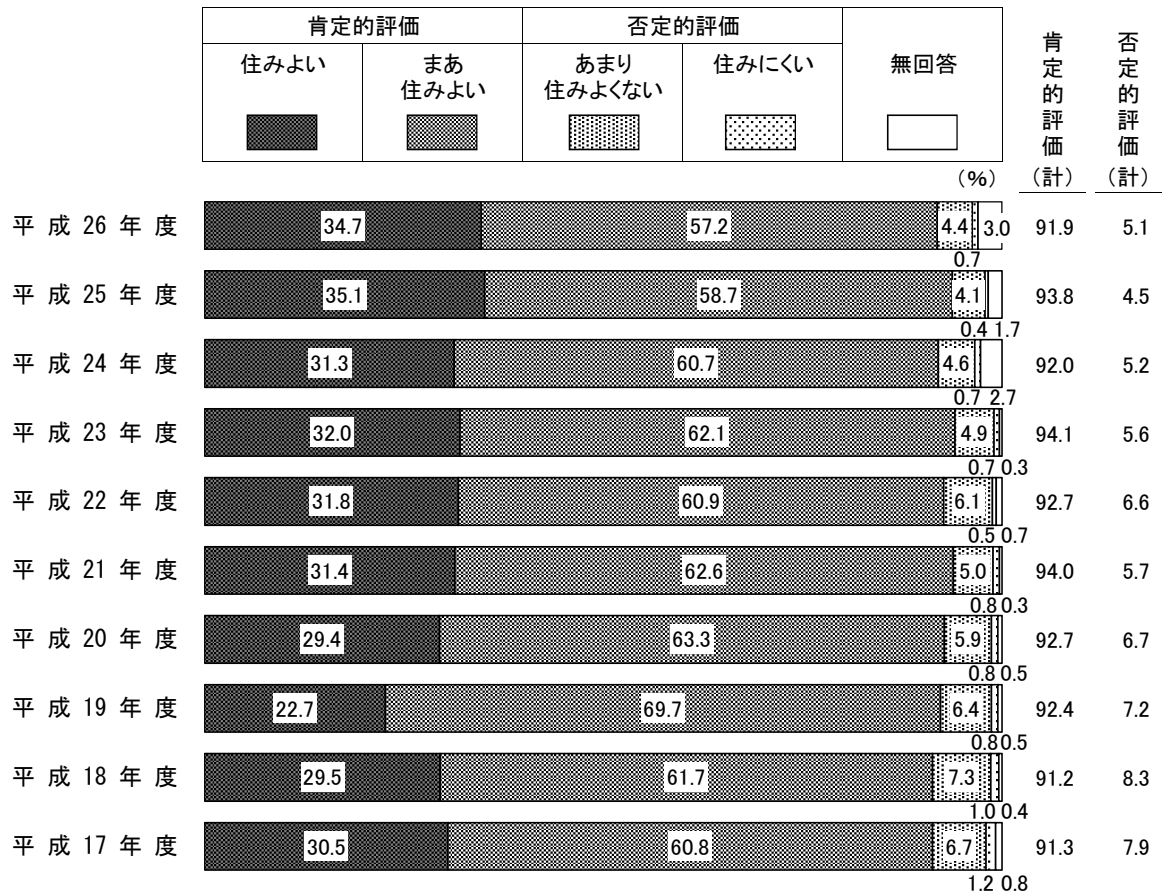
問2 あなたは、練馬区の住みごちをどう思いますか。(○は1つ)

図1-2-1 住みごち



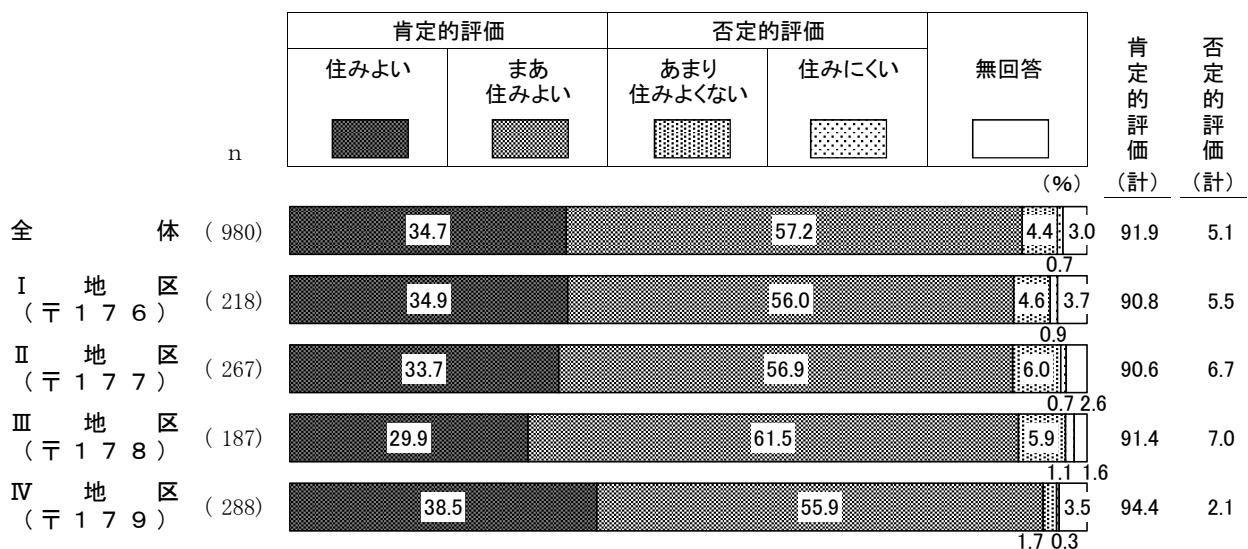
練馬区の住みごちを聞いたところ、「住みよい」(34.7%)が3割半ば、「まあ住みよい」(57.2%)が6割近くで、この2つを合わせた『肯定的評価』(91.9%)は9割を超えている。また、「あまり住みよくない」(4.4%)、「住みにくい」(0.7%)を合わせた『否定的評価』は5.1%となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 住みごち一過年度比較



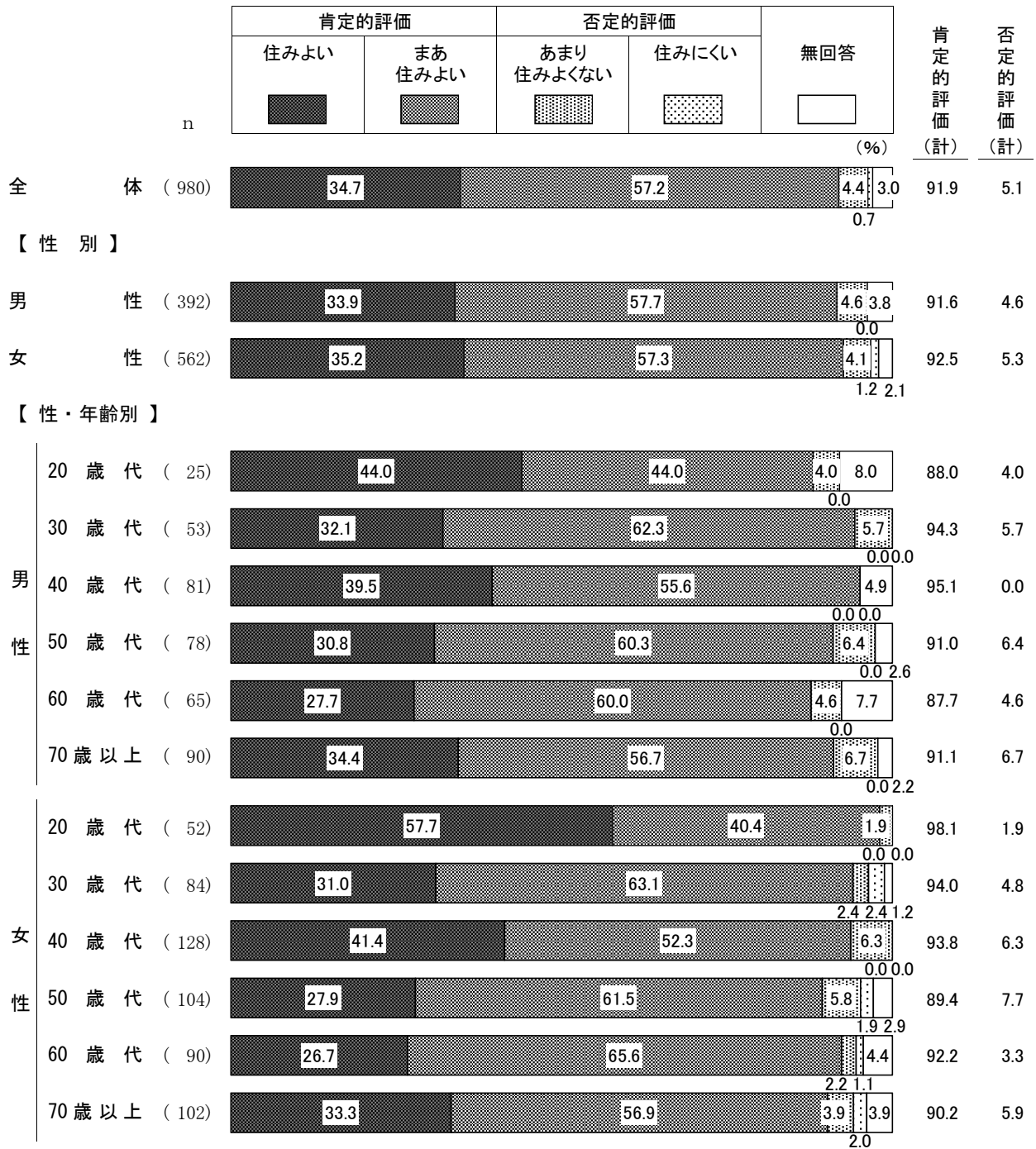
過去の調査と比較すると、『肯定的評価』は平成17年度以降いずれも9割以上となっている。(図1-2-2)

図 1-2-3 住みごち一地区別



地区別にみると、『肯定的評価』はIV地区(〒179)が9割半ばと多くなっているほか、すべての地区で9割以上となっている。(図1-2-3)

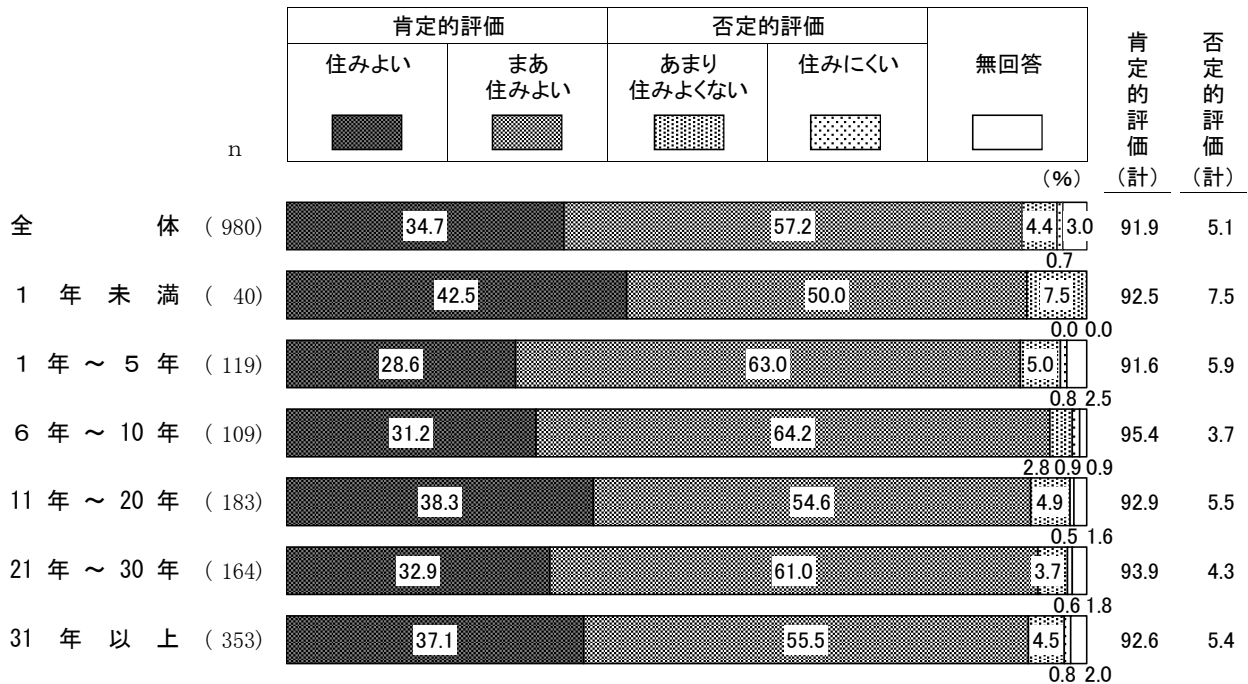
図1-2-4 住みごころ—性別／性・年齢別



性別にみると、男女ともに『肯定的評価』は9割以上となっている。

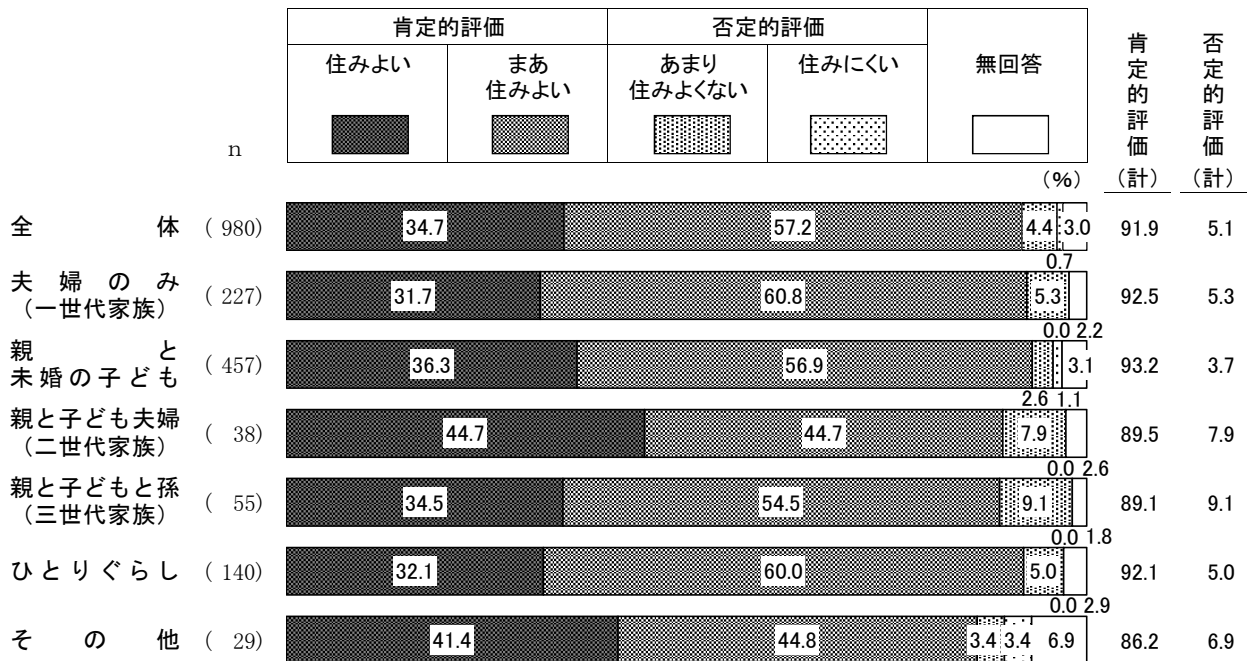
性・年齢別にみると、「住みよい」は女性20歳代で5割を超えて多くなっている。また、『肯定的評価』は男性の20歳代、60歳代と女性50歳代で8割台となっているほかは、いずれも9割以上となっている。(図1-2-4)

図 1-2-5 住みごち—居住年数別



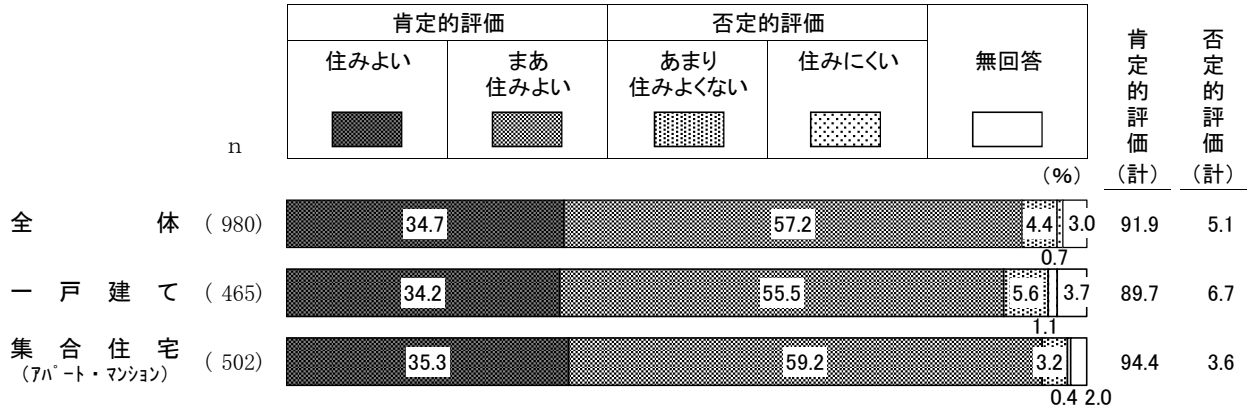
居住年数別にみると、『肯定的評価』はいずれも9割以上となっている。(図1-2-5)

図 1-2-6 住みごち—家族構成別



家族構成別にみると、「住みよい」は親と子ども夫婦(二世世代家族)で4割半ばと多くなっている。『肯定的評価』は親と未婚の子どもで9割半ばと多くなっている。(図1-2-6)

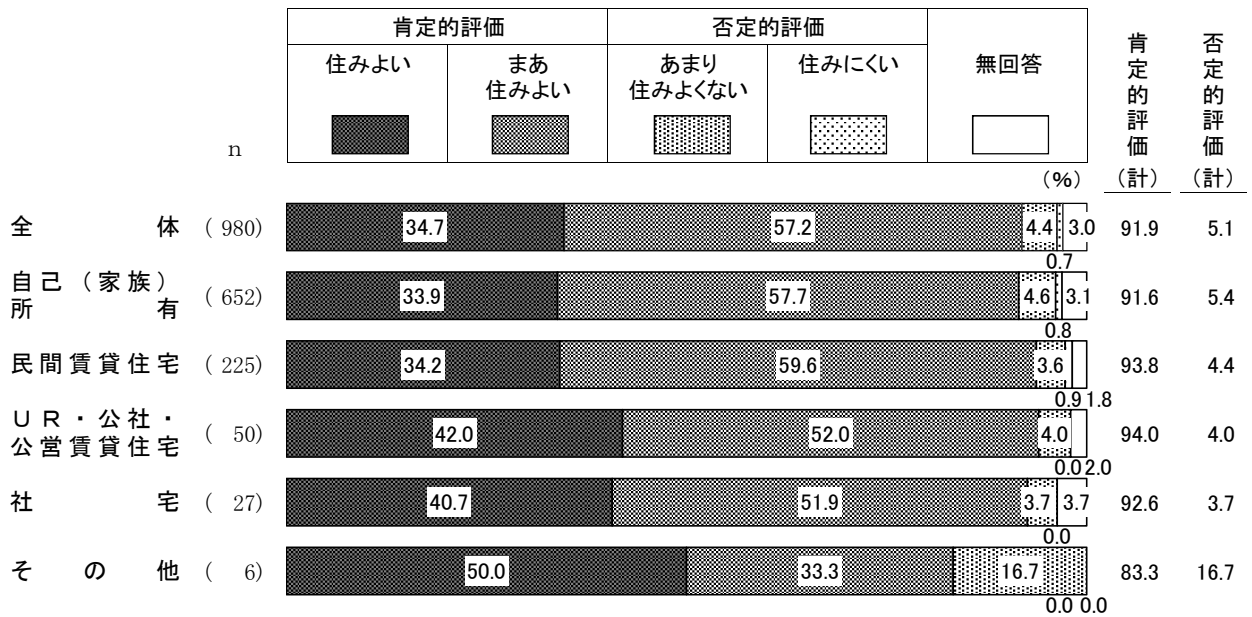
図 1-2-7 住みごち—住居形態別



住居形態別にみると、「住みよい」は一戸建て、集合住宅（アパート・マンション）ともほぼ同様の傾向となっているが、『肯定的評価』は集合住宅で9割半ばと多くなっている。

(図 1-2-7)

図 1-2-8 住みごち—住居所有形態別



住居所有形態別にみると、「住みよい」はUR・公社・公営賃貸住宅で4割を超えて多くなっている。また、『肯定的評価』はいずれの住居所有形態でも8割を超えている。

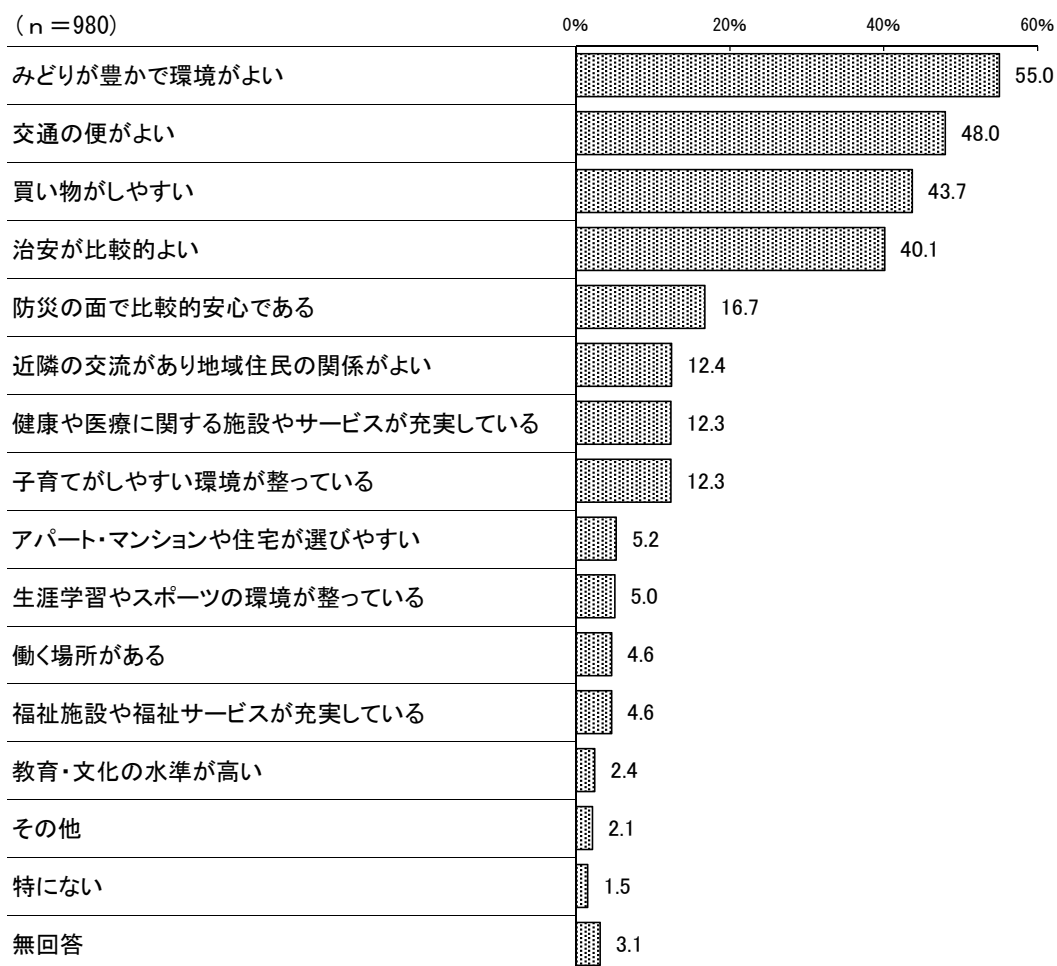
(図 1-2-8)

(2-1) 練馬区が住みよいと感じるところ

◇「みどりが豊かで環境がよい」が5割半ば、「交通の便がよい」が5割近く

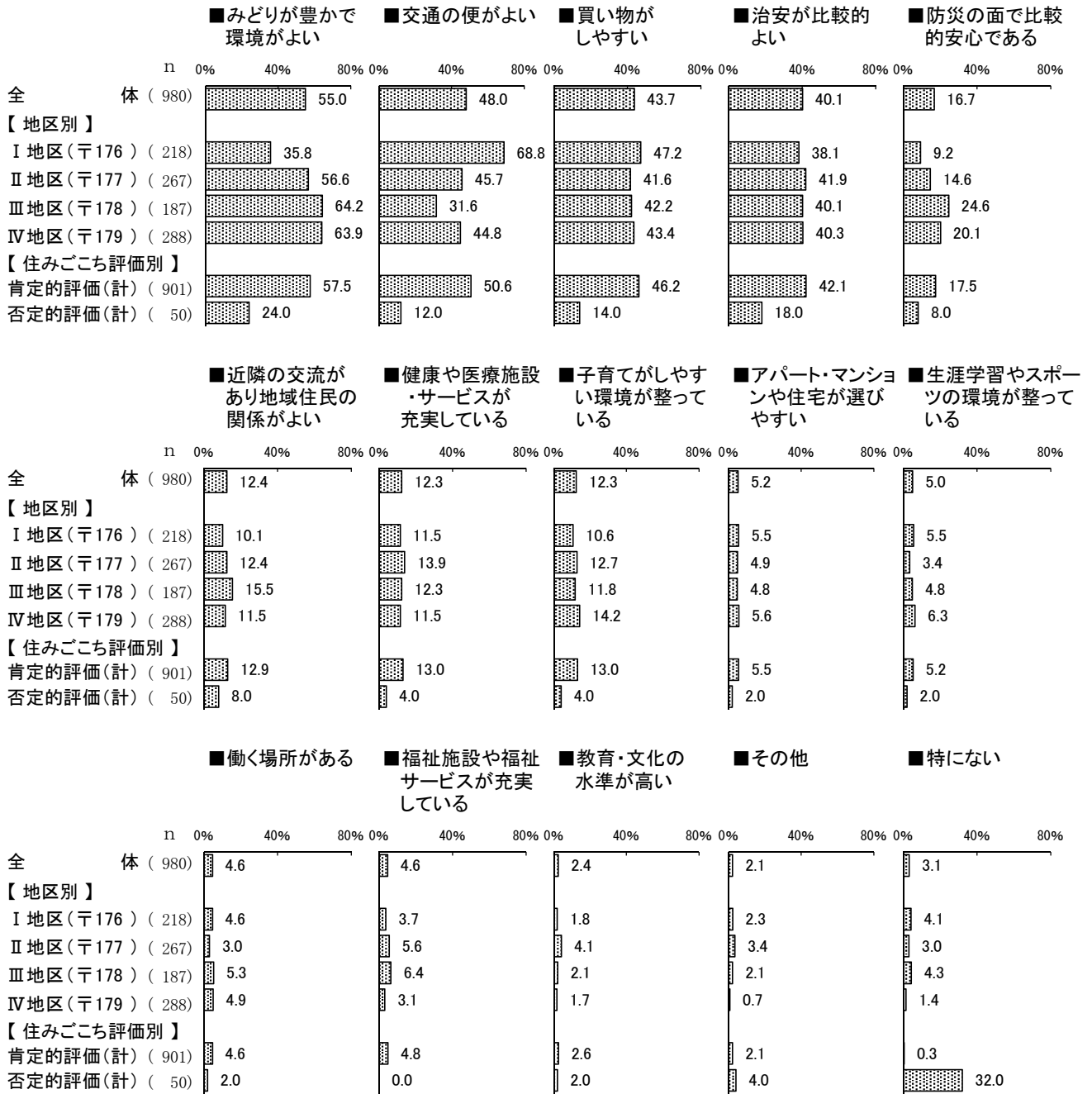
問2-1 あなたが、練馬区が住みよいと感じるところは、どんなところですか。次の中から住みよいと感じることを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。(3つまで)

図1-2-9 練馬区が住みよいと感じるところ



練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(55.0%)が5割半ばと最も多く、次いで「交通の便がよい」(48.0%)、「買い物がしやすい」(43.7%)、「治安が比較的よい」(40.1%)などの順となっている。(図1-2-9)

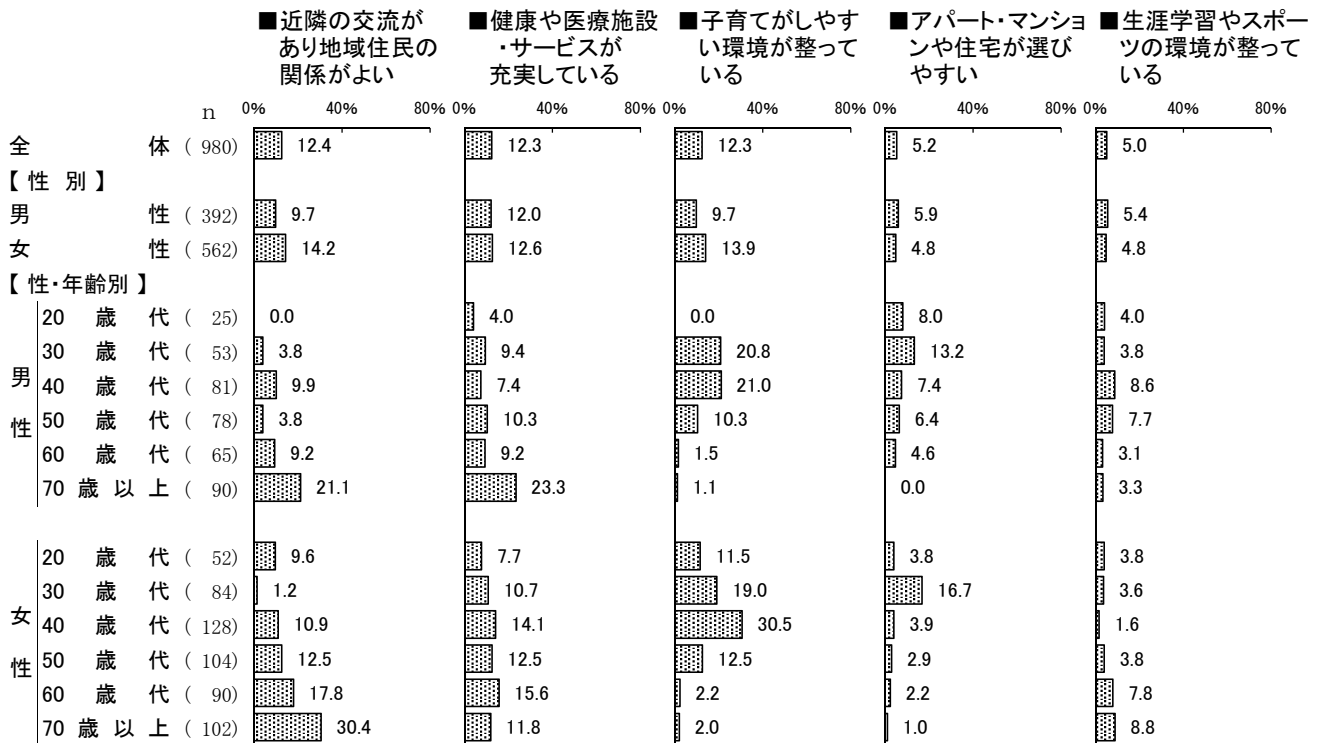
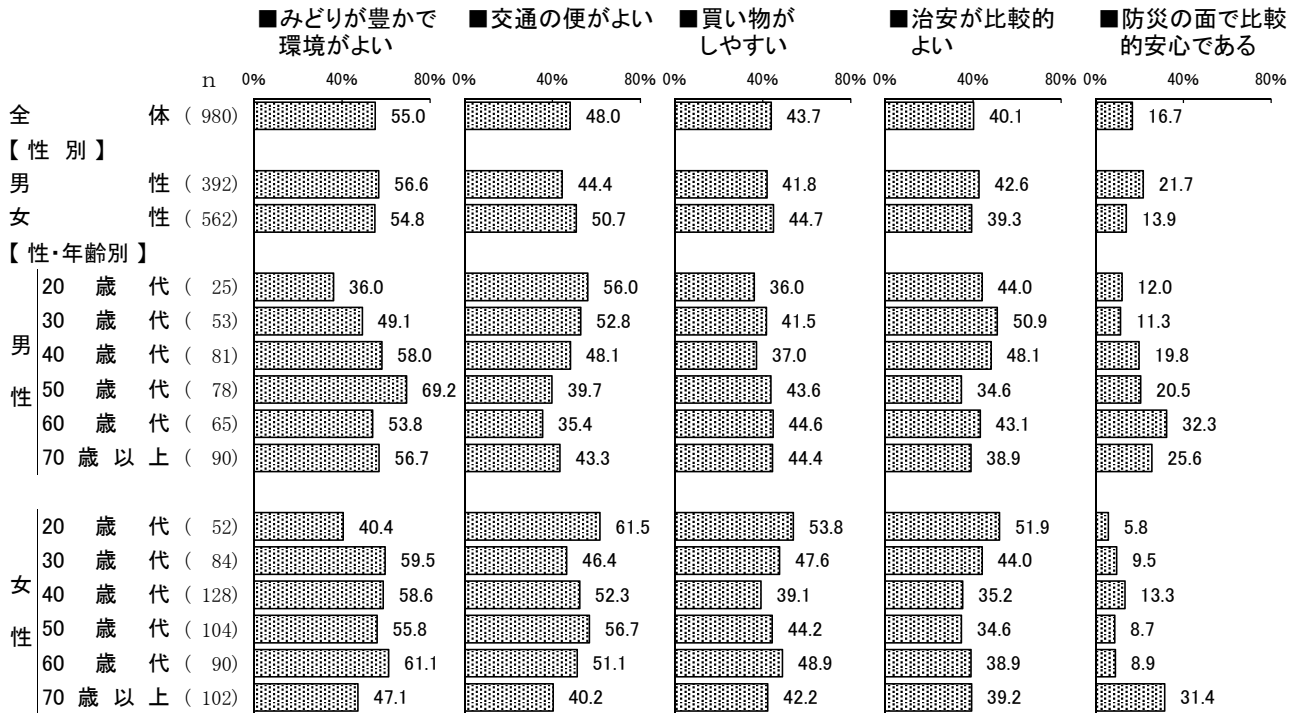
図1-2-10 練馬区が住みよいと感じるところ—地区別／住みごち評価別

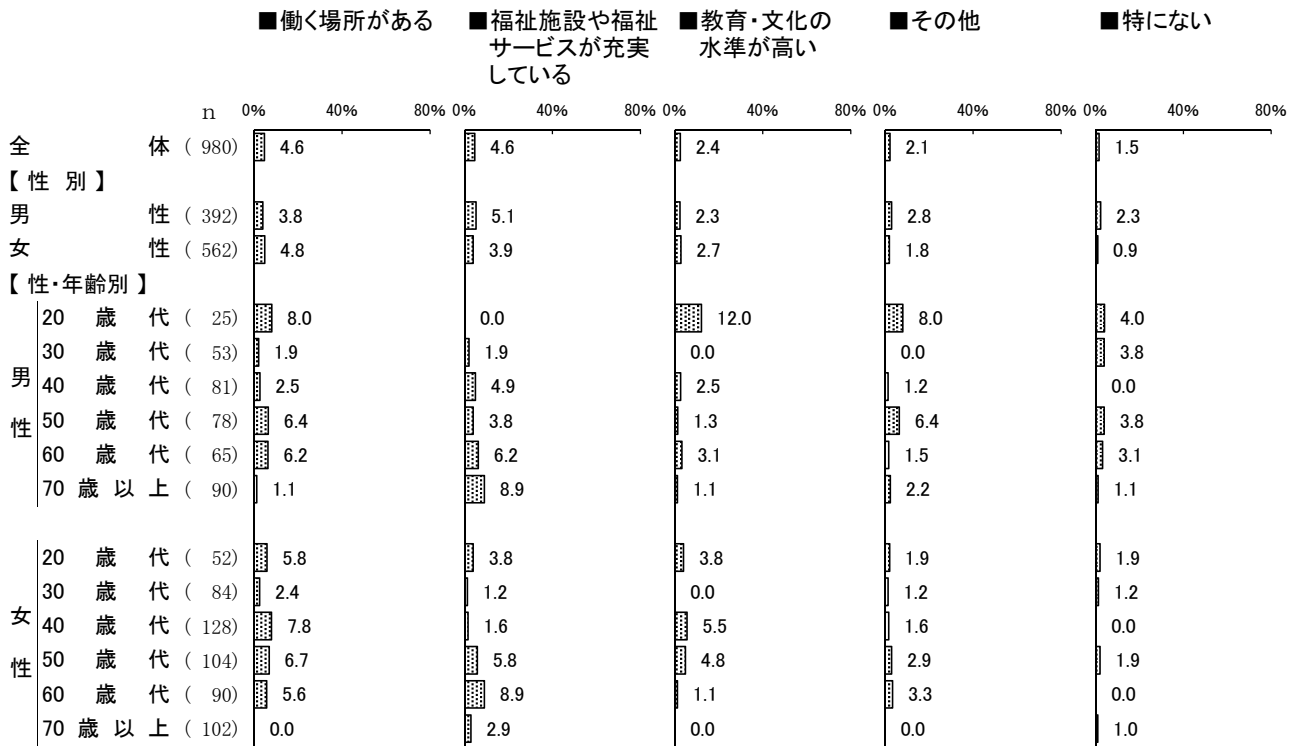


地区別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」はⅢ地区（〒178）、Ⅳ地区（〒179）で6割を超えて多くなっている。「交通の便がよい」はⅠ地区（〒176）で7割近くと多くなっている。「防災の面で比較的安心である」はⅢ地区（〒178）で2割半ばと多くなっている。

(図1-2-10)

図1-2-11 練馬区が住みよいと感じるところ—性別／性・年齢別





性別にみると、男性の方が「防災の面で比較的安心である」が7.8ポイント、「治安が比較的よい」が3.3ポイント高く、女性の方が「交通の便がよい」が6.3ポイント、「近隣の交流があり地域住民の関係がよい」が4.5ポイント、「子育てがしやすい環境が整っている」が4.2ポイント高くなっている。

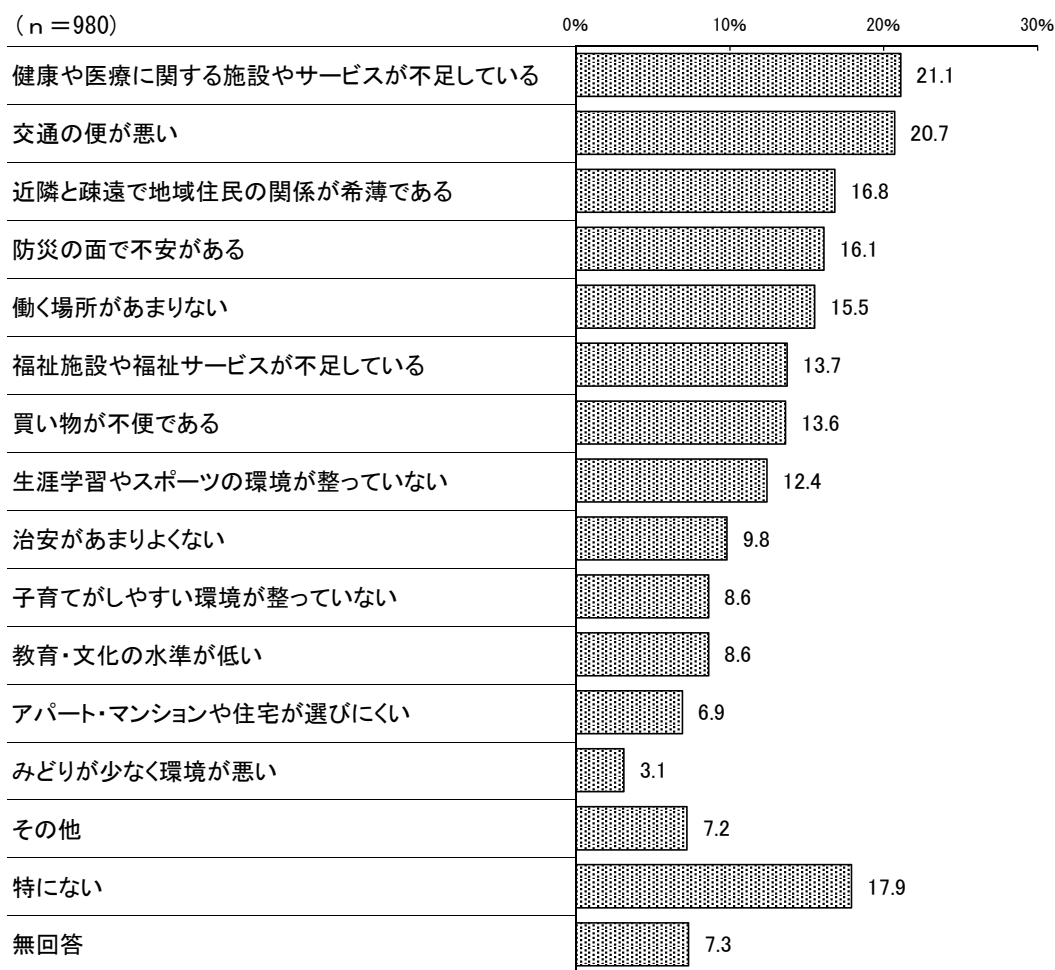
性別・年齢別にみると、「交通の便がよい」や「治安が比較的よい」は男女ともに低い年代ほど多く、「防災の面で比較的安心である」や「近隣の交流があり地域住民の関係がよい」は高い年代ほど多い傾向となっている。(図1-2-11)

(2-2) 練馬区が住みにくいと感じるところ

◇「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」、「交通の便が悪い」がそれぞれ2割

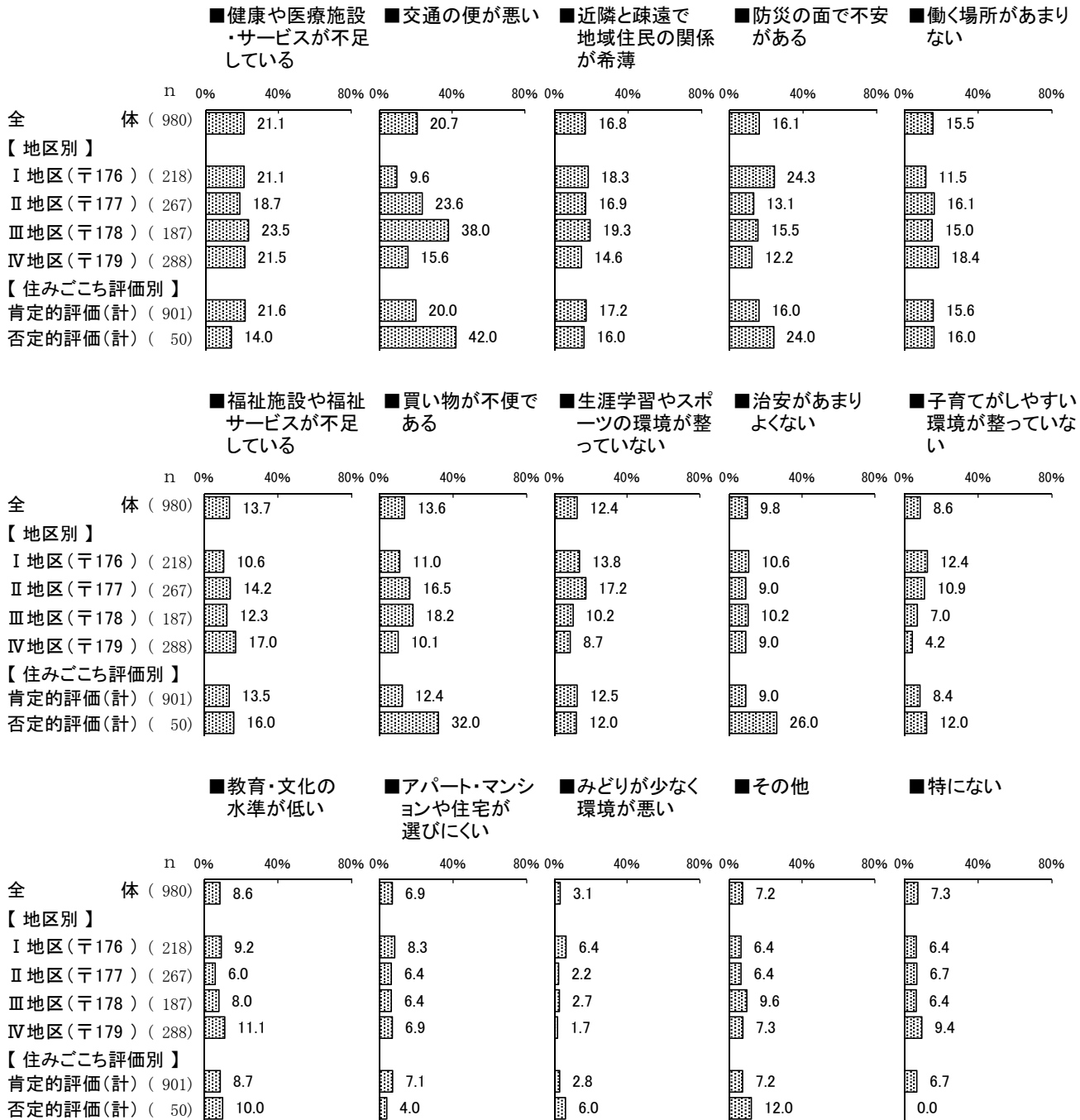
問2-2 あなたが、練馬区が住みにくいと感じるところは、どんなところですか。次の中から住みにくいと感じることを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。(3つまで)

図1-2-12 練馬区が住みにくいと感じるところ



練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(21.1%)、「交通の便が悪い」(20.7%)がほぼ2割と多く、次いで「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(16.8%)、「防災の面で不安がある」(16.1%)、「働く場所があまりない」(15.5%)などの順となっている。(図1-2-12)

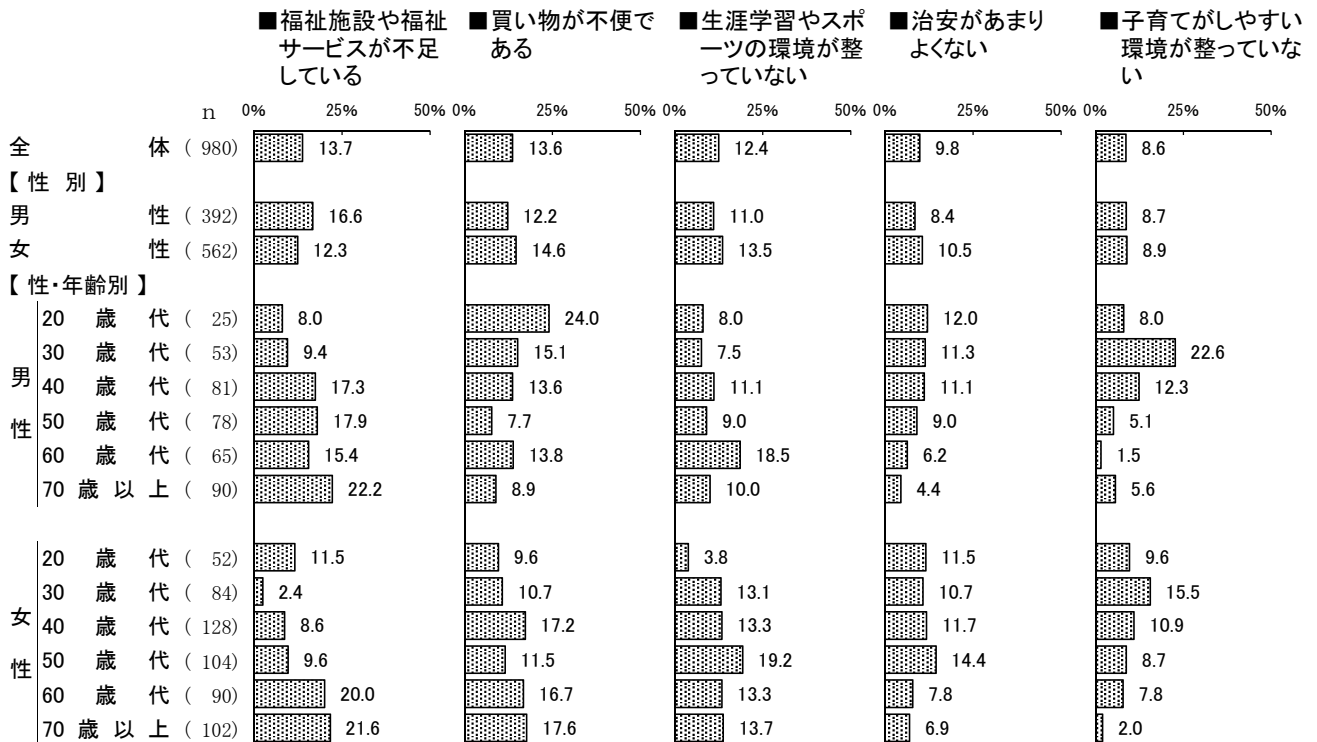
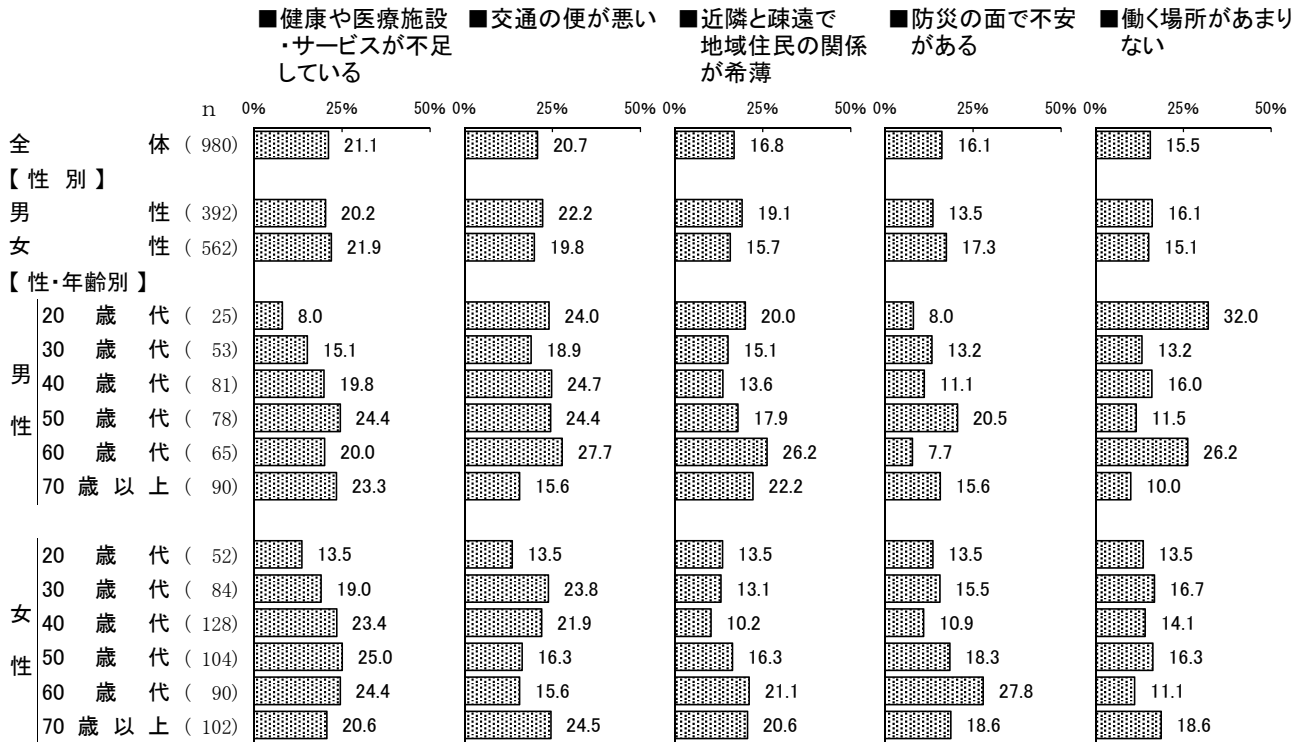
図1-2-13 練馬区が住みにくいと感じるところ—地区別／住みごころ評価別

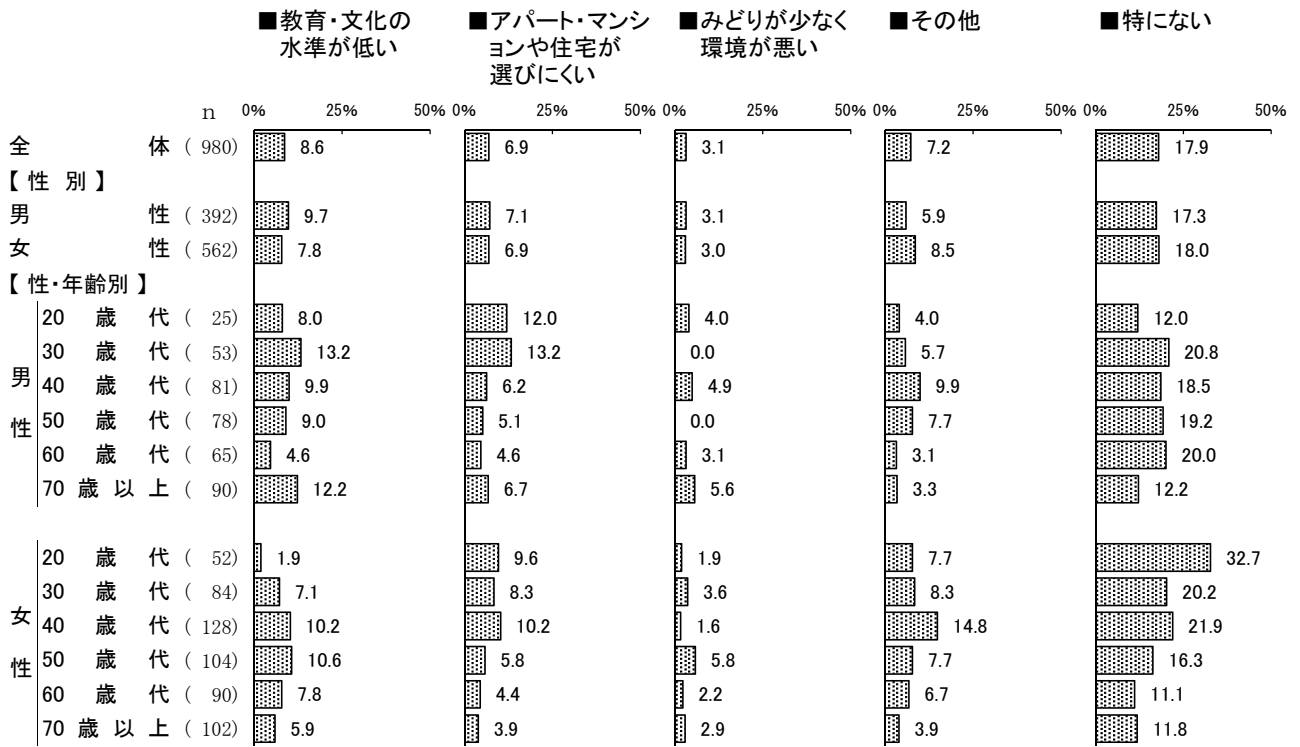


地区別にみると、「交通の便が悪い」はIII地区(〒178)で4割近くと多く、「防災の面で不安がある」はI地区(〒176)で2割半ばと多くなっている。

住みごころ評価別にみると、否定的評価の人は「交通の便が悪い」が4割を超え、「買い物が不便である」が3割を超え、「治安があまりよくない」、「防災の面で不安がある」がそれぞれ2割半ばと多くなっている。(図1-2-13)

図1-2-14 練馬区が住みにくいと感じるところ—性別／性・年齢別





性別にみると、男性の方が「福祉施設や福祉サービスが不足している」が4.3ポイント、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄」が3.4ポイント高く、女性の方が「防災の面で不安がある」が3.8ポイント高くなっている。

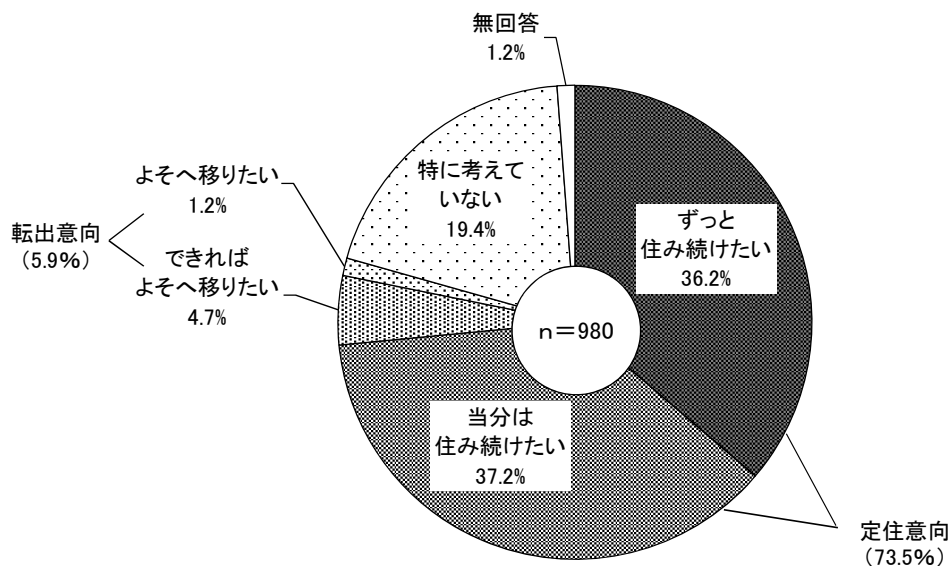
性・年齢別にみると、「健康や医療施設・サービスが不足している」、「防災の面で不安がある」、「福祉施設や福祉サービスが不足している」などは男女ともに高い年代ほど多く、「治安があまりよくない」、「子育てしやすい環境が整っていない」などは低い年代ほど多い傾向となっている。(図1-2-14)

(3) 定住意向

◇『定住意向』が7割を超える

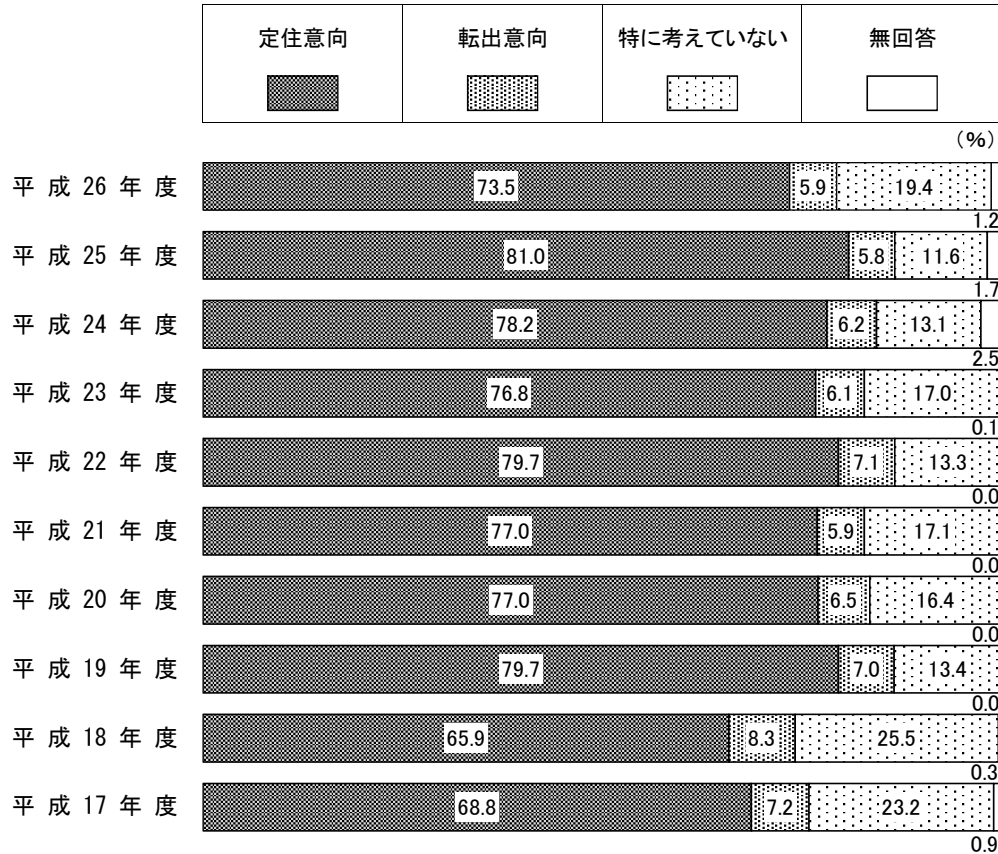
問3 あなたは、これからも引き続き練馬区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

図1-3-1 定住意向



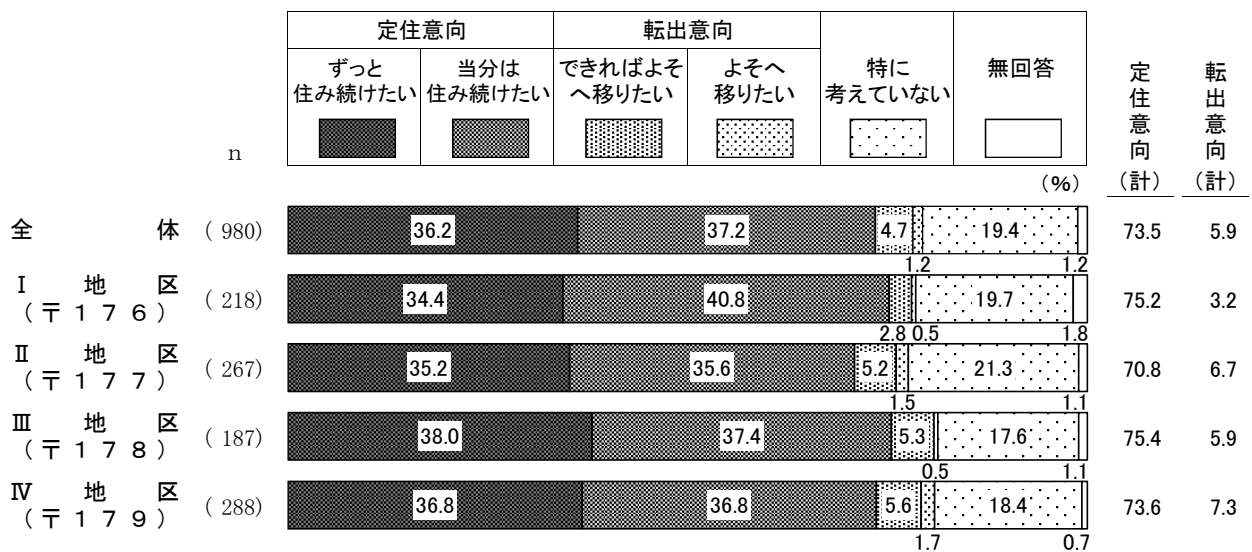
これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住みたい」(36.2%)と「当分は住みたい」(37.2%)を合わせた『定住意向』(73.5%)が7割を超えている。一方、「できればよそへ移りたい」(4.7%)と「よそへ移りたい」(1.2%)を合わせた『転出意向』は5.9%となっている。(図1-3-1)

図 1-3-2 定住意向—過年度比較



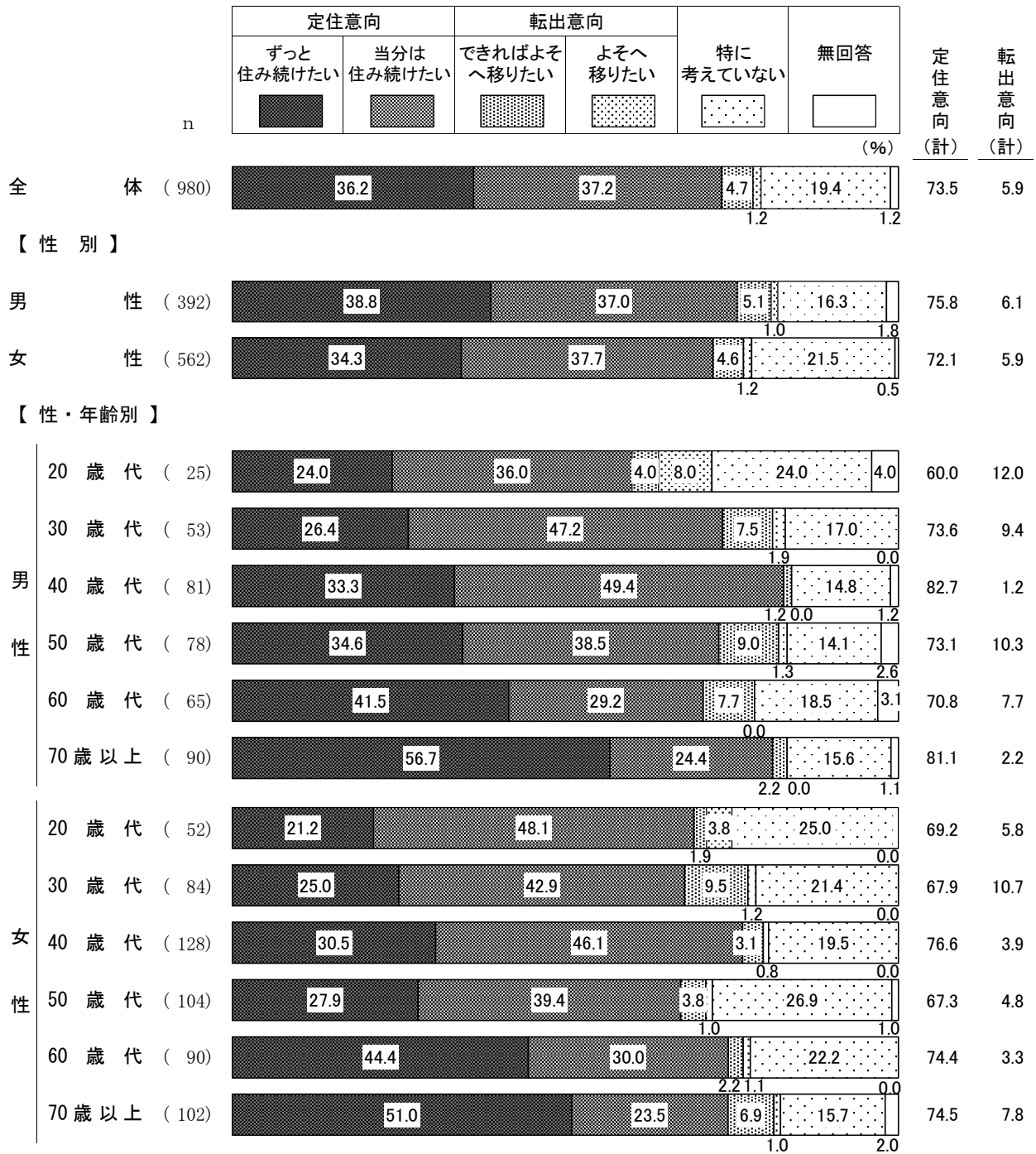
過去の調査と比較すると、『定住意向』は平成19年度以降7割台が続き前回調査（平成25年度）では8割を超えたが、今回調査では前回調査より7.5ポイント減少し7割台となっている。（図 1-3-2）

図 1-3-3 定住意向—地区別



地区別にみると、『定住意向』はI地区（〒176）とIII地区（〒178）で7割半ばと多くなっているほか、すべての地区で7割台となっている。（図 1-3-3）

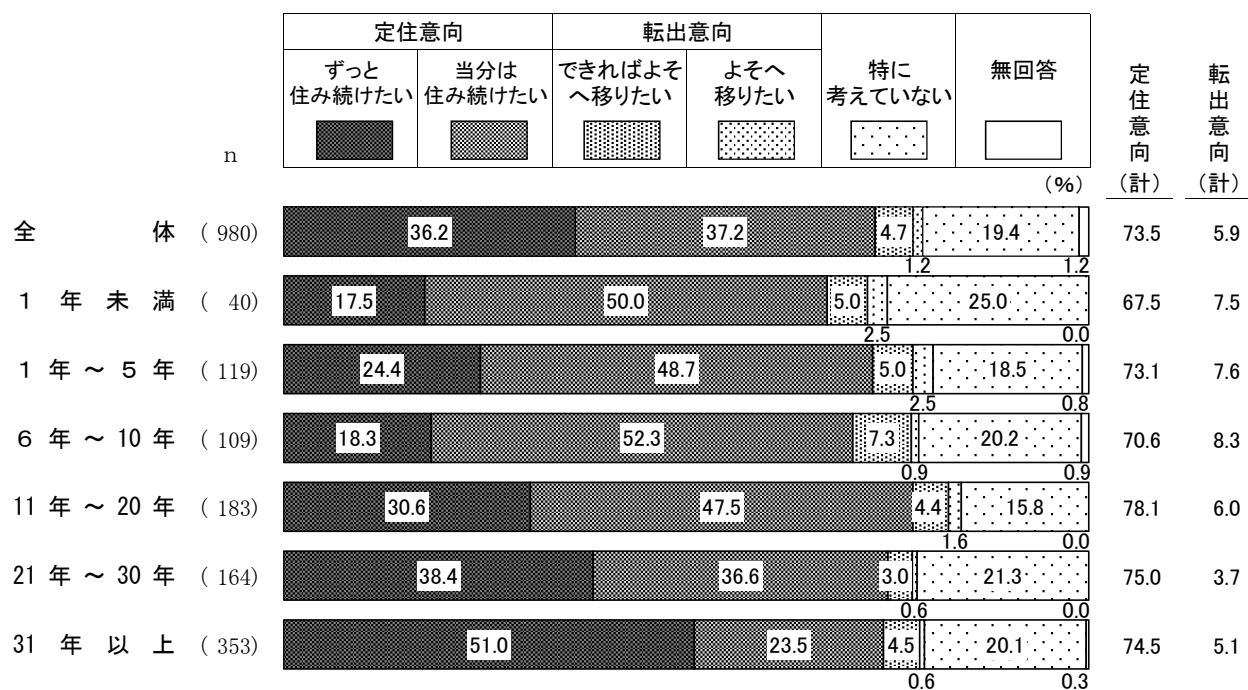
図1-3-4 定住意向—性別／性・年齢別



性別にみると、『定住意向』は男性の方が3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに高い年代ほど多い傾向となっており、男性70歳以上、女性70歳以上で5割を超えている。『定住意向』は男女それぞれ40歳代で最も多く、男性40歳代で8割を超え、女性40歳代で7割半ばとなっている。(図1-3-4)

図 1-3-5 定住意向—居住年数別



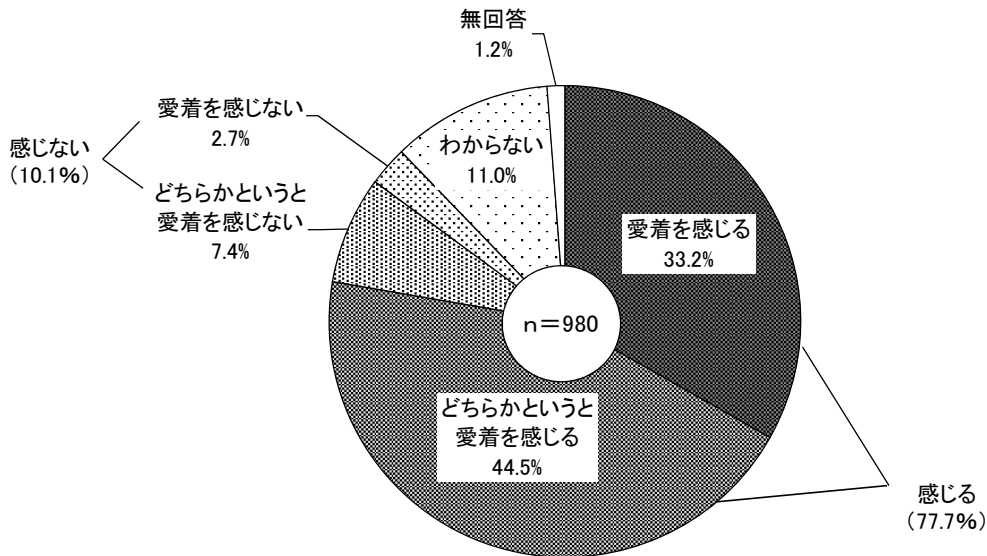
居住年数別にみると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長いほど多い傾向となっており、31年以上で5割を超えている。(図1-3-5)

(4) 練馬区への愛着

◇『感じる』が8割近く

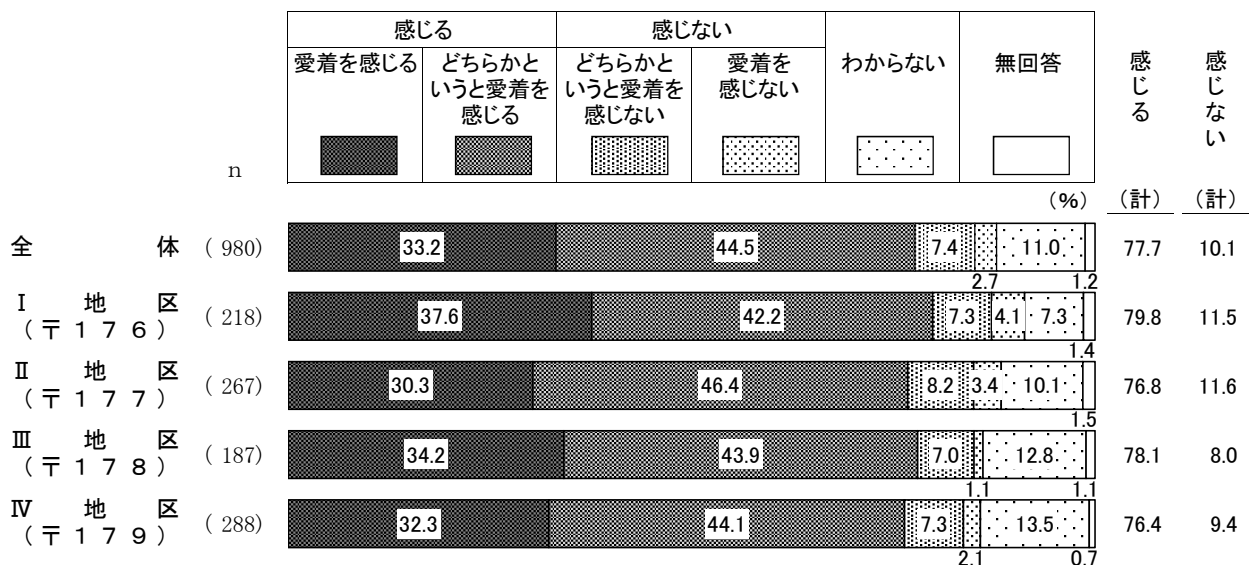
問4 あなたは、練馬区に愛着を感じますか。(○は1つ)

図1-4-1 練馬区への愛着



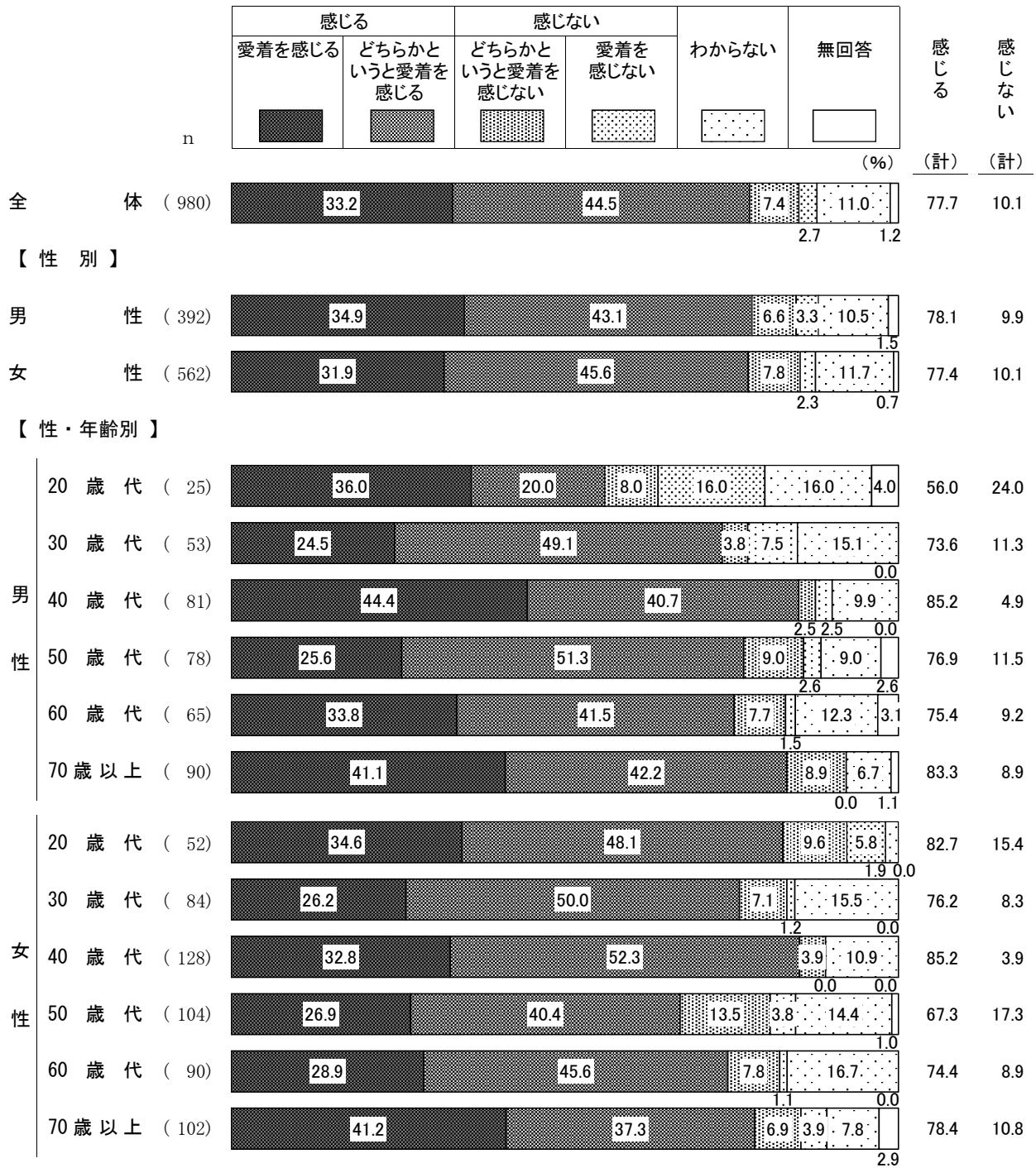
練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(33.2%)と「どちらかというと感じる」(44.5%)を合わせた『感じる』(77.7%)が8割近くとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(7.4%)と「愛着を感じない」(2.7%)を合わせた『感じない』(10.1%)はほぼ1割となっている。(図1-4-1)

図1-4-2 練馬区への愛着—地区別



地区別にみると、『感じる』はI地区(〒176)でほぼ8割と多くなっているほか、すべての地区で7割半ばを超えている。(図1-4-2)

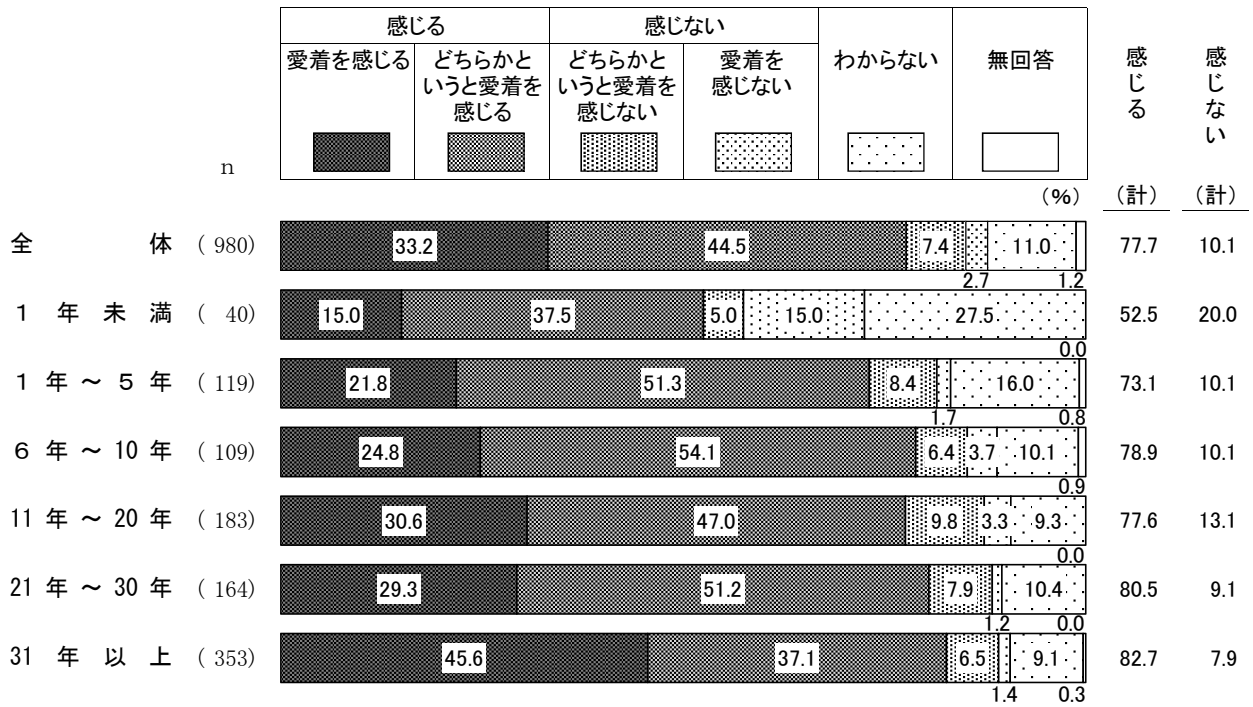
図1-4-3 練馬区への愛着—性別／性・年齢別



性別にみると、男女とも『感じる』が8割近く、ほぼ同様の傾向となっている。

性・年齢別にみると、「愛着を感じる」は男性40歳代、70歳以上、女性70歳以上で4割を超えて多くなっている。『感じる』では、男性40歳代、70歳以上、女性20歳代、40歳代で8割を超えている。(図1-4-3)

図 1-4-4 練馬区への愛着—居住年数別



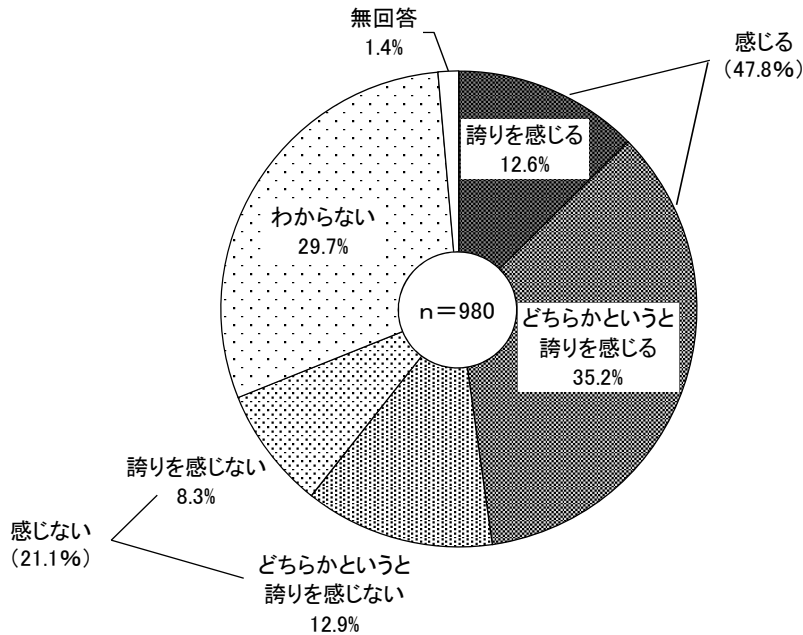
居住年数別にみると、『感じる』は居住年数の長い人ほど多い傾向となっており、21年～30年、31年以上居住している人でともに8割を超えて多くなっている。(図1-4-4)

(5) 練馬区に対する誇り

◇『感じる』が5割近く

問5 あなたは、練馬区に誇りを感じますか。(○は1つ)

図1-5-1 練馬区に対する誇り



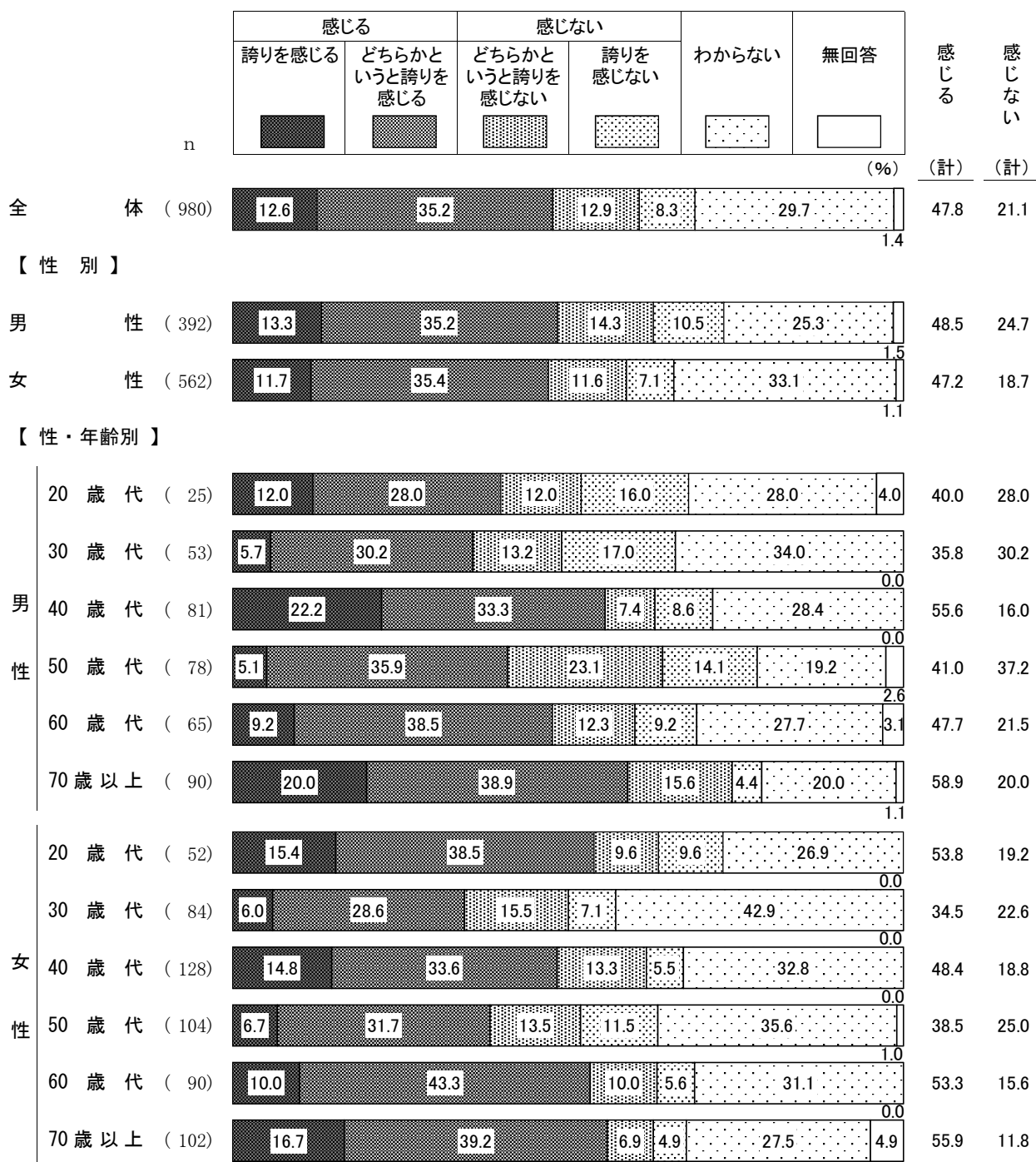
練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(12.6%)と「どちらかというと感じる」(35.2%)を合わせた『感じる』(47.8%)が5割近くとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(12.9%)と「誇りを感じない」(8.3%)を合わせた『感じない』(21.1%)はほぼ2割となっている。(図1-5-1)

図1-5-2 練馬区に対する誇り-地区別

	感じる		感じない		わからない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
	誇りを感じる	どちらかというと感じる	どちらかというと感じない	誇りを感じない				
全体 (980)	12.6	35.2	12.9	8.3	29.7	1.4	47.8	21.1
I 地区 (〒176) (218)	11.9	34.4	13.3	11.0	28.0	1.4	46.3	24.3
II 地区 (〒177) (267)	13.9	35.2	10.1	8.6	30.7	1.5	49.1	18.7
III 地区 (〒178) (187)	10.2	37.4	14.4	7.5	29.4	1.1	47.6	21.9
IV 地区 (〒179) (288)	13.2	35.1	13.9	6.3	30.2	1.4	48.3	20.1

地区別にみると、『感じる』はいずれの地区でも4割半ばを超え、地区間で大きな傾向の違いはみられない。(図1-5-2)

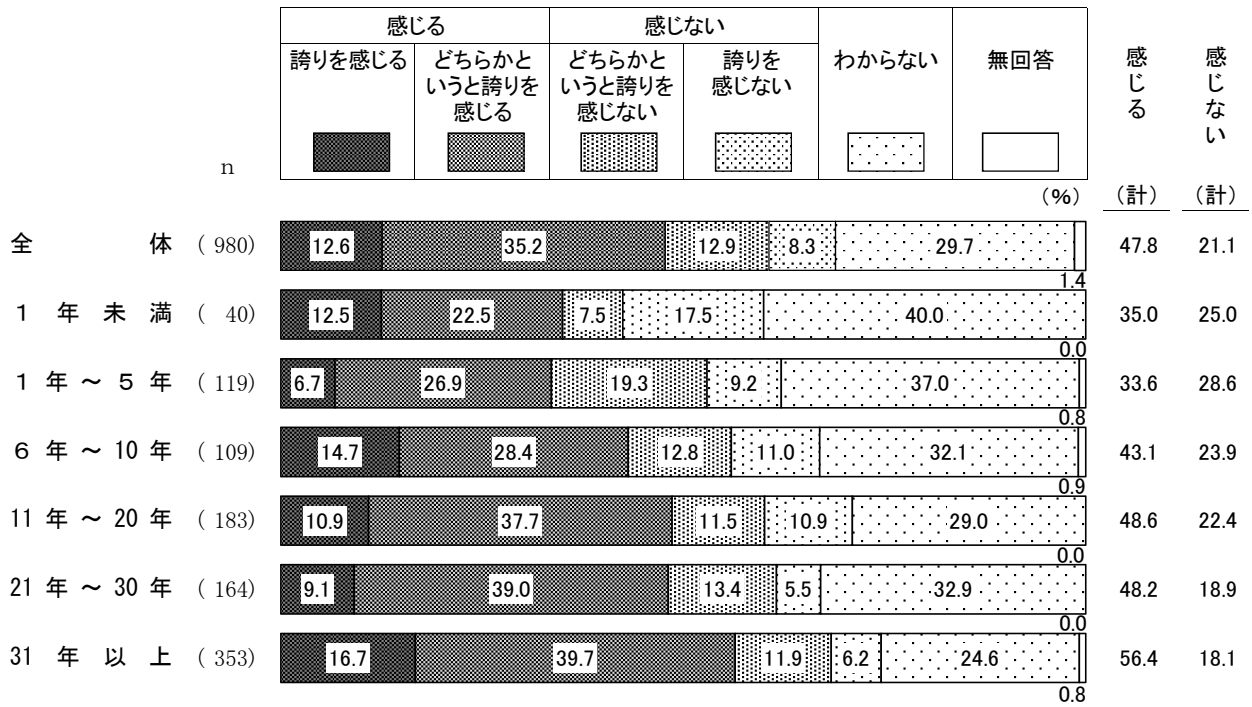
図1-5-3 練馬区に対する誇り—性別／性・年齢別



性別にみると、『感じる』は男女ともほぼ同様の傾向となっている。一方、『感じない』は男性の方が6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「誇りを感じる」は男性40歳代で2割を超え、70歳以上で2割と多くなっている。『感じる』では、男性40歳代、70歳以上、女性20歳代、60歳代、70歳以上で5割を超えている。(図1-5-3)

図 1-5-4 練馬区に対する誇り—居住年数別



居住年数別にみると、『感じる』は居住年数の長い人ほど多い傾向となっており、31年以上居住している人では5割半ばと多くなっている。(図 1-5-4)

(6) 区施策への満足度と必要性

◇満足度の高い施策は「健康づくり」がほぼ8割、「みどりの保全と創造」、「循環型社会づくり」が8割近く、「防犯・防火・防災」、「開かれた行政運営」が6割半ば

◇必要性の高い施策は「医療体制の確立」が9割近く、「交通安全対策」、「健康づくり」、「災害に強く生活しやすいまちづくり」、「防犯・防火・防災」が8割半ば

問6 区は様々な施策を行っていますが、あなたは、次にあげる施策にどの程度満足していますか。次の1～30の項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

問9 これらの施策に関する今後の必要性について、どのように考えますか。次の1～30の項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

■子ども分野

- 1 子育て支援（保育園、学童クラブ、子育てのひろばびよびよ、病児・病後児保育、児童手当など）
- 2 学校教育（学力の向上、課外授業や学校の施設設備などの充実など）
- 3 青少年の健全育成（子供向け講座・行事、社会環境の浄化活動、遊び場の確保、青少年館など）

■健康・福祉分野

- 4 健康づくり（健康診査、がん検診、母子保健、食育、歯科健診、禁煙支援、衛生環境と食の安全、予防接種、感染症対策、精神保健など）
- 5 医療体制の確立（小児医療、周産期医療、救急医療、高度専門的医療、災害時医療など）
- 6 地域で支える福祉（民生委員による福祉活動など）
- 7 高齢者福祉（高齢者施設の整備、介護予防・介護サービスの充実など）
- 8 障害者福祉（障害者の社会参加や自立への支援、障害者施設の整備など）
- 9 生活の安定のための支援（生活の相談や支援、生活保護など）

■区民生活・産業分野

- 10 地域活動の支援（町会・自治会等の支援、NPOの支援、地域集会施設の運営など）
- 11 中小企業・商店街の振興（特徴的な産業（アニメや伝統工芸など）の支援など）
- 12 消費者の自立支援（商品や契約に関する相談など）
- 13 都市農業の振興・農地の保全
- 14 観光の推進（まち歩き、ねりコレ《区にちなんだ商品・グルメ》の情報発信など）
- 15 文化芸術・生涯学習活動、スポーツ活動の支援
- 16 文化財や伝統文化の保存・活用・継承
- 17 地域の国際交流（外国人向け区報の発行、国際交流サロンなど）
- 18 防犯・防火・防災（安全・安心パトロールカー、街頭消火器、防災訓練、防災意識啓発など）
- 19 平和と人権の尊重や男女共同参画の推進
（啓発イベントや講座、女性に対する各種相談の実施、情報誌の発行など）

■環境・まちづくり分野

- 20 みどりの保全と創造（公園の整備、樹林地の保全など）
- 21 循環型社会づくり（ごみの減量・リサイクルの推進、地球温暖化防止など）
- 22 地域環境の保全（騒音などの公害問題、たばこのポイ捨て・歩きたばこ防止など）
- 23 地域特性に合ったまちづくり（計画的な土地利用、調和のとれた都市の形成など）
- 24 災害に強く生活しやすいまちづくり（避難路の整備、建物の耐震化、ユニバーサルデザインなど）
- 25 道路や公共交通（鉄道やバスなど）の整備
- 26 交通安全対策（歩行者空間の確保、自転車対策など）
- 27 公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供（区営住宅の運営、高齢者世帯への住宅支援など）

■行政運営分野

- 28 開かれた行政運営（区報やホームページなどの情報発信、広聴・区民相談、情報公開など）
- 29 行財政改革の取組（委託化・民営化などによる区民サービスの向上、人件費・公債費の縮減による行財政の健全化など）
- 30 区の窓口サービスの向上（窓口の受付日や時間の拡充、窓口の効率化、対応の質の向上など）

満足度

「満足」および「どちらかといえば満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかといえば不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようにになっている。（図1-6-1）

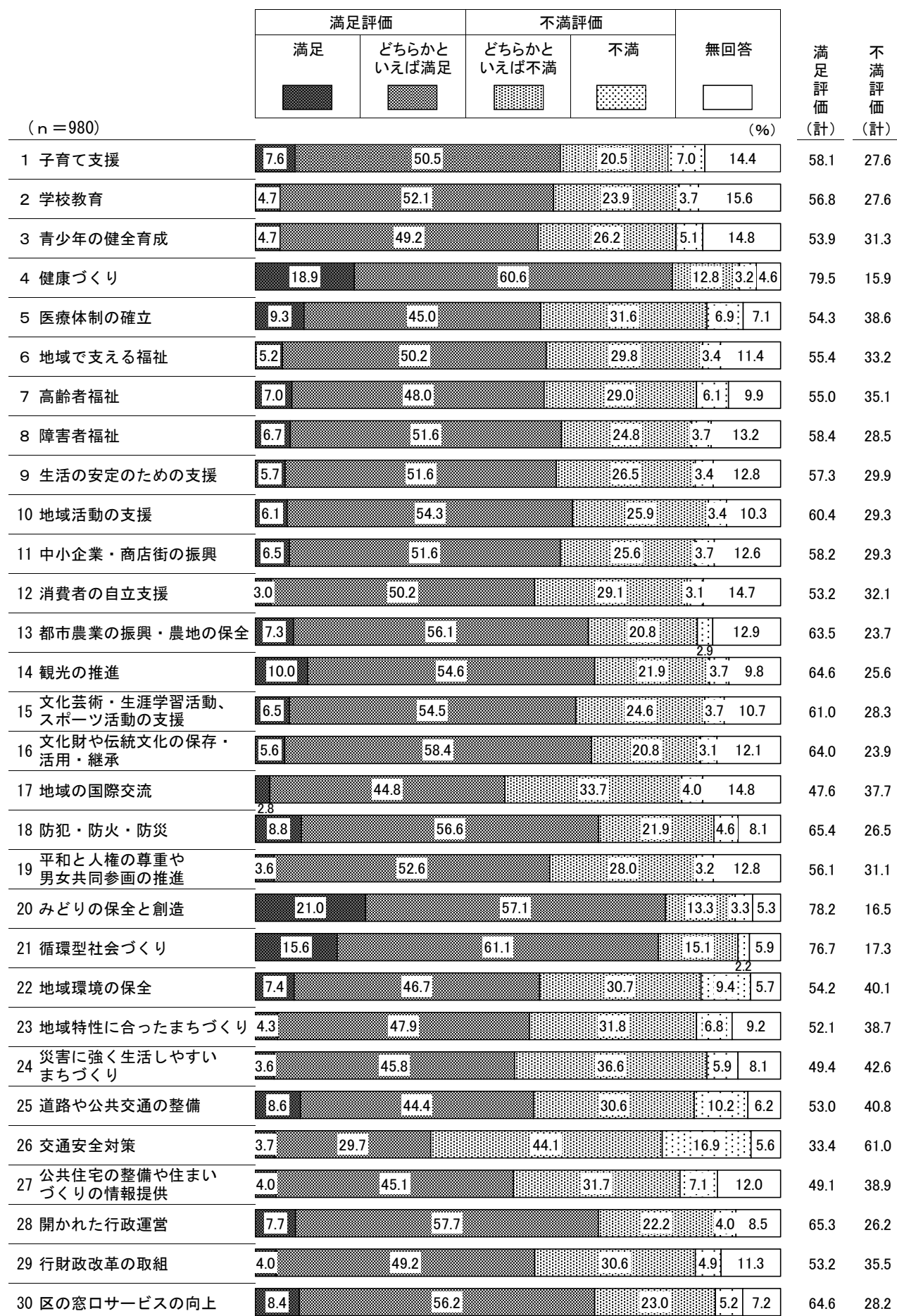
『満足評価』上位5項目

- ① 健康づくり (79.5%)
- ② みどりの保全と創造 (78.2%)
- ③ 循環型社会づくり (76.7%)
- ④ 防犯・防火・防災 (65.4%)
- ⑤ 開かれた行政運営 (65.3%)

『不満評価』上位5項目

- ① 交通安全対策 (61.0%)
- ② 災害に強く生活しやすいまちづくり (42.6%)
- ③ 道路や公共交通の整備 (40.8%)
- ④ 地域環境の保全 (40.1%)
- ⑤ 公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供 (38.9%)

図1-6-1 区施策への満足度



必要性

「とても必要」および「必要」の2項目を合わせた『必要性が高い評価』と、「どちらかといえば必要」および「あまり必要でない」の2項目を合わせた『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようにになっている。(図1-6-2)

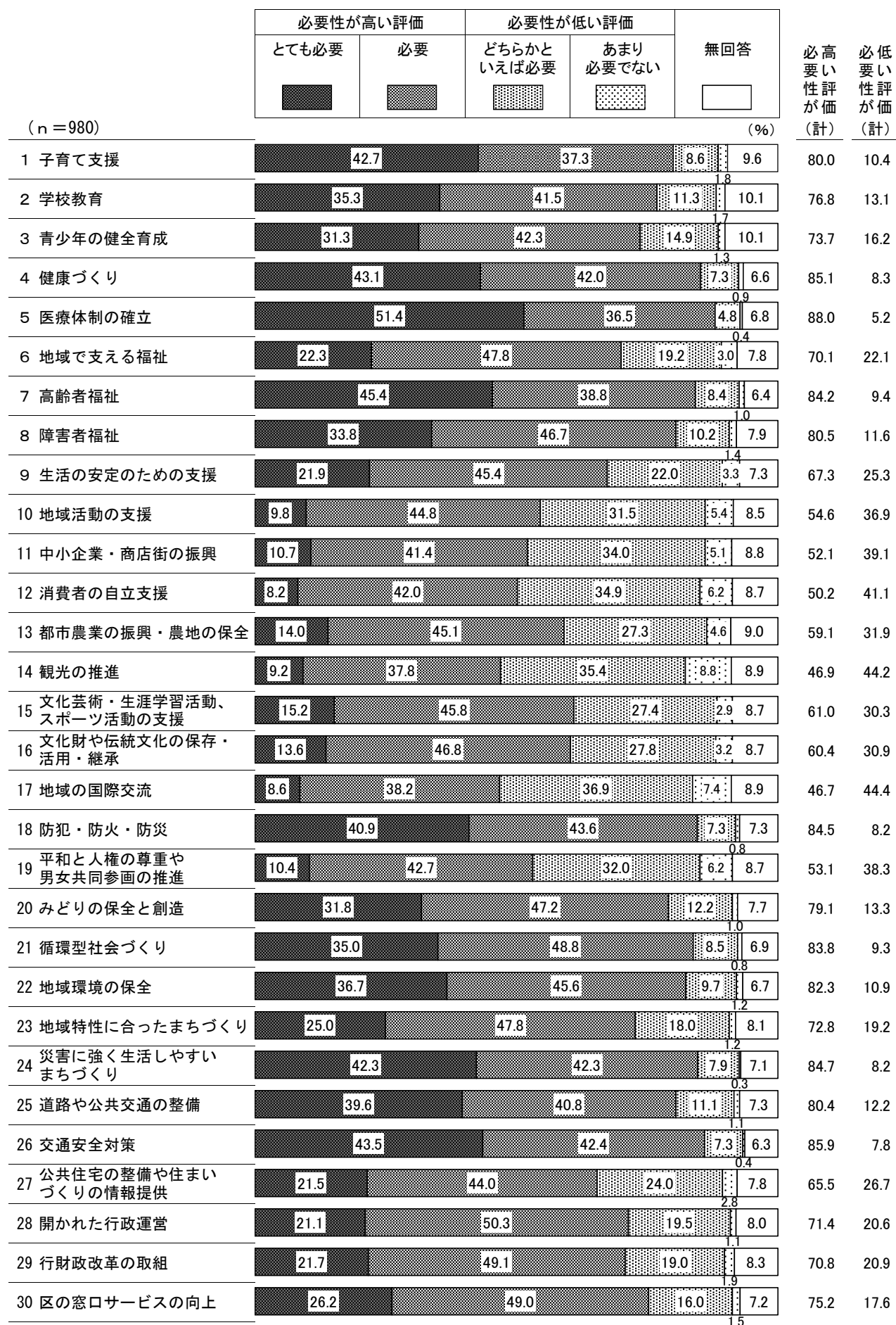
『必要性が高い評価』上位5項目

① 医療体制の確立	(88.0%)
② 交通安全対策	(85.9%)
③ 健康づくり	(85.1%)
④ 災害に強く生活しやすいまちづくり	(84.7%)
⑤ 防犯・防火・防災	(84.5%)

『必要性が低い評価』上位5項目

① 地域の国際交流	(44.4%)
② 観光の推進	(44.2%)
③ 消費者の自立支援	(41.1%)
④ 中小企業・商店街の振興	(39.1%)
⑤ 平和と人権の尊重や 男女共同参画の推進	(38.3%)

図1-6-2 区施策への必要性



加重平均値

満足度と必要性を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「満足」の回答者数} \times 2) + (\text{「どちらかといえば満足」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかといえば不満」の回答者数} \times -1) + (\text{「不満」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

$$\text{必要性評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「とても必要」の回答者数} \times 2) + (\text{「必要」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかといえば必要」の回答者数} \times -1) + (\text{「あまり必要でない」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

この計算方法では、評価点は+2.0点～-2.0点の間に分布し、中間点の0.0点を境に、+2.0点に近くなるほど満足度・必要性は高くなり、逆に、-2.0点に近くなるほど満足度・必要性が低くなる。

満足度と必要性の加重平均値の上位5項目と下位5項目は、以下のようになっている。

(表1-6-1)

『満足度評価点』上位5項目

① みどりの保全と創造	(0.84)
② 健康づくり	(0.83)
③ 循環型社会づくり	(0.77)
④ 都市農業の振興・農地の保全	(0.51)
⑤ 観光の推進	(0.50)

『満足度評価点』下位5項目

① 交通安全対策	(-0.43)
② 災害に強く生活しやすいまちづくり	(0.05)
③ 公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供	(0.08)
④ 地域の国際交流	(0.10)
⑤ 道路や公共交通の整備	(0.11)

『必要性評価点』上位5項目

① 医療体制の確立	(1.44)
② 交通安全対策	(1.29)
③ 災害に強く生活しやすいまちづくり	(1.28)
④ 健康づくり	(1.27)
④ 高齢者福祉	(1.27)

『必要性評価点』下位5項目

① 観光の推進	(0.03)
② 地域の国際交流	(0.04)
③ 消費者の自立支援	(0.12)
④ 中小企業・商店街の振興	(0.20)
⑤ 平和と人権の尊重や男女共同参画の推進	(0.21)

表1-6-1 区施策への満足度と必要性（加重平均値）－地区別

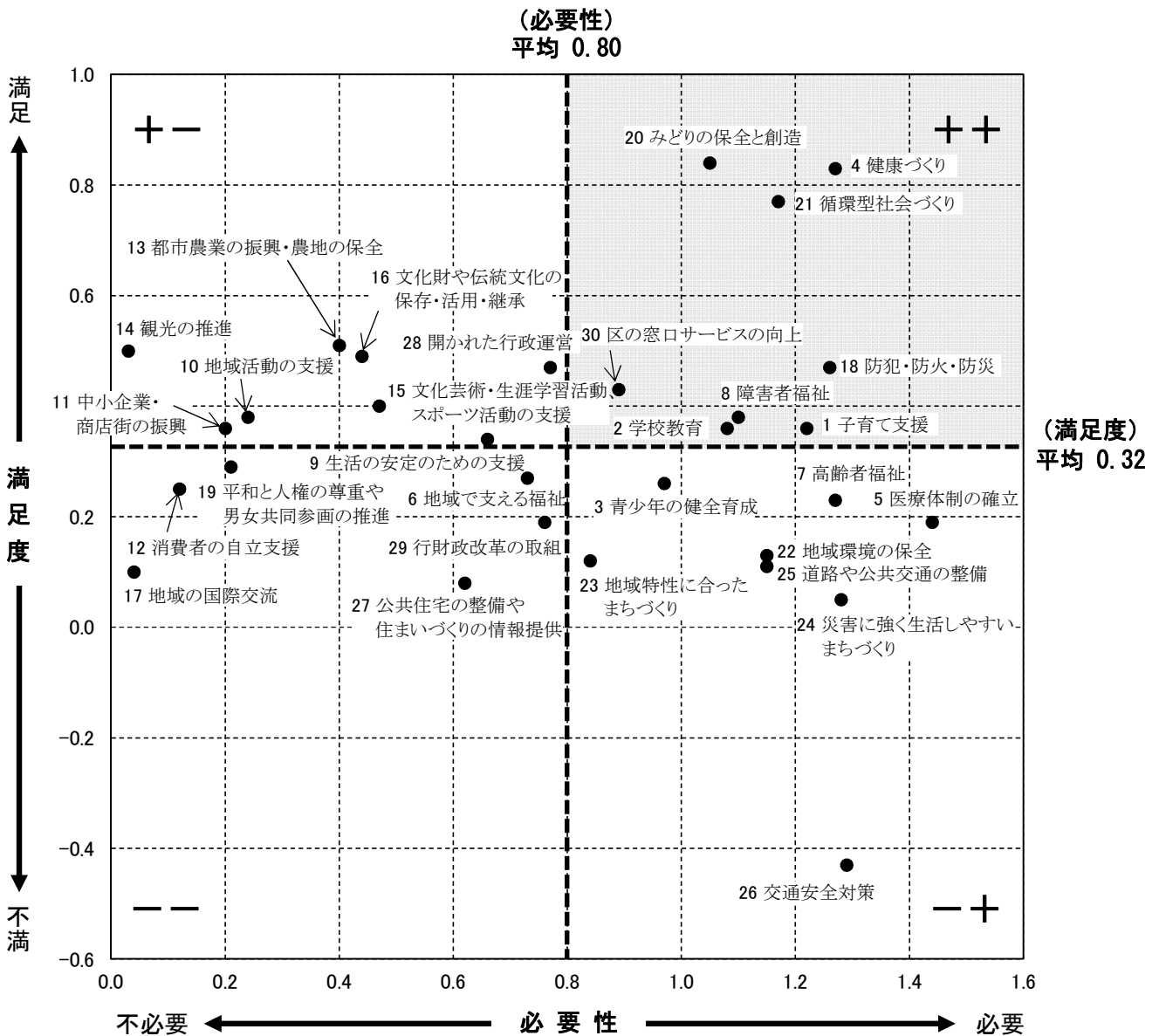
		満足度評価点					必要性評価点				
		区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区	区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区
子ども分野	1 子育て支援	0.36	0.25	0.32	0.46	0.45	1.22	1.15	1.28	1.15	1.27
	2 学校教育	0.36	0.31	0.45	0.35	0.34	1.08	0.99	1.11	1.04	1.16
	3 青少年の健全育成	0.26	0.21	0.32	0.26	0.28	0.97	0.95	1.03	0.93	0.99
健康・福祉分野	4 健康づくり	0.83	0.86	0.76	0.89	0.84	1.27	1.22	1.31	1.29	1.29
	5 医療体制の確立	0.19	0.20	0.19	0.19	0.22	1.44	1.35	1.44	1.51	1.46
	6 地域で支える福祉	0.27	0.30	0.30	0.28	0.20	0.73	0.71	0.79	0.72	0.69
	7 高齢者福祉	0.23	0.27	0.22	0.18	0.27	1.27	1.23	1.31	1.30	1.28
	8 障害者福祉	0.38	0.41	0.35	0.40	0.36	1.10	1.01	1.12	1.15	1.13
	9 生活の安定のための支援	0.34	0.38	0.29	0.33	0.37	0.66	0.64	0.59	0.78	0.64
区民生活・産業分野	10 地域活動の支援	0.38	0.35	0.29	0.48	0.40	0.24	0.08	0.21	0.19	0.41
	11 中小企業・商店街の振興	0.36	0.48	0.29	0.40	0.29	0.20	0.06	0.30	0.24	0.23
	12 消費者の自立支援	0.25	0.30	0.24	0.28	0.17	0.12	-0.03	0.25	0.16	0.08
	13 都市農業の振興・農地の保全	0.51	0.50	0.45	0.54	0.53	0.40	0.33	0.44	0.45	0.39
	14 観光の推進	0.50	0.57	0.40	0.56	0.52	0.03	0.06	0.03	0.04	0.04
	15 文化芸術・生涯学習活動、スポーツ活動の支援	0.40	0.36	0.37	0.43	0.44	0.47	0.42	0.54	0.36	0.50
	16 文化財や伝統文化の保存・活用・継承	0.49	0.41	0.53	0.57	0.44	0.44	0.44	0.53	0.37	0.40
	17 地域の国際交流	0.10	0.10	0.08	0.09	0.12	0.04	0.10	0.10	-0.02	-0.01
	18 防犯・防火・防災	0.47	0.44	0.39	0.49	0.56	1.26	1.21	1.36	1.20	1.25
19 平和と人権の尊重や男女共同参画の推進	0.29	0.28	0.28	0.26	0.33	0.21	0.21	0.29	0.17	0.16	
環境・まちづくり分野	20 みどりの保全と創造	0.84	0.56	0.89	0.84	0.99	1.05	1.02	1.09	0.98	1.08
	21 循環型社会づくり	0.77	0.60	0.85	0.71	0.87	1.17	1.10	1.17	1.17	1.22
	22 地域環境の保全	0.13	0.05	0.12	0.15	0.19	1.15	1.20	1.09	1.17	1.16
	23 地域特性に合ったまちづくり	0.12	0.09	0.06	0.04	0.24	0.84	0.76	0.91	0.87	0.84
	24 災害に強く生活しやすいまちづくり	0.05	-0.04	0.09	-0.05	0.16	1.28	1.31	1.27	1.26	1.28
	25 道路や公共交通の整備	0.11	0.44	0.02	-0.37	0.24	1.15	1.01	1.20	1.34	1.13
	26 交通安全対策	-0.43	-0.31	-0.51	-0.68	-0.32	1.29	1.25	1.25	1.44	1.28
	27 公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供	0.08	-0.01	0.10	0.12	0.08	0.62	0.69	0.53	0.63	0.69
行政運営分野	28 開かれた行政運営	0.47	0.48	0.49	0.45	0.44	0.77	0.75	0.85	0.72	0.74
	29 行財政改革の取組	0.19	0.18	0.28	0.08	0.16	0.76	0.75	0.76	0.71	0.80
	30 区の窓口サービスの向上	0.43	0.44	0.44	0.42	0.40	0.89	0.90	0.89	0.80	0.93

満足度と必要性の相関

満足度と必要性の相関を加重平均値でみると、下の図1-6-3のようになっている。
この相関図では、●の点が上に分布するほど満足度が高く、右に分布するほど必要性が高くなる。

さらに、満足度の平均（0.32点）および必要性の平均（0.80点）を相関図上に点線を引いて4つに分割し、平均より上位であるか下位であるかが明確になるように示した。

図1-6-3 区施策への満足度と必要性（加重平均値）の相関



これによると、満足度も必要性も高い（++：網かけ部分）のは、「健康づくり」、「みどりの保全と創造」、「循環型社会づくり」、「防犯・防火・防災」などである。

満足度が高いが必要性が低い（+-）のは、「都市農業の振興・農地の保全」、「環境の推進」などである。

満足度が低いが必要性が高い（-+）のは、「交通安全対策」が特に著しく、そのほかでは「災害に強く生活しやすいまちづくり」、「道路や公共交通の整備」、「地域環境の保全」、「医療体制の確立」などである。

満足度も必要性も低い（--）のは、「地域の国際交流」、「消費者の自立支援」、「公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供」などである。（図1-6-3）

満足度の区全体と地区別比較

【I地区（〒176）】

全体と比較して満足度が高いのは「道路や公共交通の整備」（+0.33点）、「中小企業・商店街の振興」、「交通安全対策」（ともに+0.12点）などである。

満足度が低いのは「みどりの保全と創造」（-0.28点）、「循環型社会づくり」（-0.17点）、「子育て支援」（-0.11点）などである。

（図1-6-4）

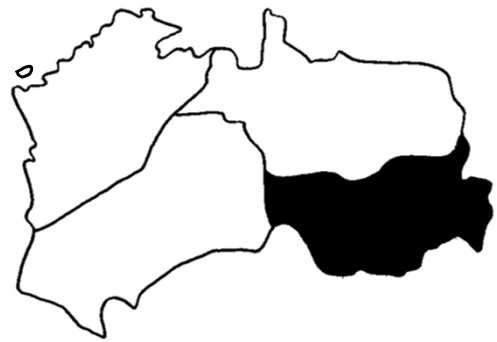
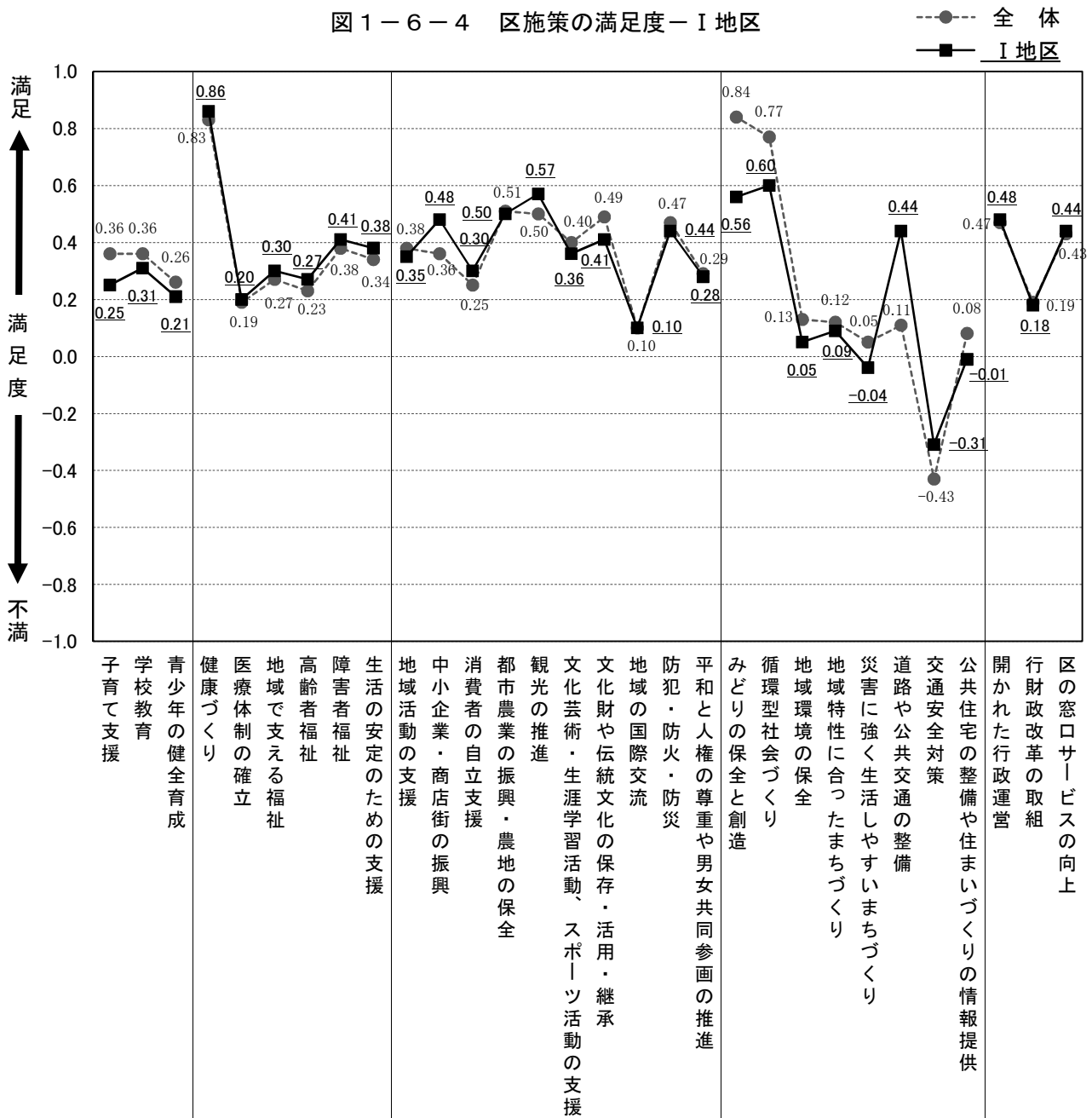


図1-6-4 区施策の満足度－I地区



【Ⅱ地区（〒177）】

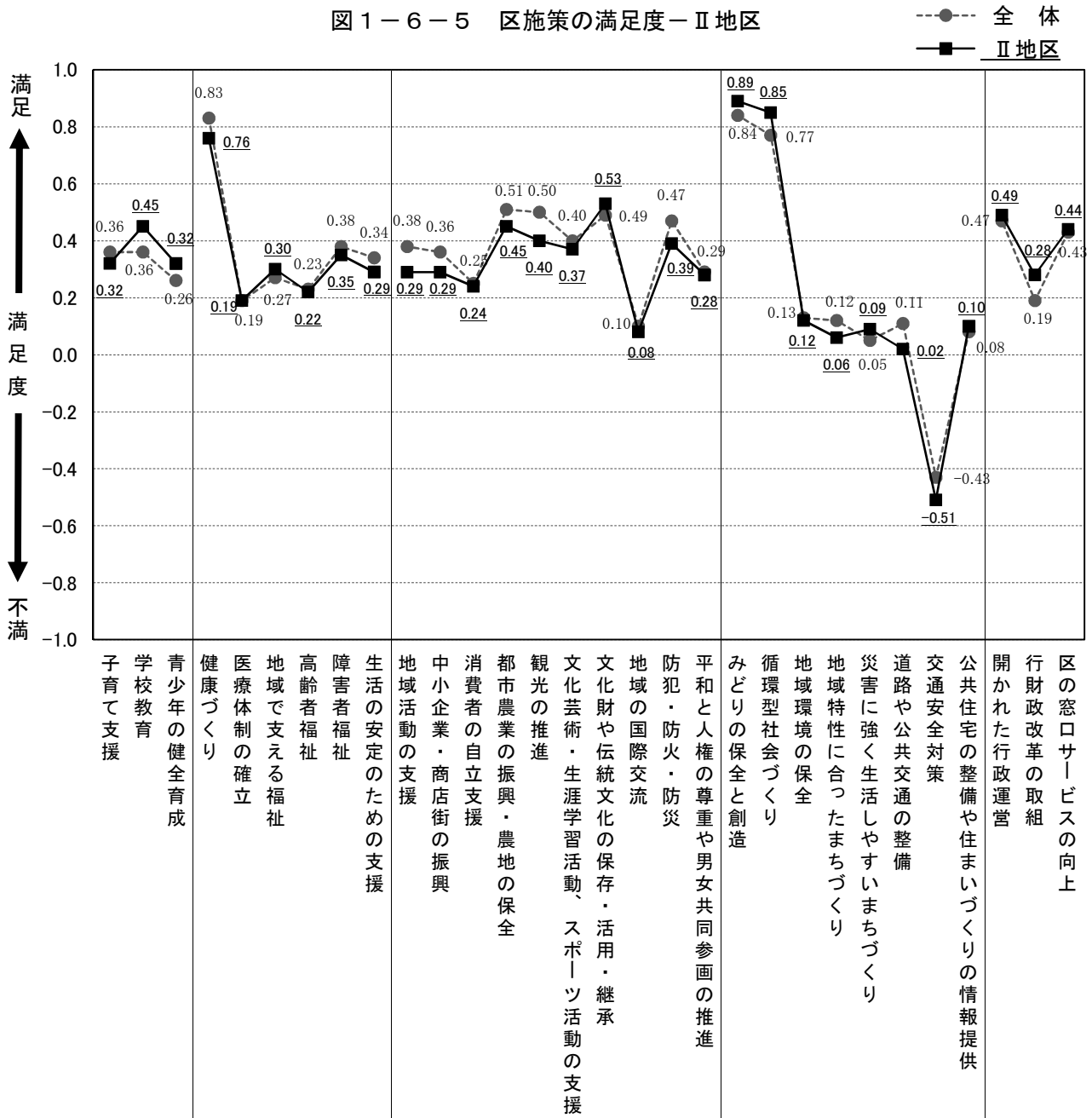
全体と比較して満足度が高いのは「学校教育」、「行財政改革の取組」（ともに+0.09点）、「循環型社会づくり」（+0.08点）などである。

満足度が低いのは「観光の推進」（-0.10点）、「地域活動の支援」、「道路や公共交通の整備」（ともに-0.09点）などである。

(図1-6-5)



図1-6-5 区施策の満足度－Ⅱ地区



【Ⅲ地区（〒178）】

全体と比較して満足度が高いのは「子育て支援」、「地域活動の支援」（ともに+0.10点）、「文化財や伝統文化の保存・活用・継承」（+0.08点）などである。

満足度が低いのは「道路や公共交通の整備」（-0.48点）、「交通安全対策」（-0.25点）、「行財政改革の取組」（-0.11点）などである。

（図1-6-6）

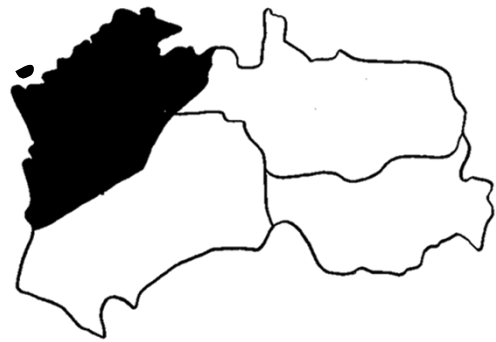
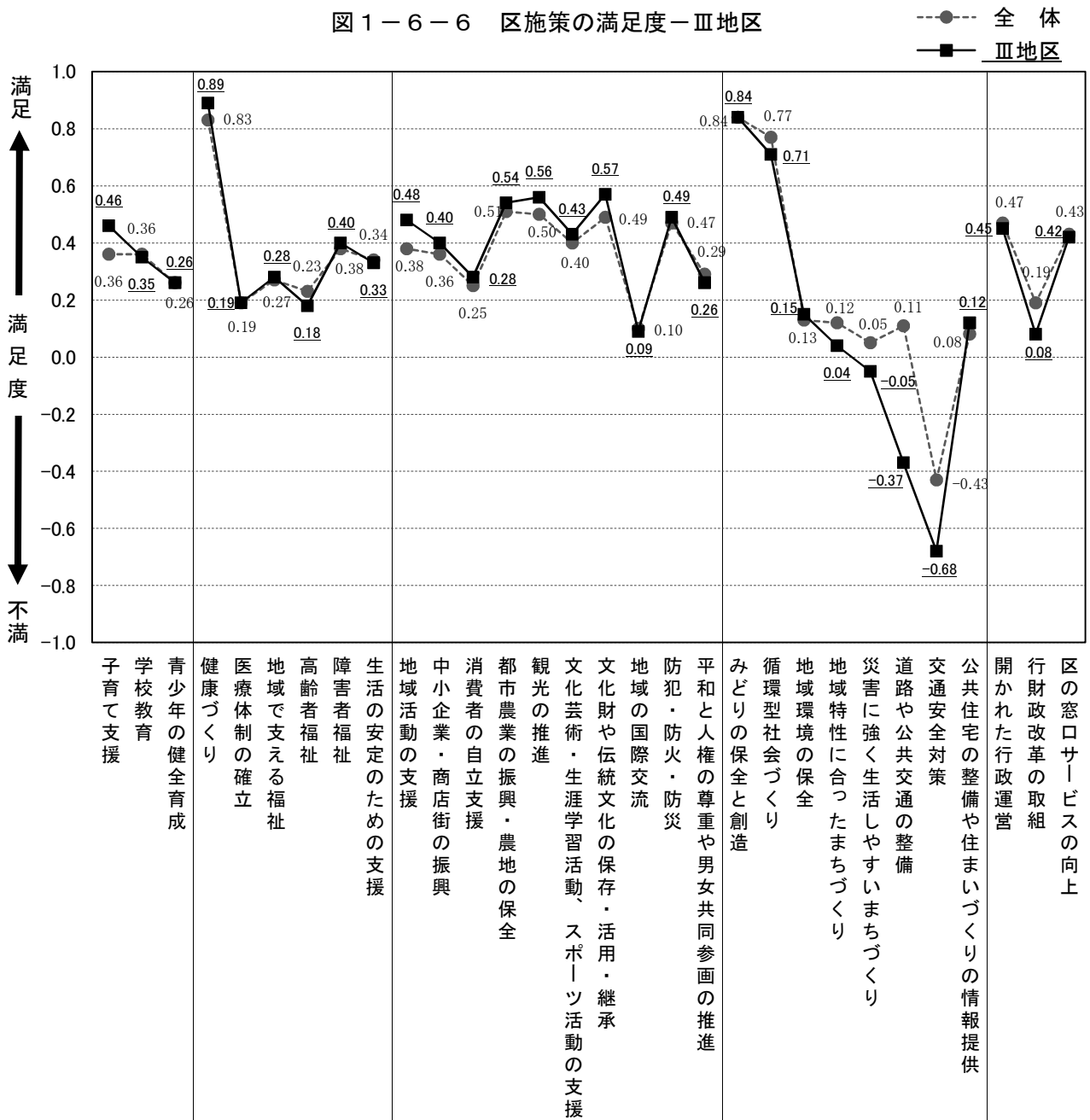


図1-6-6 区施策の満足度－Ⅲ地区



【IV地区（〒179）】

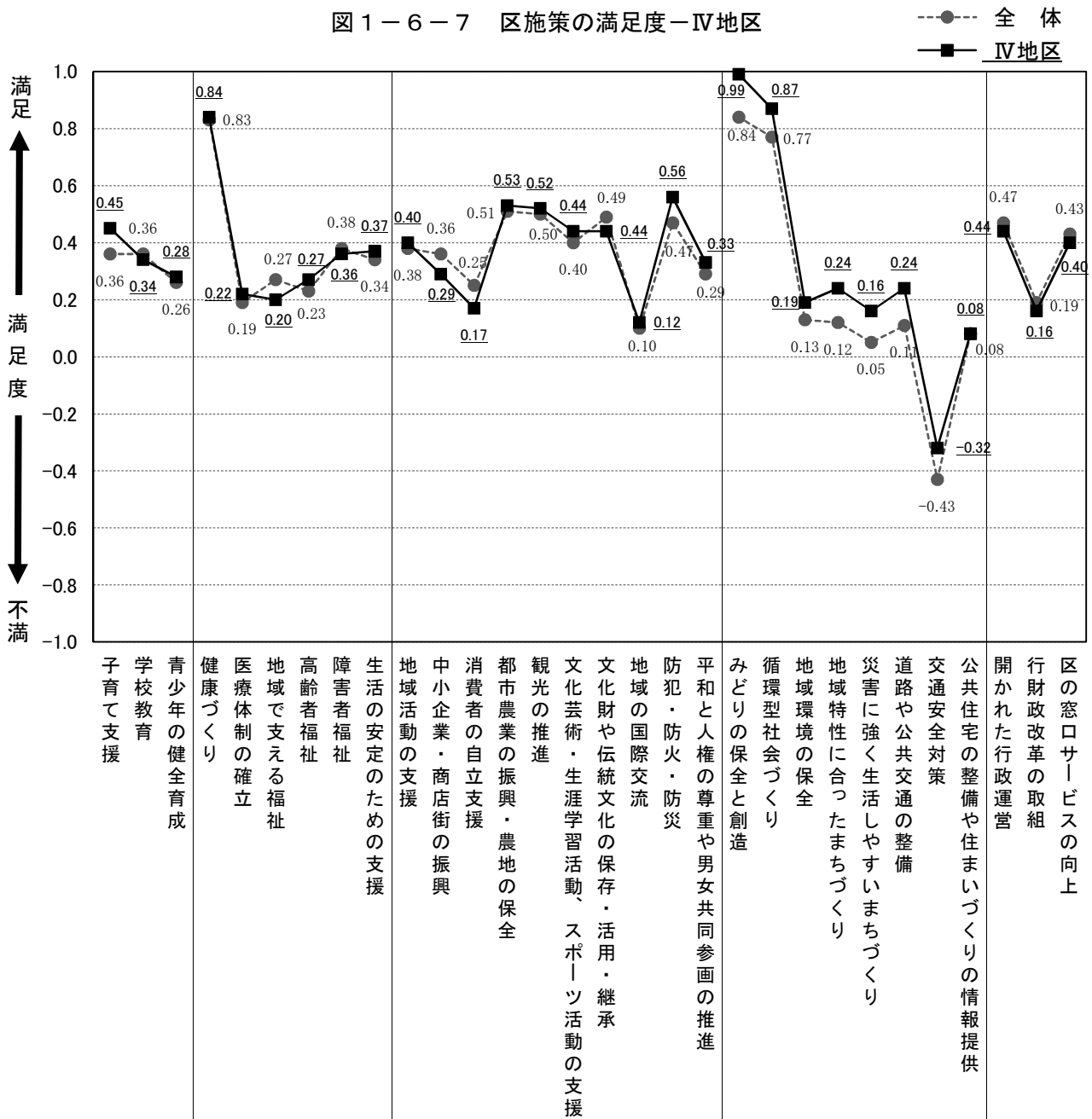
全体と比較して満足度が高いのは「みどりの保全と創造」（+0.15点）、「道路や公共交通の整備」（+0.13点）、「地域特性に合ったまちづくり」（+0.12点）などである。

満足度が低いのは「消費者の自立支援」（-0.08点）、「地域で支える福祉」、「中小企業・商店街の振興」（ともに-0.07点）などである。

（図1-6-7）



図1-6-7 区施策の満足度－IV地区

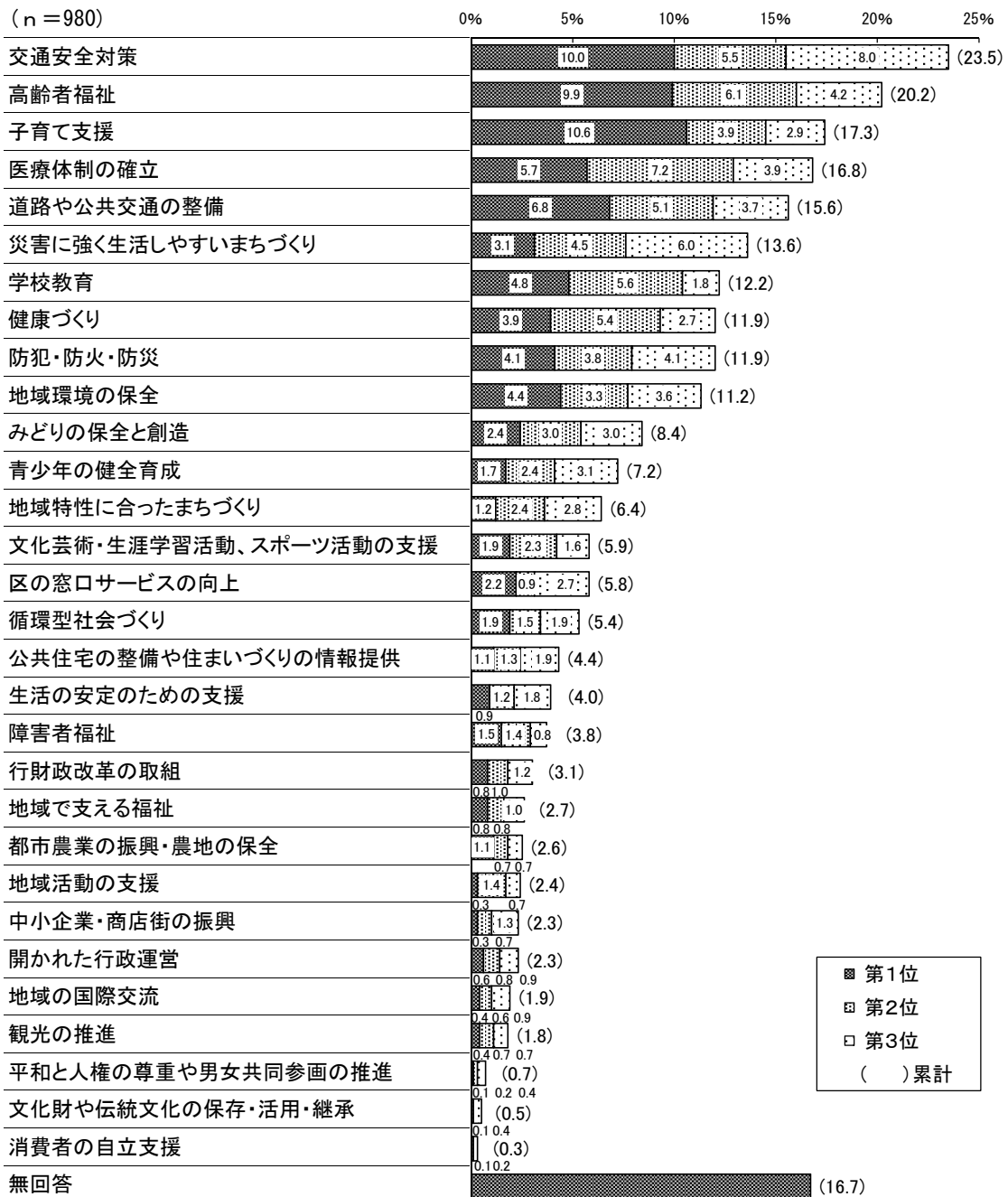


(7) 施策への要望

◇「交通安全対策」が2割半ば、「高齢者福祉」が2割

問7 問6の施策1～30の中で、あなたが特に力を入れてほしいと思うものを、第1位、第2位、第3位と順位をつけて、その番号を下の該当する欄に記入してください。

図1-7-1 施策への要望



特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。第1位から第3位までの累計をみると、「交通安全対策」(23.5%)が最も多く、次いで「高齢者福祉」(20.2%)、「子育て支援」(17.3%)、「医療体制の確立」(16.8%)、「道路や公共交通の整備」(15.6%)などの順となっている。(図1-7-1)

表 1-7-1 施策への要望一過年度比較

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
平成26年度	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	医療体制の確立	道路や公共交通の整備
平成25年度	医療体制の確立	高齢者福祉	防犯・防火・防災	交通安全対策	子育て支援
平成24年度	防犯・防火・防災	交通安全対策	災害に強く生活しやすいまちづくり	子育て支援	医療体制の確立
平成23年度	子育て支援	防犯・防火・防災	災害に強く生活しやすいまちづくり	医療体制の確立	高齢者福祉
平成22年度	医療体制の確立	高齢者福祉	子育て支援	交通安全対策	防犯・防火・防災
平成21年度	高齢者福祉	子育て支援	防犯・防火・防災	交通安全対策	生活しやすいまちづくり
平成20年度	高齢者福祉	防犯・防火・防災	交通安全対策	子育て支援	学校教育
平成19年度	防犯・防火・防災	高齢者福祉	交通安全対策	生活しやすいまちづくり	子育て支援
平成18年度	防犯・防火・防災	高齢者福祉	交通安全対策	子育て支援	学校教育
平成17年度	安全・安心なまちづくり(防犯・防災)	高齢者福祉	学校教育	道路等の整備	児童福祉・子育て支援

過去の調査と比較すると、前回調査（平成25年度）で第4位だった「交通安全対策」が今回調査で第1位となり、「高齢者福祉」が前回調査（平成25年度）と変わらず第2位となっている。「子育て支援」と「医療体制の確立」はともに前回調査（平成25年度）と変わらず5位以内に入っている。また、前回調査（平成25年度）で第7位だった「道路や公共交通の整備」が今回調査で第5位となった。平成17年度から前回（平成25年度）まで継続的に5位以内に入っていた「防犯・防火・防災」（平成17年度は「安全・安心なまちづくり（防犯・防災）」）は、今回調査では第8位となっている。（表1-7-1）

表 1-7-2 施策への要望—地区別／性別／性・年齢別

(%)

		AA (50%以上)	A (40~50%未満)	B (30~40%未満)	C (20~30%未満)
全 体					・交通安全対策 23.5 ・高齢者福祉 20.2
地区別	I 地区 (〒176)				・交通安全対策 21.6 ・子育て支援 20.6
	II 地区 (〒177)				・交通安全対策 23.6 ・高齢者福祉 21.0
	III 地区 (〒178)			・交通安全対策 31.0	・道路や公共交通の整備 28.9
	IV 地区 (〒178)				・高齢者福祉 22.9
性別	男 性				・交通安全対策 21.4
	女 性				・交通安全対策 24.9 ・高齢者福祉 22.4
性・年齢別	男 性	20 歳代		・道路や公共交通の整備 32.0	・子育て支援 20.0 ・みどりの保全と創造 20.0 ・災害に強く生活しやすいまちづくり 20.0 ・交通安全対策 20.0
		30 歳代		・子育て支援 32.1	・道路や公共交通の整備 22.6 ・災害に強く生活しやすいまちづくり 20.8
		40 歳代		・交通安全対策 33.3	・学校教育 29.6 ・子育て支援 27.2
		50 歳代			・医療体制の確立 20.5 ・高齢者福祉 20.5 ・交通安全対策 20.5
		60 歳代			・高齢者福祉 23.1 ・交通安全対策 21.5
		70歳以上			・高齢者福祉 26.7
		女 性	20 歳代		
	30 歳代			・子育て支援 39.3	・交通安全対策 23.8 ・健康づくり 20.2
	40 歳代				・交通安全対策 28.9 ・学校教育 21.9 ・道路や公共交通の整備 21.1 ・医療体制の確立 20.3
	50 歳代			・交通安全対策 32.7	・高齢者福祉 27.9 ・医療体制の確立 24.0 ・災害に強く生活しやすいまちづくり 20.2
	60 歳代			・高齢者福祉 31.1	・交通安全対策 23.3 ・医療体制の確立 21.1
	70歳以上			・高齢者福祉 30.4	

次に、要望の大きさを、比率に応じてAA（50%以上）、A（40～50%未満）、B（30～40%未満）、C（20～30%未満）の4つのランクに分けて、地区別、性別、性・年齢別に分類した。その結果が表1-7-2である。

地区別にみると、各地区ともにAAランク、Aランクに入る施策はない。

Bランク以下をみると、「交通安全対策」がⅢ地区（〒178）でBランク、地区1（〒176）及びⅡ地区（〒177）でCランクとなっている。

性別にみると、男女ともAAランク、Aランク、Bランクに入る施策はない。

「交通安全対策」は男女ともにCランクとなっている。

性・年齢別にみると、各属性ともにAAランク、Aランクに入る施策はない。

「交通安全対策」は男性40歳代、女性50歳代でBランク、男性20歳代、50歳代、60歳代、女性20歳代から40歳代、60歳代でCランクとなっている。

「子育て支援」は男女ともに30歳代でBランク、20歳代でCランク、男性は40歳代もCランクとなっている。

「学校教育」は男女ともに40歳代でCランクとなっている。

「高齢者福祉」は男女ともに50歳代以上のすべての年代でBランクまたはCランクとなっており、特に女性60歳代、70歳以上でBランクとなっている。

「医療体制の確立」は男性50歳代、女性40歳から60歳代でCランクとなっている。

このほか、「道路や公共交通の整備」は男性20歳代でBランク、男性30歳代、女性40歳代でBランクとなっている。（表1-7-2）

練馬区の住みごころ（問2・59ページ参照）の評価は、30項目の区施策への満足度（問6・82～84ページ参照）および施策への要望（問7・94ページ参照）とどのような関係があるのかをみる。

練馬区が「住みよい」と答えた方（340人）の区政策への満足度（問6）をみると、「満足」および「どちらかといえば満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかといえば不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-7-2）

《練馬区が「住みよい」と答えた方》

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
① 健康づくり	(88.2%)	① 交通安全対策	(47.6%)
② みどりの保全と創造	(85.0%)	② 公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供	(30.3%)
③ 循環型社会づくり	(82.1%)	③ 災害に強く生活しやすいまちづくり	(30.0%)
④ 区の窓口サービスの向上	(77.1%)	④ 道路や公共交通の整備	(30.0%)
⑤ 開かれた行政運営	(75.9%)	⑤ 医療体制の確立	(29.7%)

図 1-7-2 練馬区の住みごこちが「住みよい」と答えた方の区施策への満足度

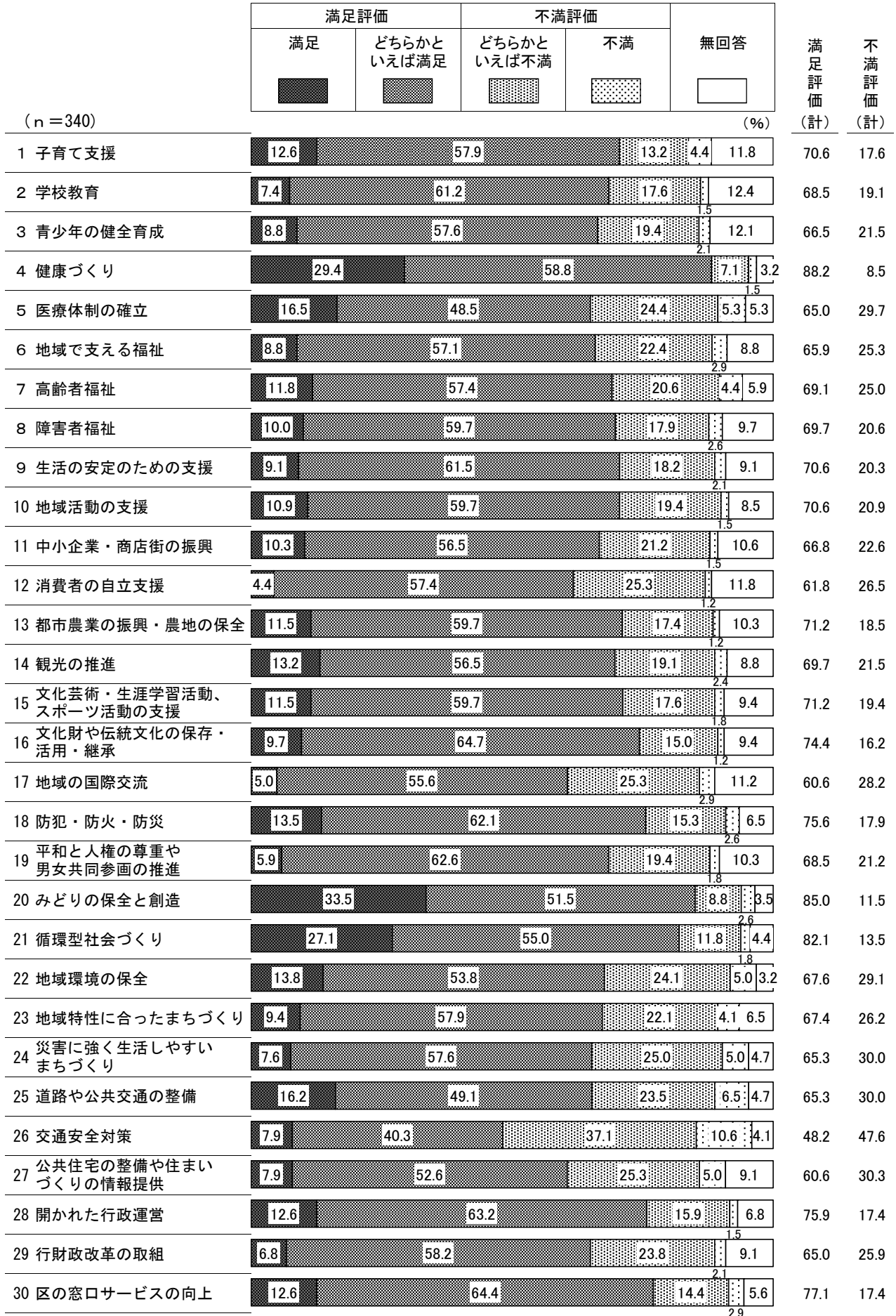
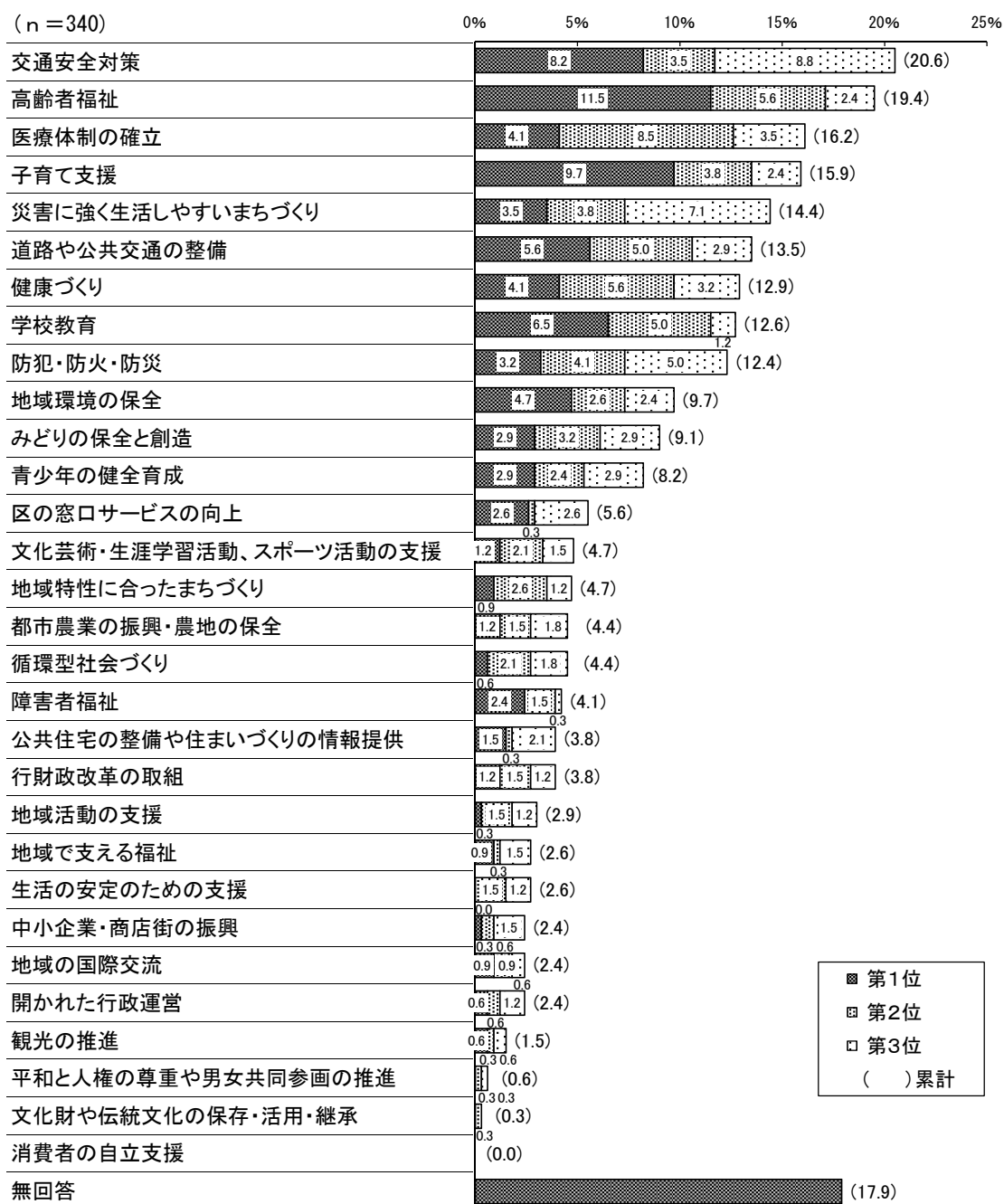


図 1-7-3 練馬区の住みごちが「住みよい」と答えた方の施策への要望



練馬区が「住みよい」と答えた方（340人）の施策への要望（問7）をみると、第1位から第3位までの累計は、「交通安全対策」（20.6%）、「高齢者福祉」（19.4%）の2項目がほぼ2割と多く、次いで「医療体制の確立」（16.2%）、「子育て支援」（15.9%）、「災害に強く生活しやすいまちづくり」（14.4%）などの順となっている。（図1-7-3）

次に、練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方（50人）の区政策への満足度（問6）をみると、『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-7-4）

《練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方》

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
① 循環型社会づくり	(72.0%)	① 交通安全対策	(78.0%)
② みどりの保全と創造	(66.0%)	② 道路や公共交通の整備	(64.0%)
③ 健康づくり	(52.0%)	③ 医療体制の確立	(60.0%)
③ 都市農業の振興・農地の保全	(52.0%)	③ 地域活動の支援	(60.0%)
⑤ 観光の推進	(50.0%)	⑤ 地域環境の保全	(58.0%)
⑤ 文化芸術・生涯学習活動、 スポーツ活動の支援	(50.0%)	⑤ 地域特性に合ったまちづくり	(58.0%)
		⑤ 行財政改革の取組	(58.0%)

図1-7-4 練馬区の住みごちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の区施策への満足度

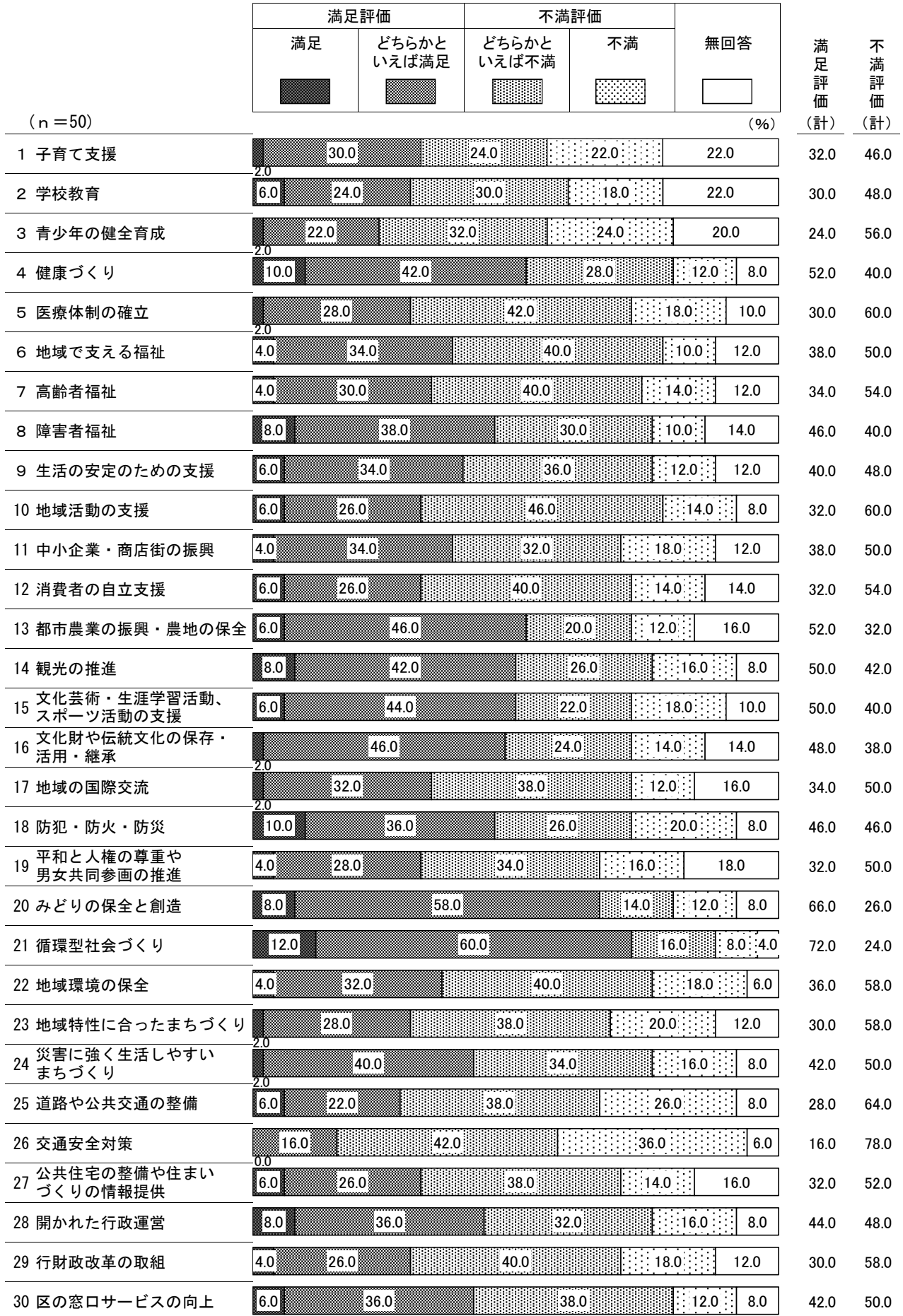
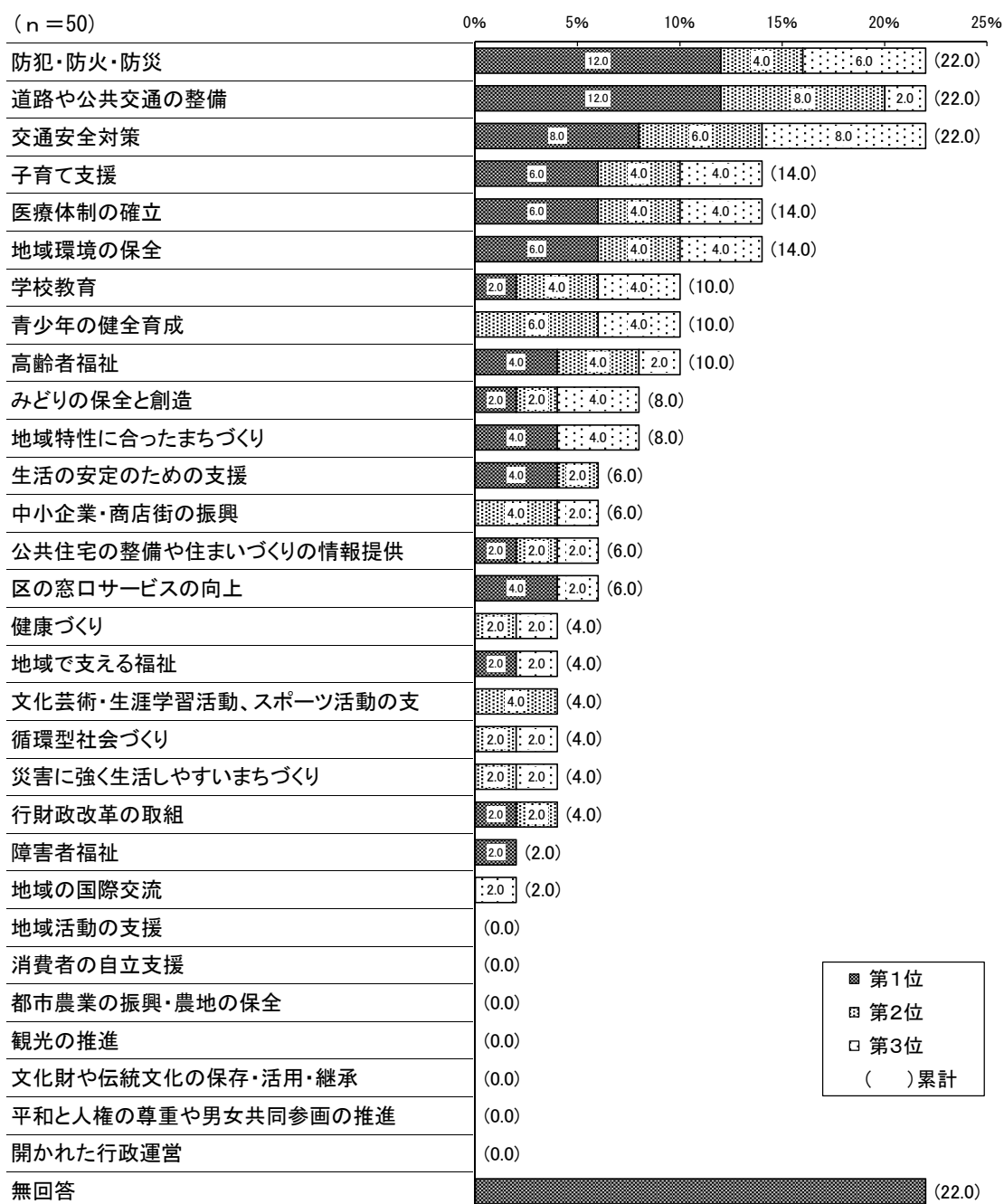


図1-7-5 練馬区の住みごちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の施策への要望



練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方(50人)の施策への要望(問7)をみると、第1位から第3位までの累計は、「防犯・防火・防災」、「道路や公共交通の整備」、「交通安全対策」(いずれも22.0%)がほぼ2割と最も多く、「子育て支援」、「医療体制の確立」、「地域環境の保全」(いずれも14.0%)などの順となっている。

(図1-7-5)

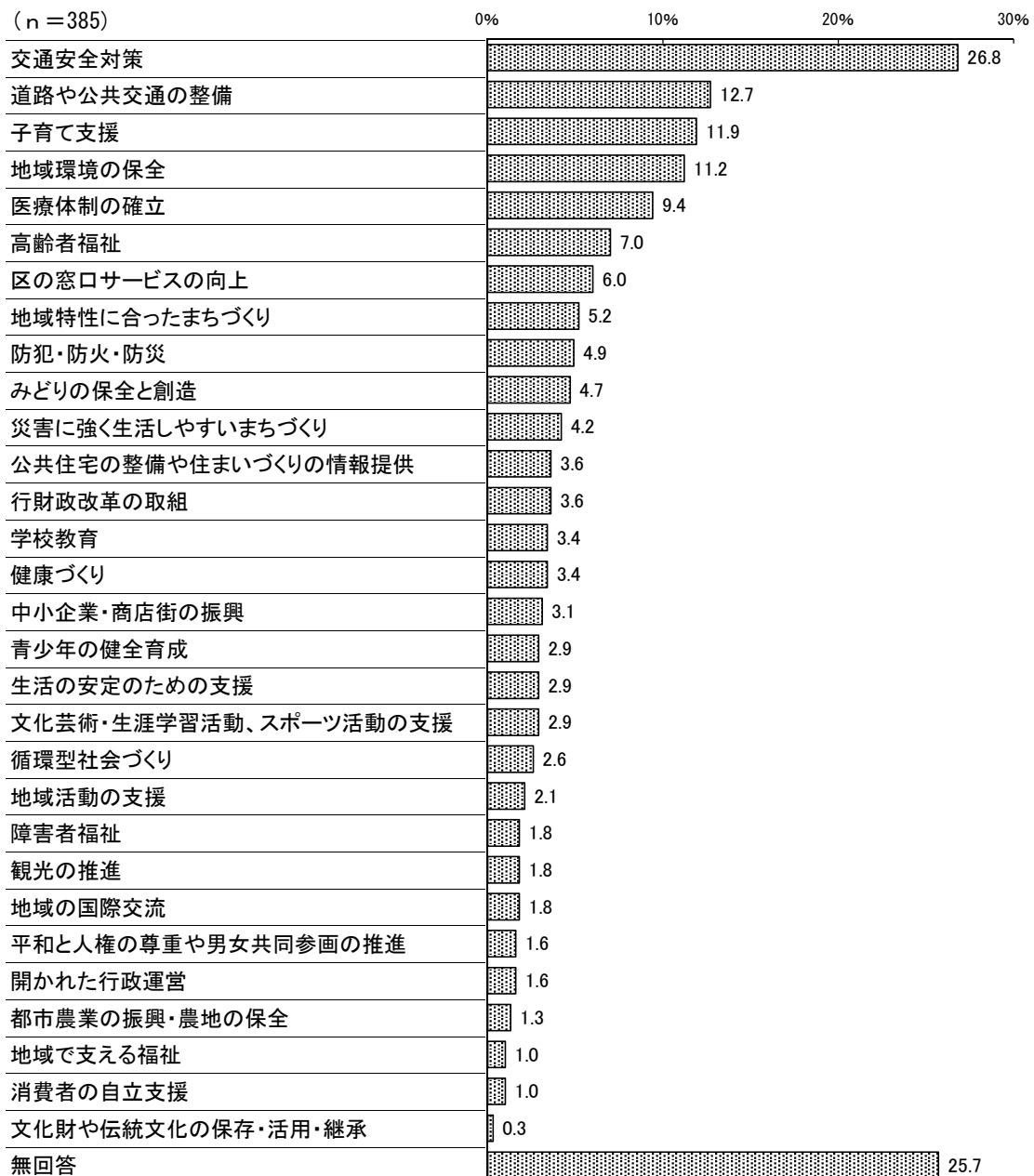
(8) 特に「不満」と思う施策

◇「交通安全対策」が2割半ば

(問6の1～30いずれかで「4. 不満」と答えた方へ)

問8 問6の施策1～30に対する満足度について、「4. 不満」とお答えになったもののうち、あなたが特に“不満”と思うものはどれでしょうか。番号を3つまで選んでください。(3つまで)

図1-8-1 「不満」と思う施策



区政策への満足度(問6)30項目のいずれかで「4. 不満」と回答した方(385人)に特に不満と思うものを聞いたところ、「交通安全対策」(26.8%)が2割半ばと最も多く、「道路や公共交通の整備」(12.7%)、「子育て支援」(11.9%)、「地域環境の保全」(11.2%)などの順となっている。(図1-8-1)

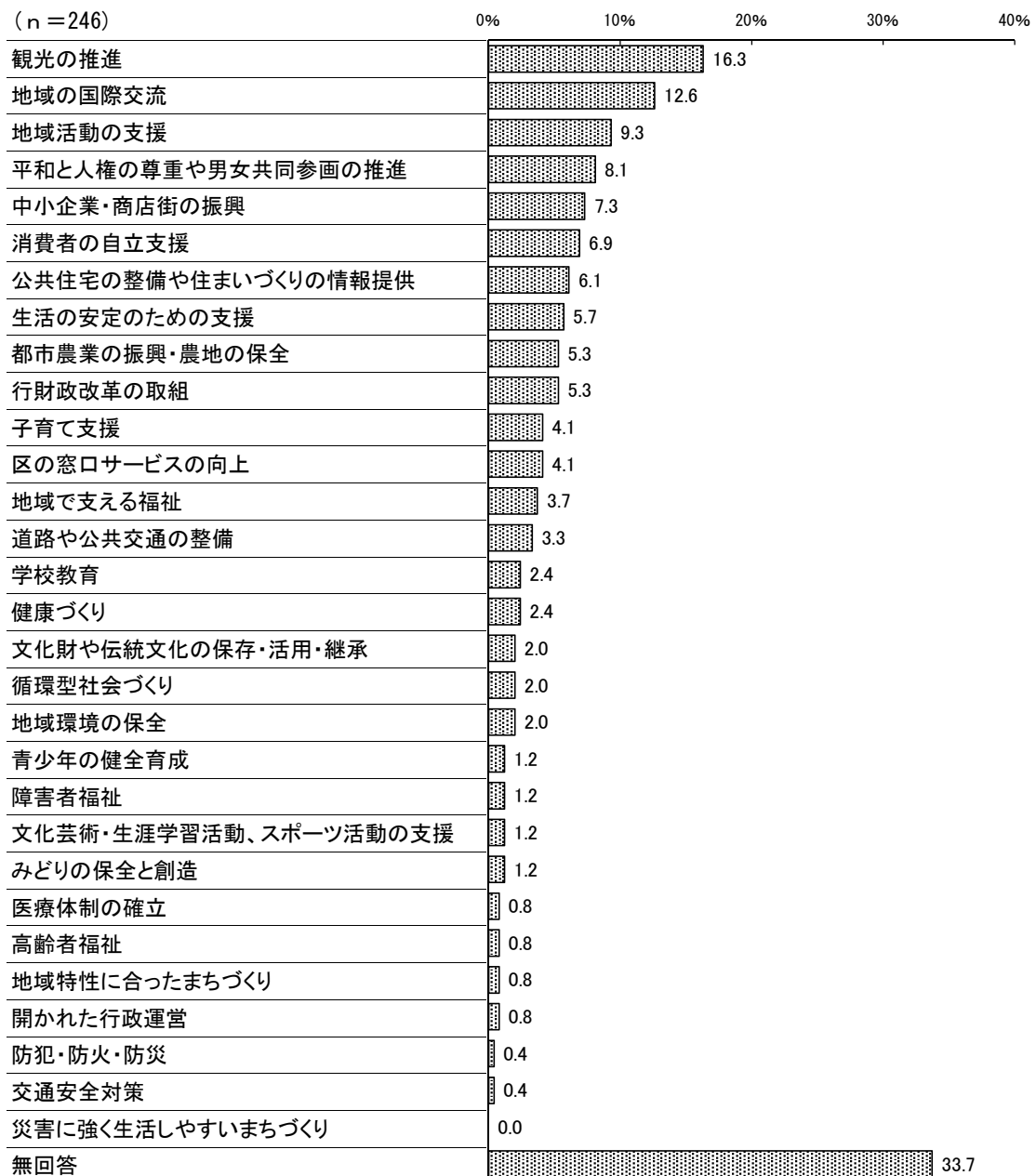
(9) 特に「あまり必要ない」と思う施策

◇「観光の推進」が1割半ば、「地域の国際交流」が1割強

(問9の1～30いずれかで「4. あまり必要ない」と答えた方へ)

問10 問9の区の施策1～30に対する必要度について、「4. あまり必要でない」とお答えになったもののうち、あなたが特に“あまり必要ない”と思うものはどれでしょうか。番号を3つまで選んでください。(3つまで)

図1-9-1 「あまり必要ない」と思う施策



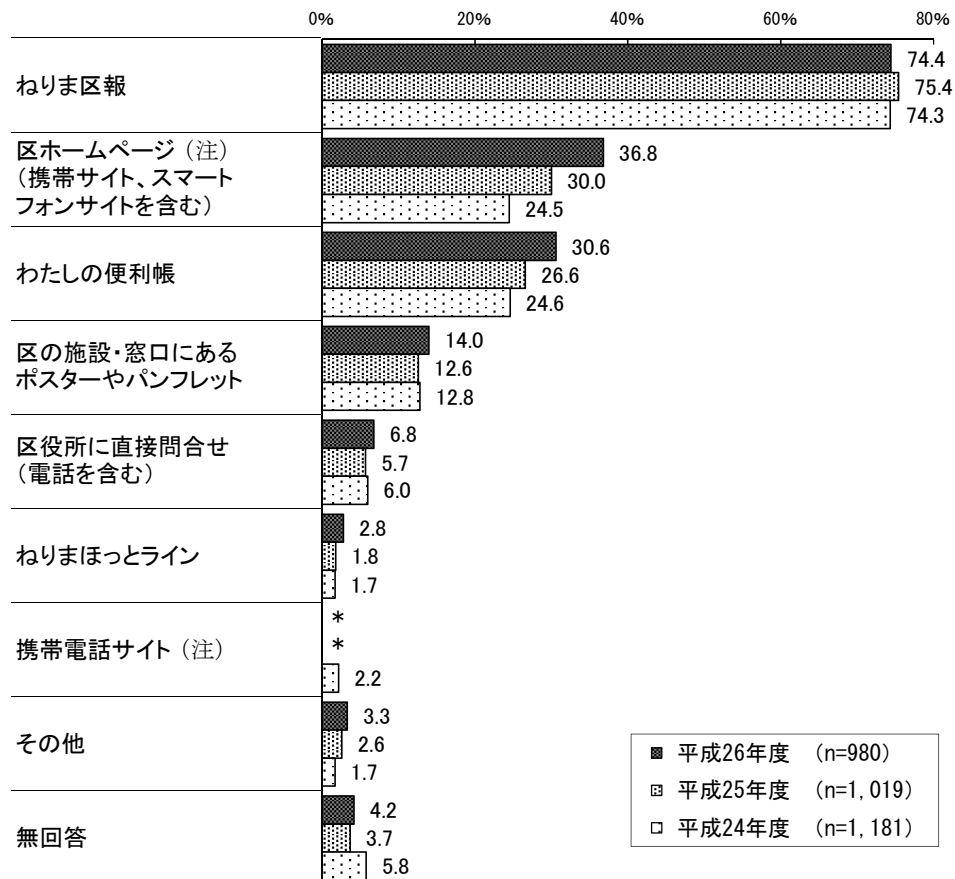
区政策への必要性(問9)30項目のいずれかで「4. あまり必要でない」と回答した方(246人)に特にあまり必要ないと思うものを聞いたところ、「観光の推進」(16.3%)が1割半ばと最も多く、「地域の国際交流」(12.6%)、「地域活動の支援」(9.3%)、「平和と人権の尊重や男女共同参画の推進」(8.1%)などの順となっている。(図1-9-1)

(10) 区政情報の入手先

◇「ねりま区報」が7割半ば

問11 あなたは、区政の情報を主に何から入手していますか。
次の中から2つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。（2つまで）

図1-10-1 区政情報の入手先

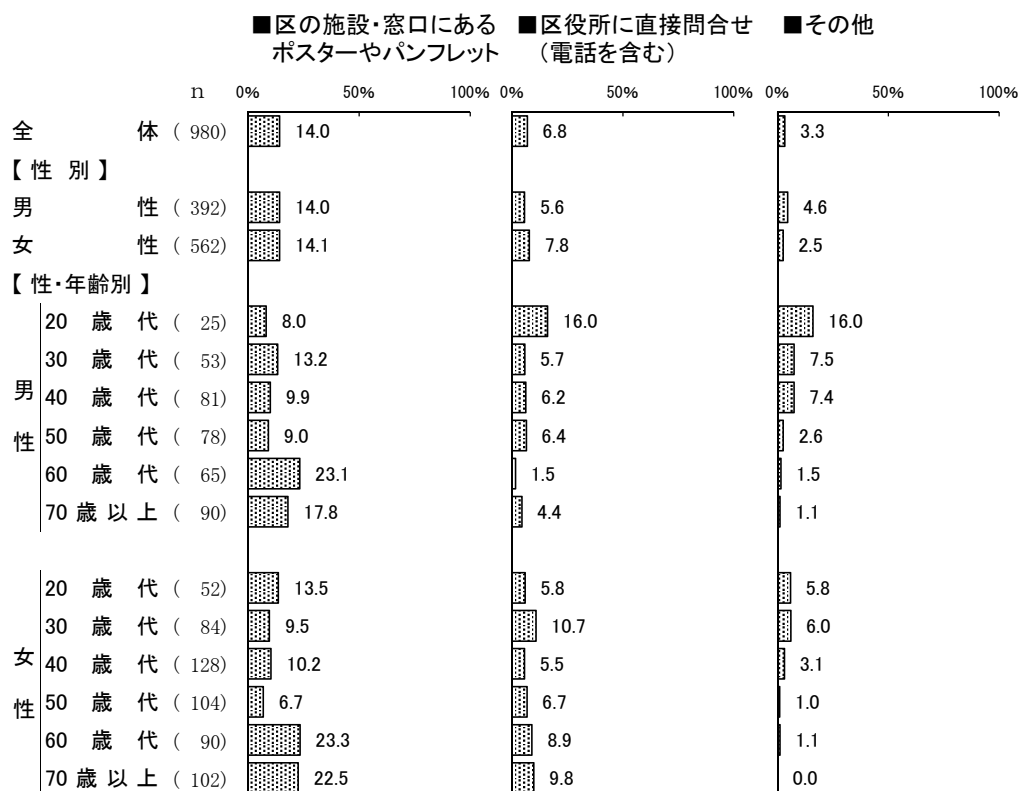
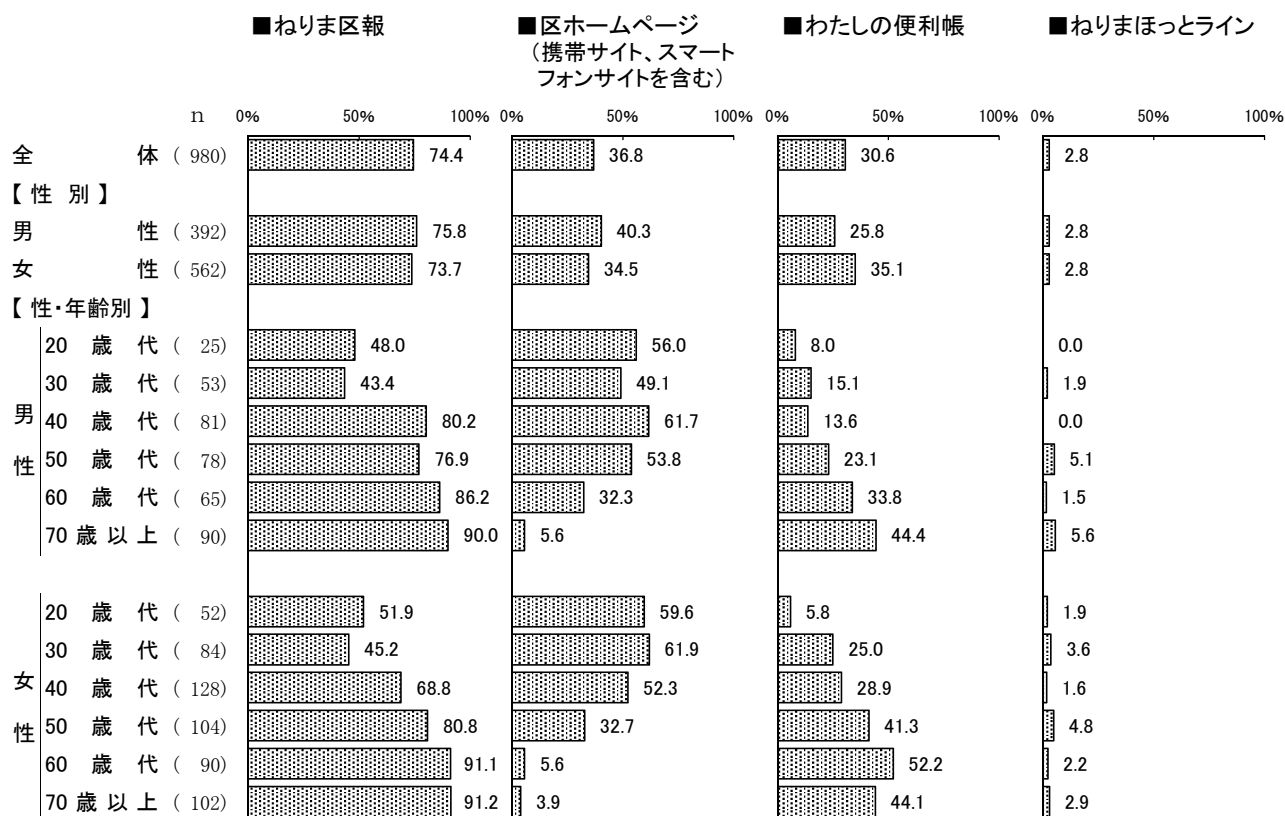


(注) * : 「区ホームページ(携帯サイト、スマートフォンサイトを含む)」の選択肢は、平成24年度以前は「区ホームページ」と「携帯電話サイト」の2つの選択肢としていた。

区政の情報を主に何から得ているか聞いたところ、「ねりま区報」(74.4%)が7割半ばと最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイト、スマートフォンサイトを含む)」(36.8%)、「わたしの便利帳」(30.6%)、「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」(14.0%)、「区役所に直接問合せ(電話を含む)」(6.8%)などの順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「区ホームページ(携帯サイト、スマートフォンサイトを含む)」(平成24年度は選択肢が異なる)は増加傾向にあり、前回調査(平成25年度)より6.8ポイント増加している。「わたしの便利帳」も増加傾向にあり、前回調査(平成25年度)より4.0ポイント増加している。(図1-10-1)

図1-10-2 区政情報の入手先—性別／性・年齢別



性別にみると、「区ホームページ」は男性の方が5.8ポイント、「わたしの便利帳」は女性の方が9.3ポイント高くなっている。

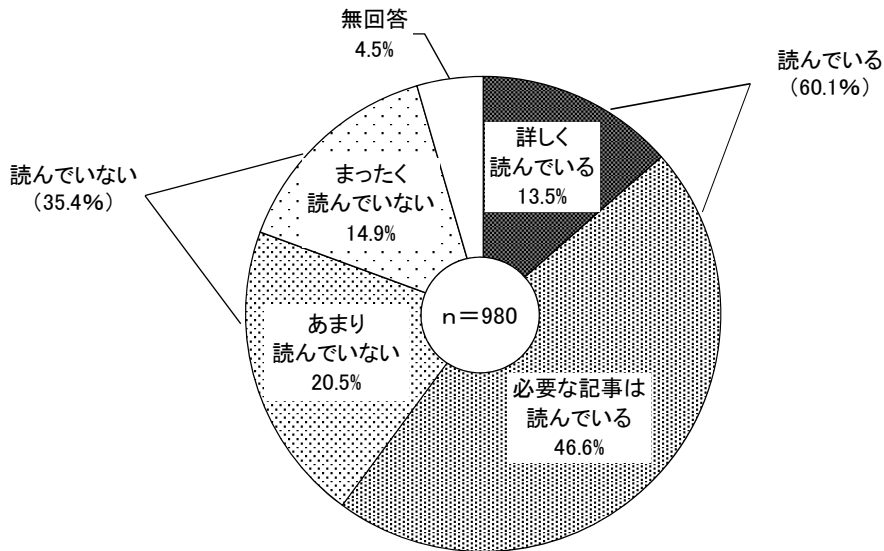
性・年齢別にみると、「ねりま区報」や「わたしの便利帳」は男女ともに年代ほど多い傾向となっており、「ねりま区報」については男女ともに30歳代までと40歳代以降とで差が開いている。一方、「区ホームページ」は低い年代ほど多い傾向となっている。(図1-10-2)

(11) 『ねりま区報』の閲読度

◇『読んでいる』は6割

問12 あなたは、『ねりま区報』をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

図1-11-1 『ねりま区報』の閲読度



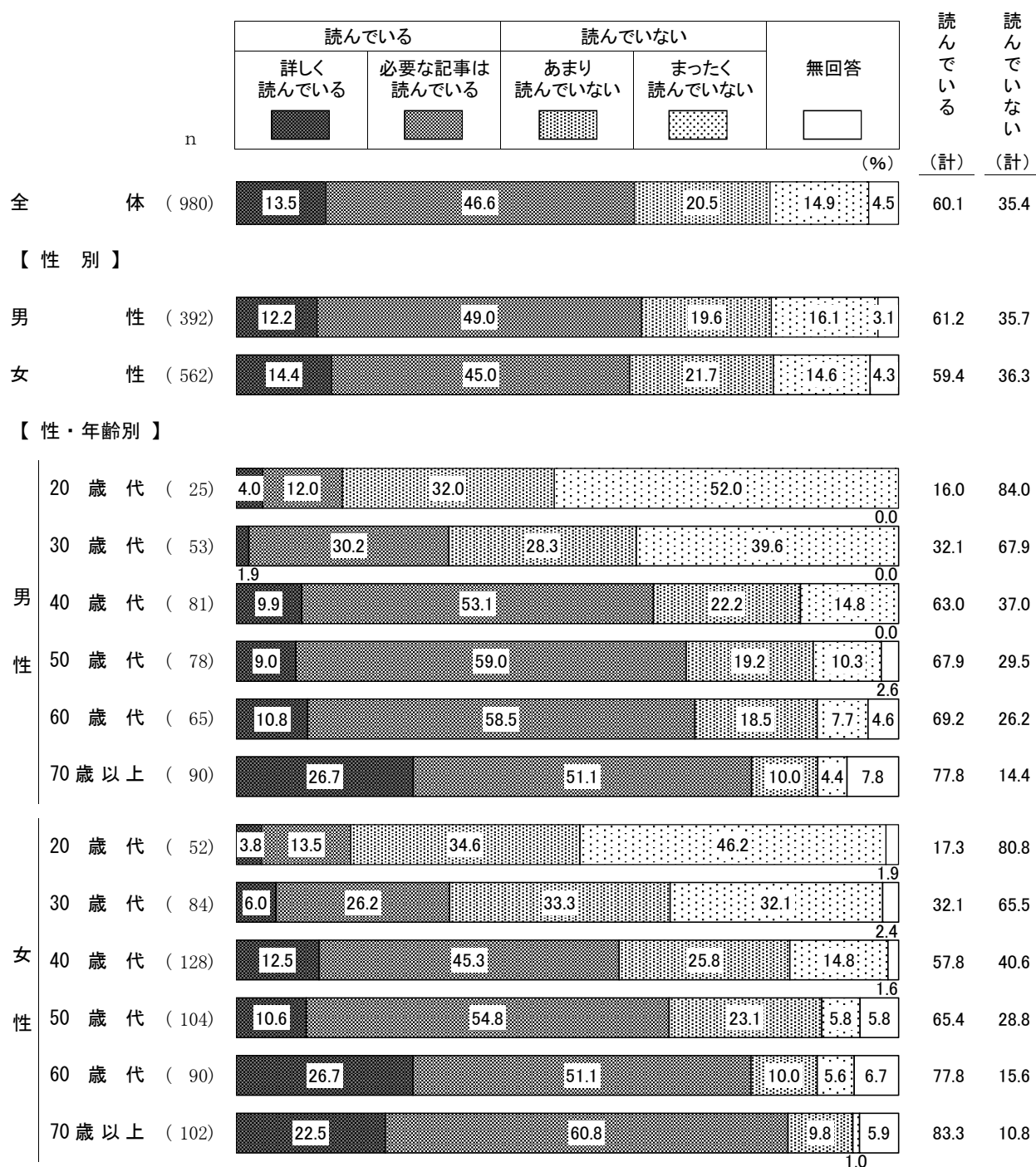
『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(13.5%)と「必要な記事は読んでいる」(46.6%)を合わせた『読んでいる』(60.1%)はほぼ6割となっている。一方、「あまり読んでいない」(20.5%)と「まったく読んでいない」(14.9%)を合わせた『読んでいない』(35.4%)は3割半ばとなっている。(図1-11-1)

図1-11-2 『ねりま区報』の閲読度－過年度比較

n	読んでいる		読んでいない		無回答	読んでいる (計)	読んでいない (計)
	詳しく読んでいる	必要な記事は読んでいる	あまり読んでいない	まったく読んでいない			
平成26年度 (980)	13.5	46.6	20.5	14.9	4.5	60.1	35.4
平成25年度 (1,019)	13.7	52.3	18.1	13.8	2.1	66.0	31.9
平成24年度 (1,181)	13.4	49.9	18.3	14.9	3.6	63.3	33.2
平成23年度 (1,021)	13.8	50.1	21.5	14.3	0.2	64.0	35.8
平成22年度 (988)	12.8	50.1	21.6	15.5	0.1	62.9	37.0

過去の調査と比較すると、『読んでいる』は平成22年度以降6割台で推移しているが、今回調査では前回調査(平成25年度)より5.9ポイント減少している。(図1-11-2)

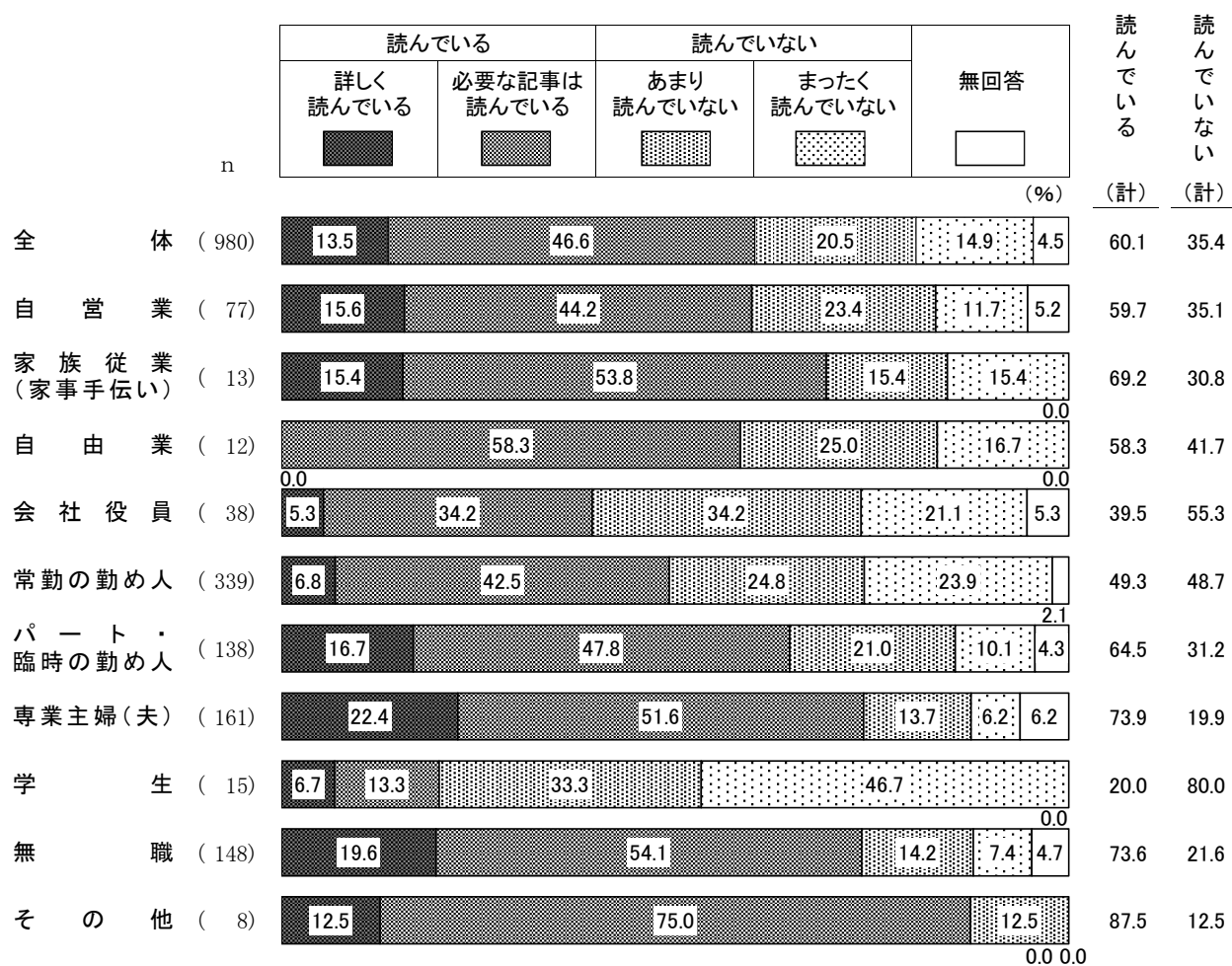
図 1-11-3 『ねりま区報』の閲読度—性別／性・年齢別



性別にみると、『読んでいる』は男女間で大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、『読んでいる』は男女ともに高い年代ほど多くなっており、女性70歳以上で8割を超え、男性70歳以上、女性60歳代で8割近くとなっている。一方、『読んでいない』は男女ともに低い年代ほど多く、男性20歳代で8割半ば、女性20歳代で8割、男性30歳代、女性30歳代で6割半ばと多くなっている。(図1-11-3)

図1-11-4 『ねりま区報』の読読度—職業別



職業別にみると、『読んでいる』は専業主婦（夫）と無職で7割を超えて多くなっている。

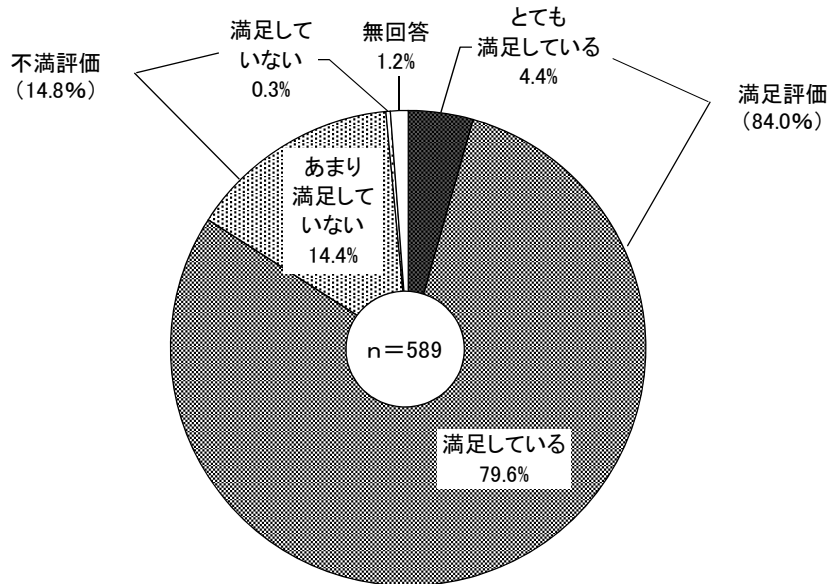
(図1-11-4)

(11-1) 『ねりま区報』の満足度

◇『満足評価』は8割半ば

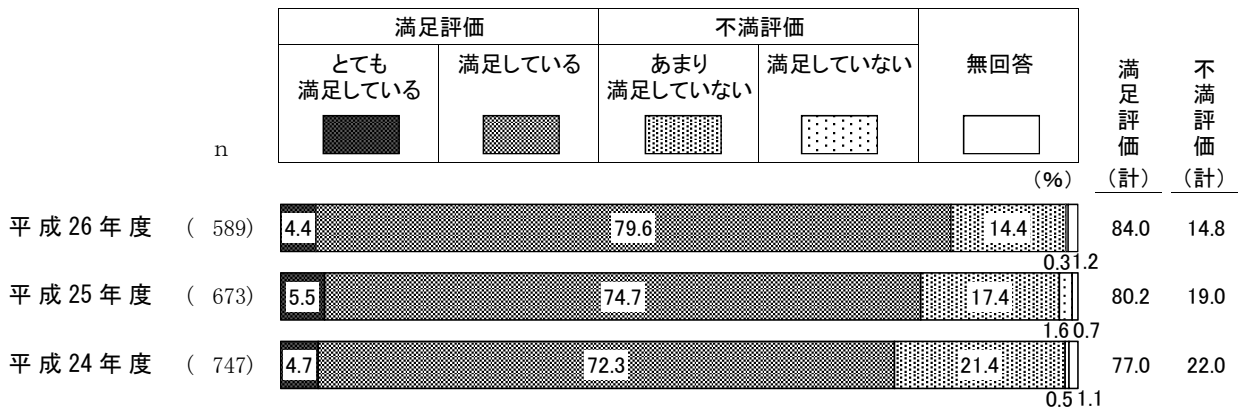
(問12で「1. 詳しく読んでいる」または「2. 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ)
 問12-1 あなたは、『ねりま区報』にどの程度満足していますか。(○は1つ)

図1-11-5 『ねりま区報』の満足度



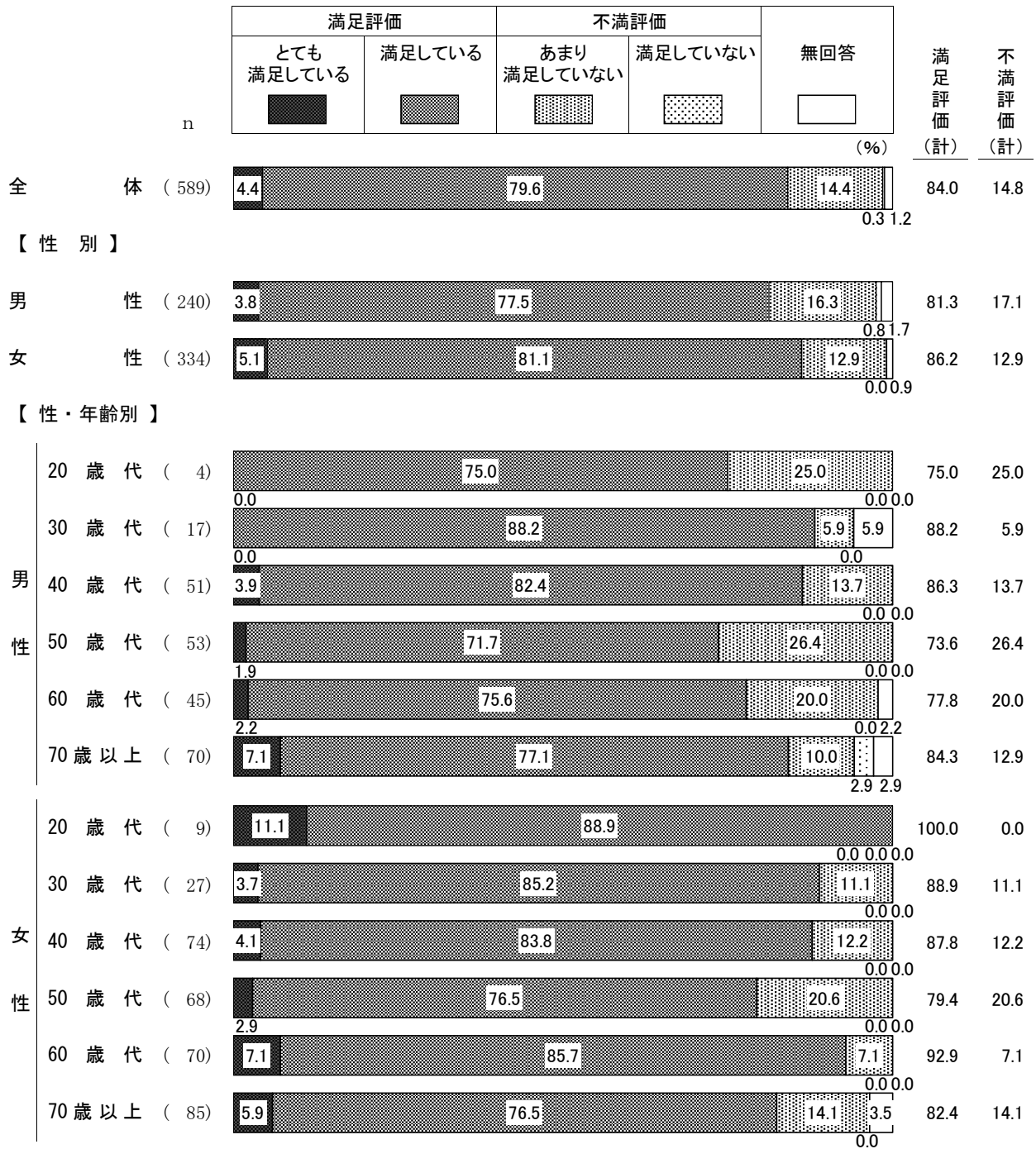
『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(589人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(4.4%)と「満足している」(79.6%)を合わせた『満足評価』(84.0%)は8割半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(14.4%)と「満足していない」(0.3%)を合わせた『不満評価』(14.8%)は1割半ばとなっている。(図1-11-5)

図1-11-6 『ねりま区報』の満足度—過年度比較



過去2年間と比較すると、『満足評価』は増加傾向にあり、前回調査(平成25年度)より3.8ポイント増加している。(図1-11-6)

図1-11-7 『ねりま区報』の満足度－性別／性・年齢別

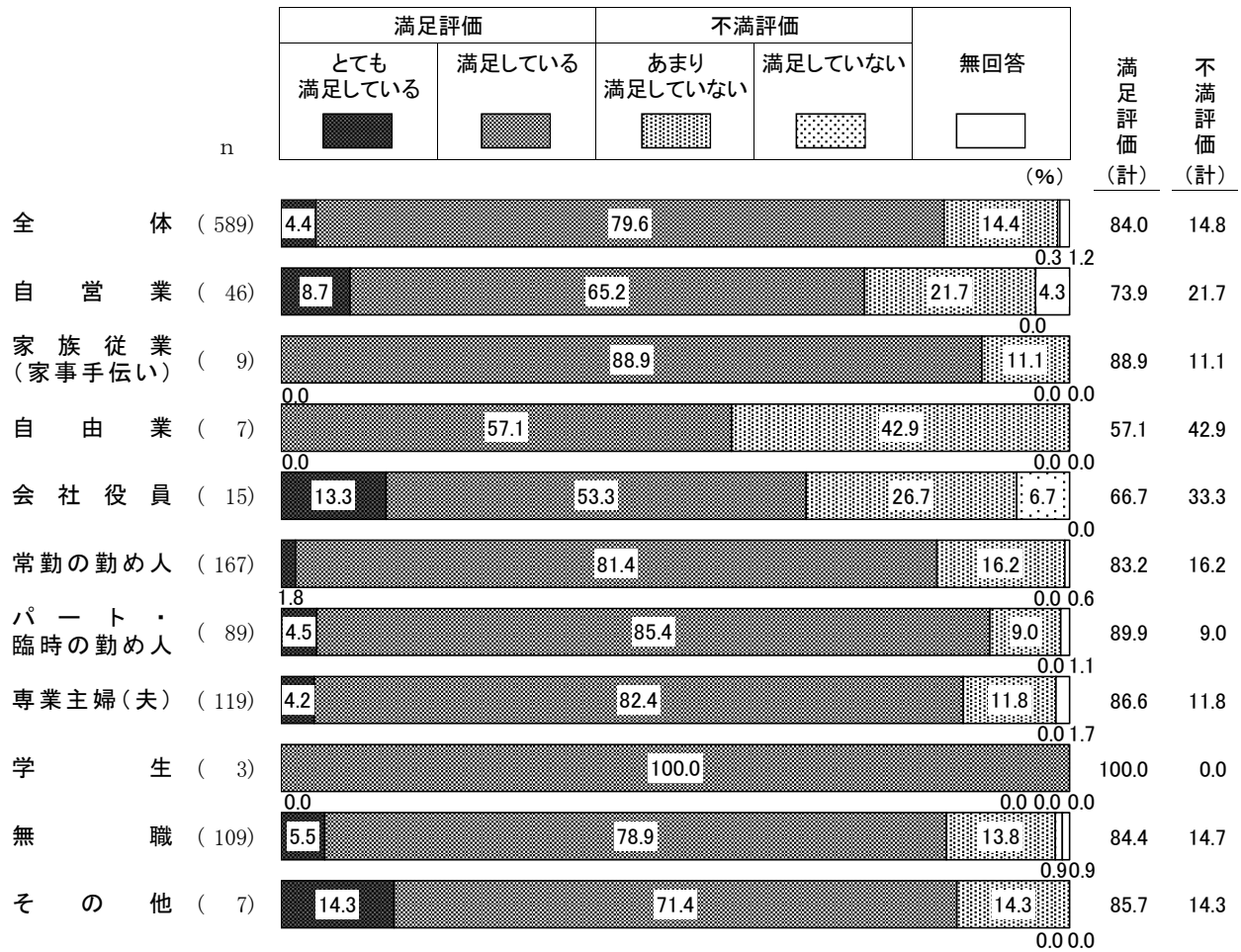


性別にみると、『満足評価』は女性の方が4.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は男女それぞれ50歳代で少なくなっている。

(図1-11-7)

図1-11-8 『ねりま区報』の満足度－職業別



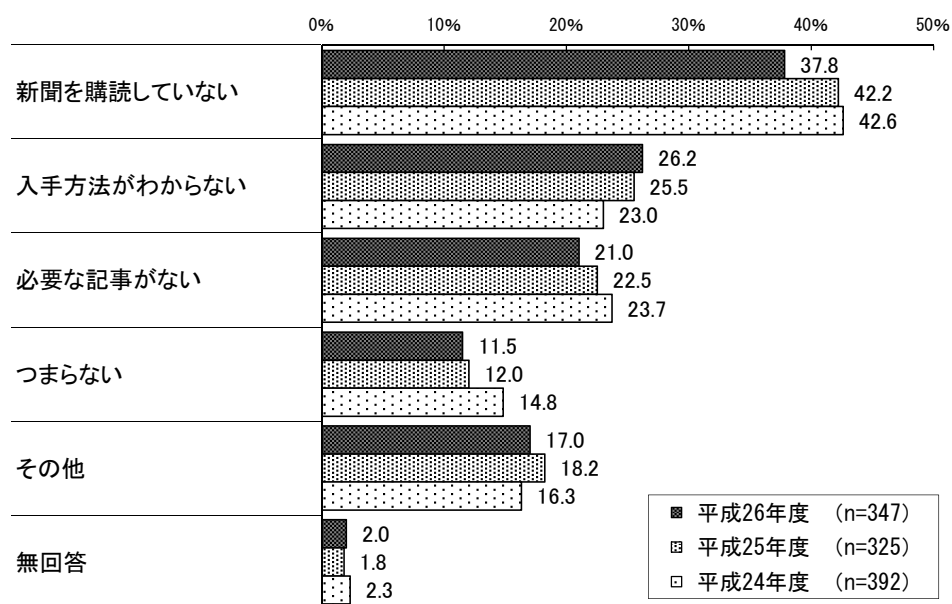
職業別にみると、『満足評価』はパート・臨時の勤め人ではほぼ9割、専業主婦(夫)、無職で8割半ばと多くなっている。(図1-11-8)

(11-2) 『ねりま区報』を読んでいない理由

◇「新聞を購読していない」が4割近く

(問12で「3. あまり読んでいない」または「4. まったく読んでいない」と答えた方へ)
 問12-2 あなたが、『ねりま区報』を読んでいない理由はなぜですか。
 (〇はいくつでも)

図1-11-9 『ねりま区報』を読んでいない理由

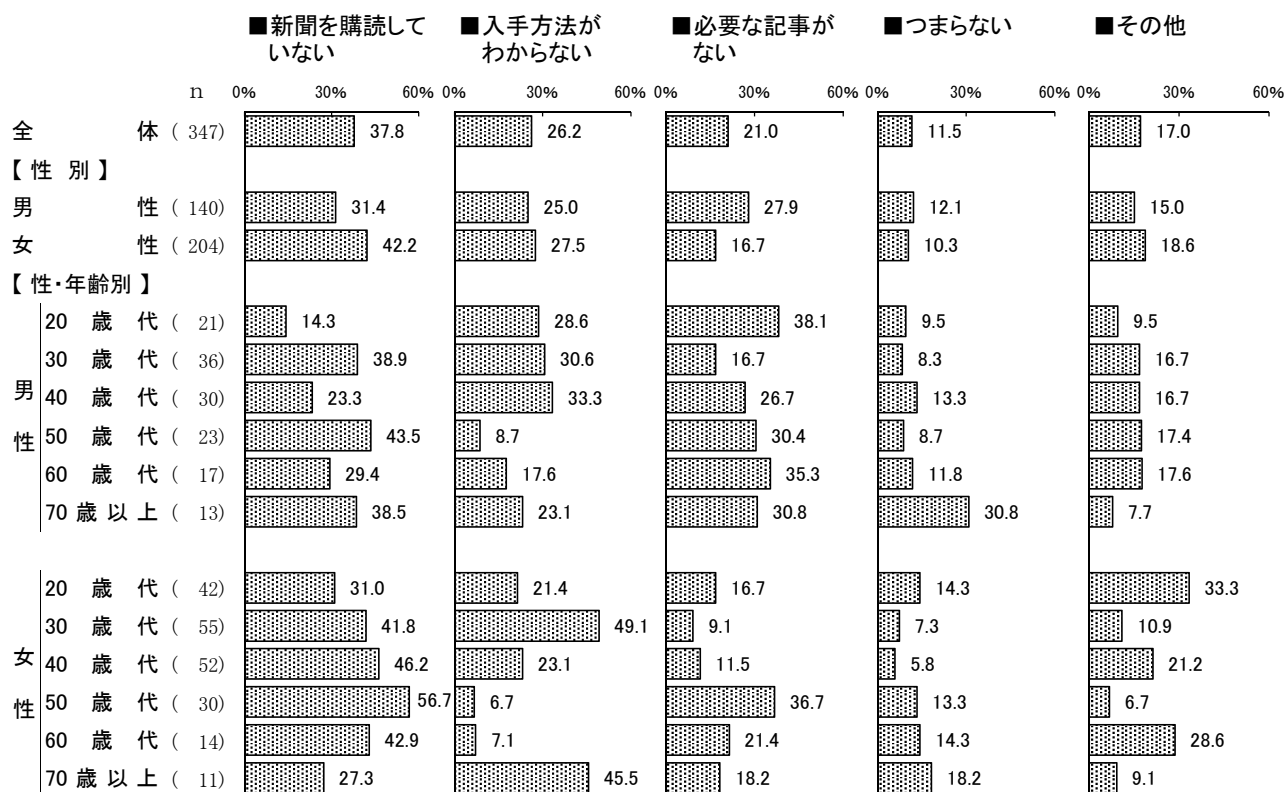


『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(347人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(37.8%)が4割近くと最も多く、次いで「入手方法がわからない」(26.2%)、「必要な記事がない」(21.0%)、「つまらない」(11.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「新聞を購読していない」は減少傾向にあり、前回調査(平成25年度)より4.4ポイント減少している。また、「必要な記事がない」、「つまらない」も減少傾向となっている。一方、「入手方法がわからない」は増加傾向となっている。

(図1-11-9)

図 1-11-10 『ねりま区報』を読んでいない理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「新聞を購読していない」は女性の方が10.8ポイント高くなっている。「必要な記事がない」は男性の方が11.2ポイント高くなっている。

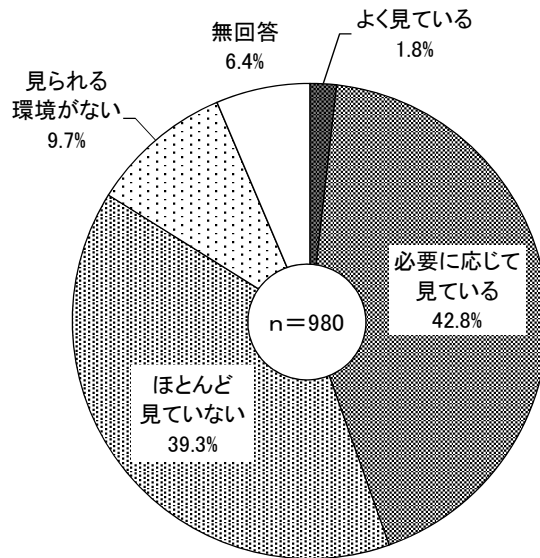
性・年齢別にみると、「新聞を購読していない」は女性50歳以上で5割半ばと多くなっている。「入手方法がわからない」は女性30歳代で5割近くと多くなっている。(図 1-11-10)

(12) 『区ホームページ』の閲覧度

◇「必要に応じて見ている」が4割を超え、「ほとんど見ていない」が4割近く

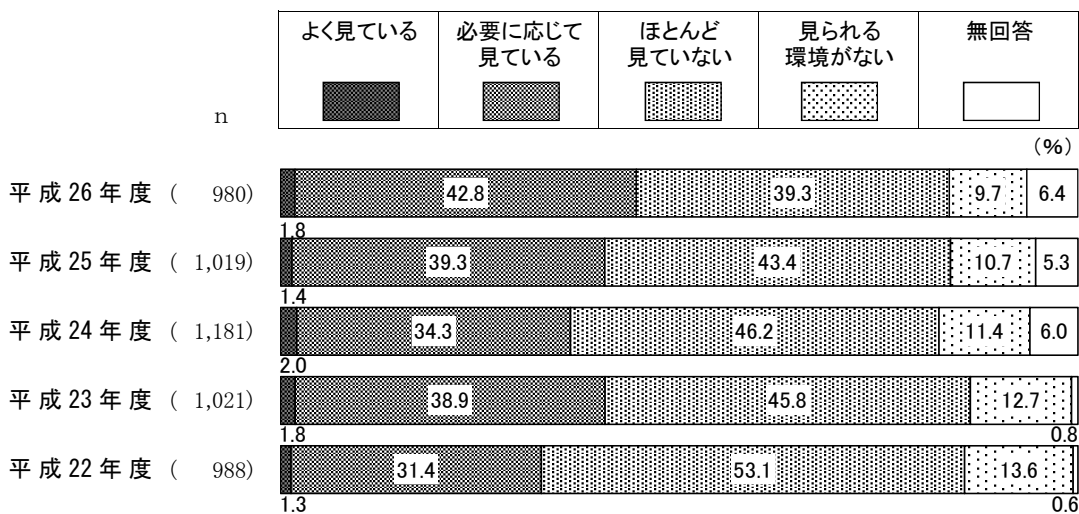
問13 あなたは、『区ホームページ』をどの程度閲覧していますか。(○は1つ)

図1-12-1 『区ホームページ』の閲覧度



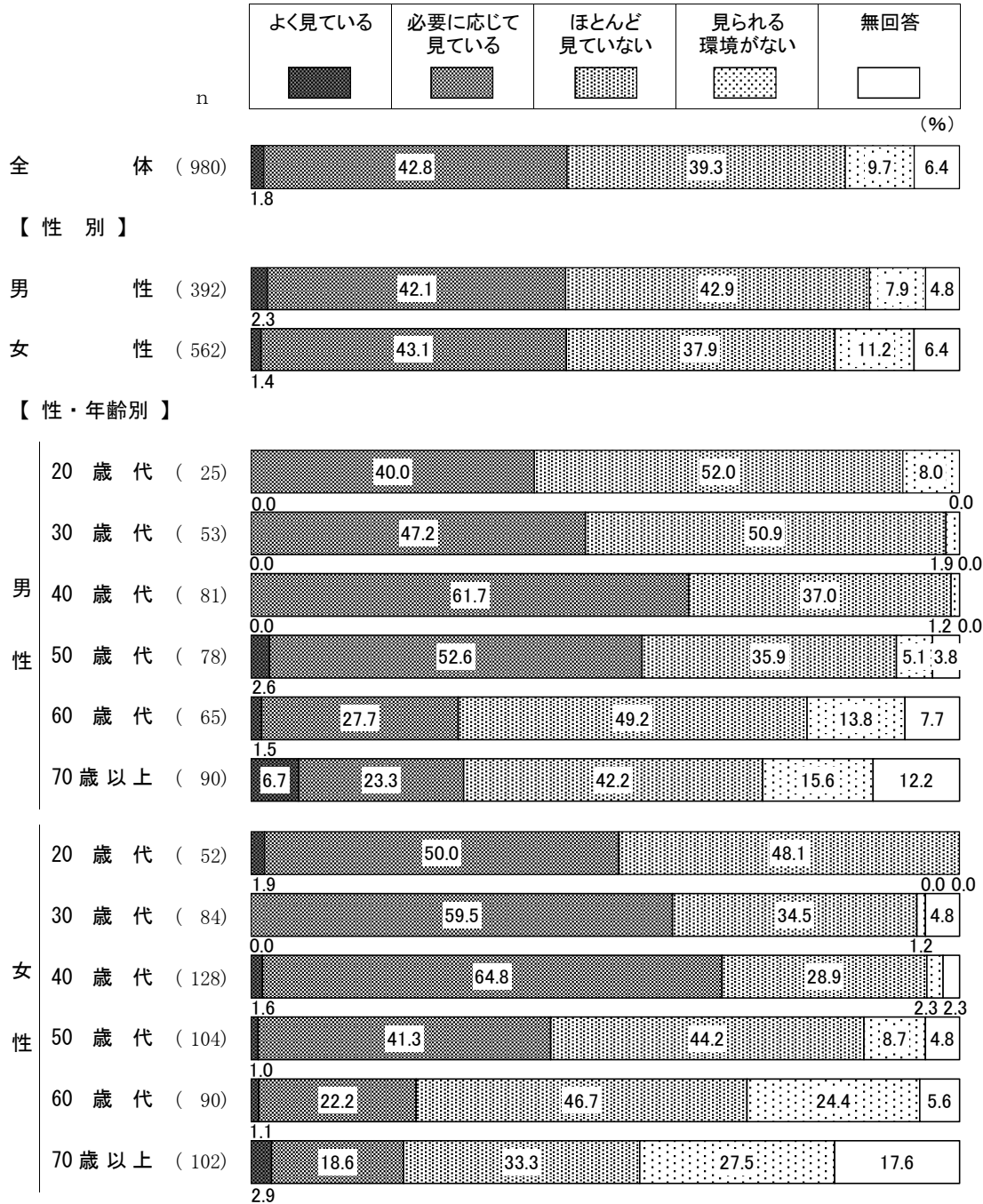
『区ホームページ』をどの程度閲覧しているか聞いたところ、「必要に応じて見ている」(42.8%)が4割を超えている。「ほとんど見ていない」(39.3%)がほぼ4割、「見られる環境がない」(9.7%)がほぼ1割となっている。(図1-12-1)

図1-12-2 『区ホームページ』の閲覧度一過年度比較



過去の調査と比較すると、「必要に応じて見ている」は増加傾向にあり、前回調査(平成25年度)より3.5ポイント増加している。(図1-12-2)

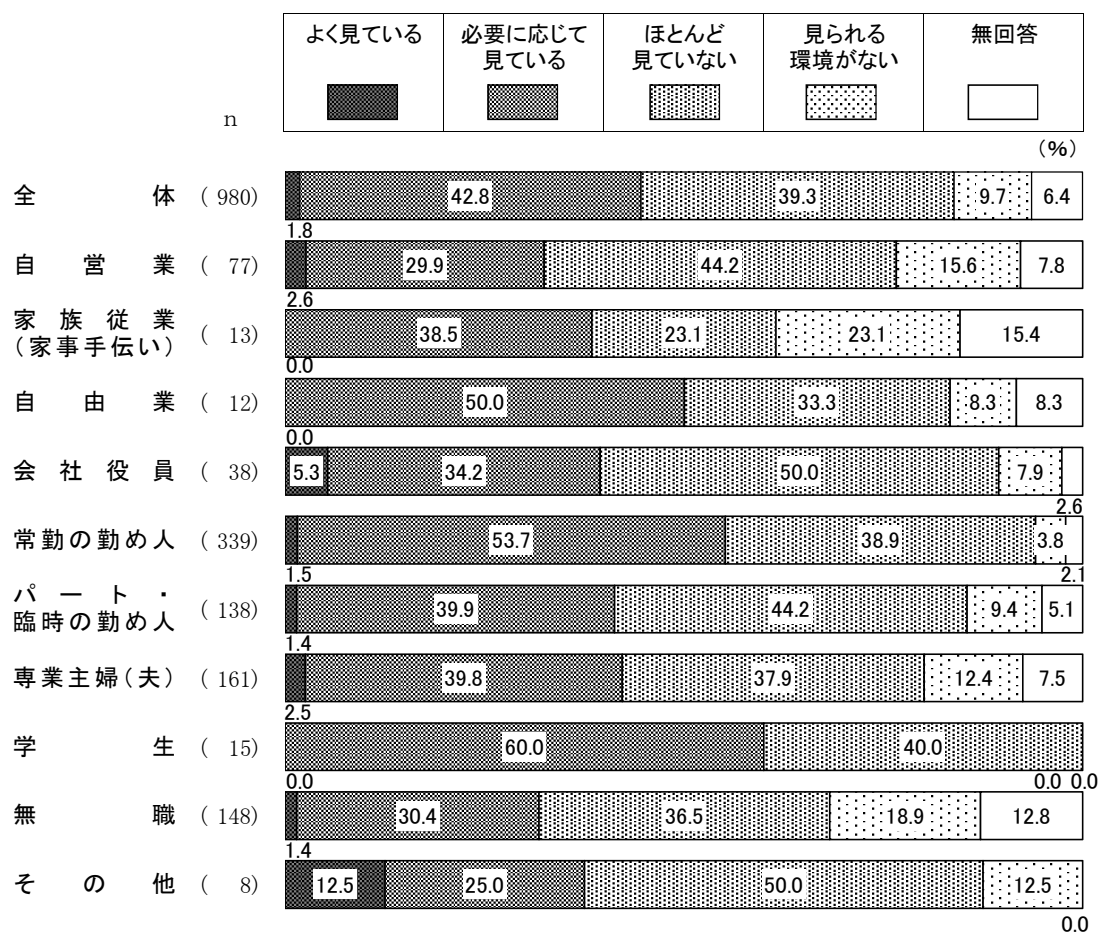
図1-12-3 『区ホームページ』の閲覧度—性別／性・年齢別



性別にみると、「必要に応じて見ている」は男女ともほぼ同様の傾向となっている。

性・年齢別にみると、「必要に応じて見ている」は男女ともに40歳代で6割を超え、女性30歳代で6割近くと多くなっている。(図1-12-3)

図 1-12-4 『区ホームページ』の閲覧度—職業別



職業別にみると、「必要に応じて見ている」は常勤の勤め人で5割を超えている。

(図 1-12-4)

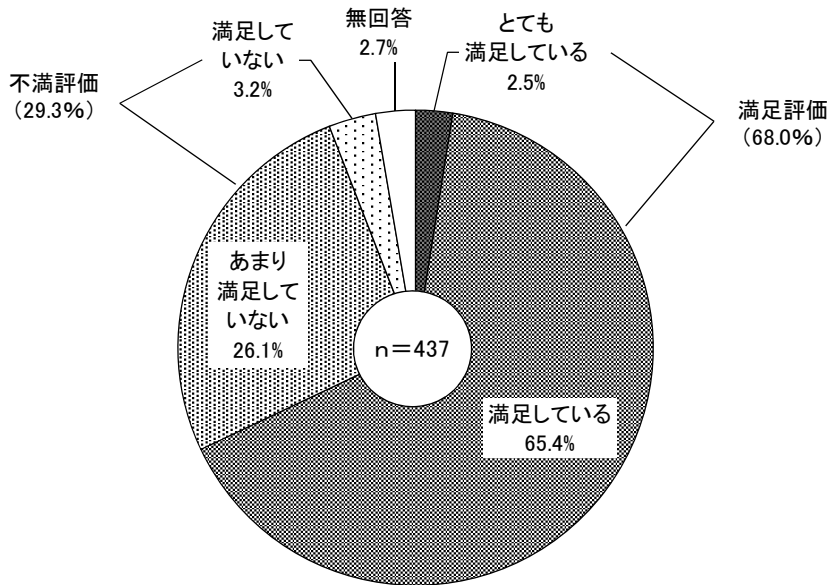
(12-1) 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ

◇『満足評価』は7割近く

(問13で「1. よく見ている」または「2. 必要に応じて見ている」と答えた方へ)

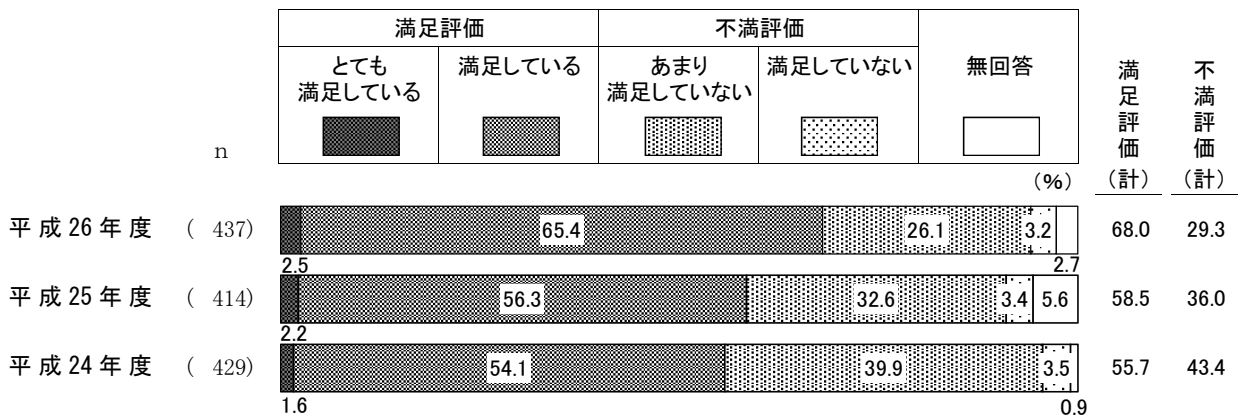
問13-1 『区ホームページ』で閲覧している情報は、見つけやすさ・わかりやすさの満足度はどの程度ですか。(〇は1つ)

図1-12-5 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ



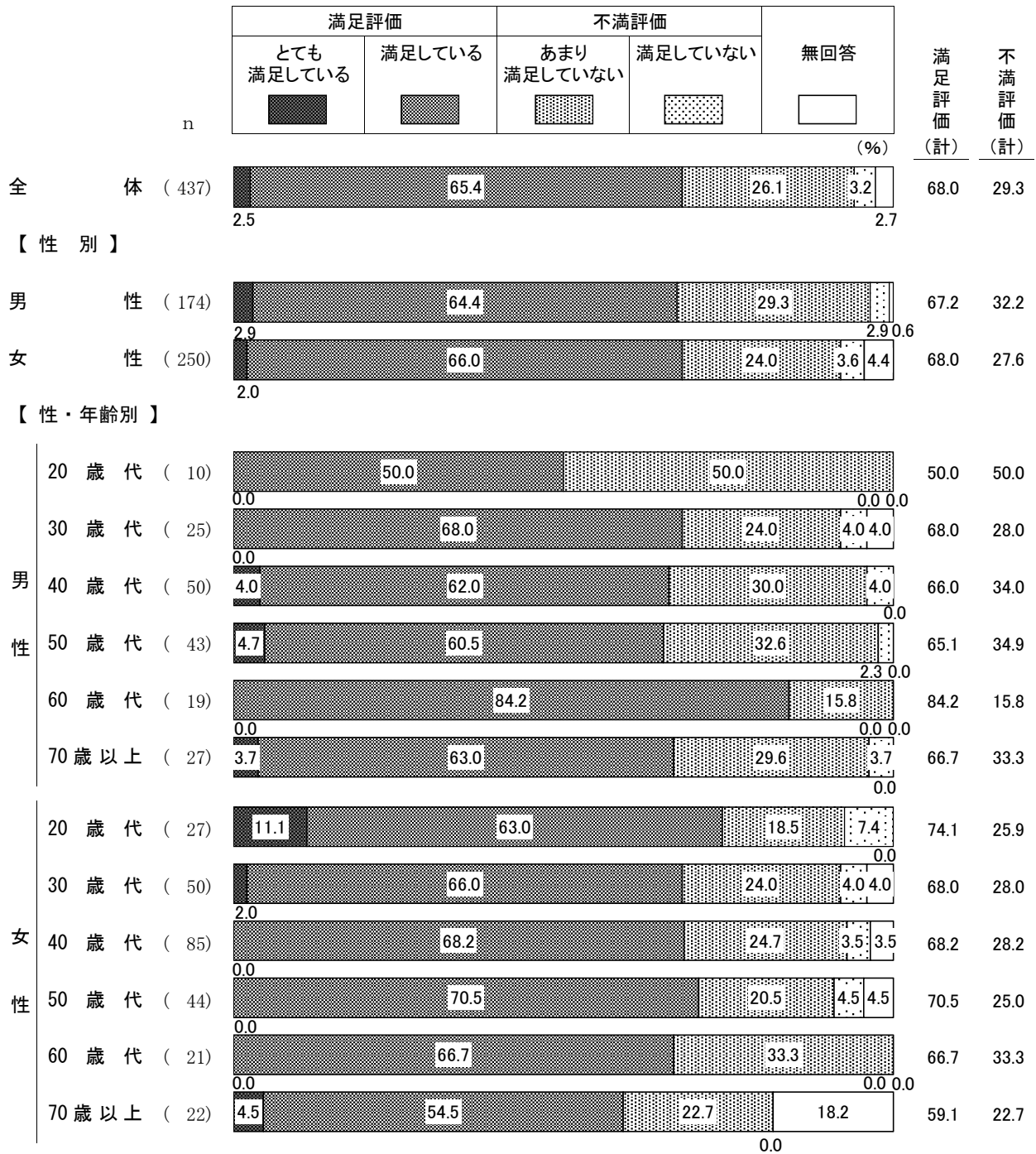
『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(437人)に、閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(2.5%)と「満足している」(65.4%)を合わせた『満足評価』(68.0%)は7割近くとなっている。一方、「あまり満足していない」(26.1%)と「満足していない」(3.2%)を合わせた『不満評価』(29.3%)はほぼ3割となっている。(図1-12-5)

図1-12-6 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ一過年度比較



過去2回の調査と比較すると、『満足評価』は増加傾向にあり、前回調査(平成25年度)より9.5ポイント増加している。(図1-12-6)

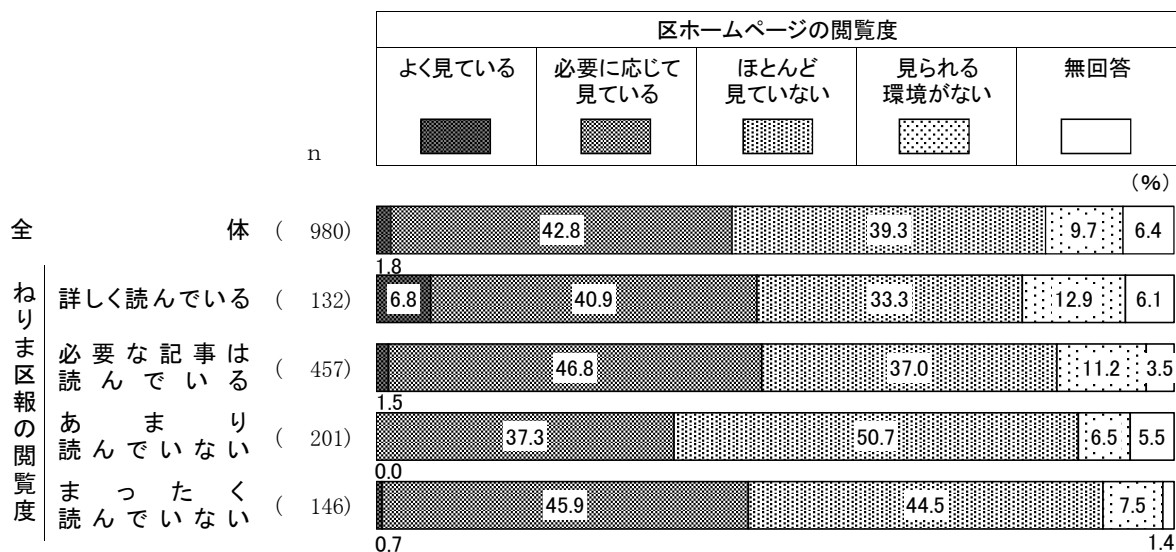
図1-12-7 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさー性別／性・年齢別



性別にみると、『満足評価』は男女間で大きな傾向の違いはみられない。

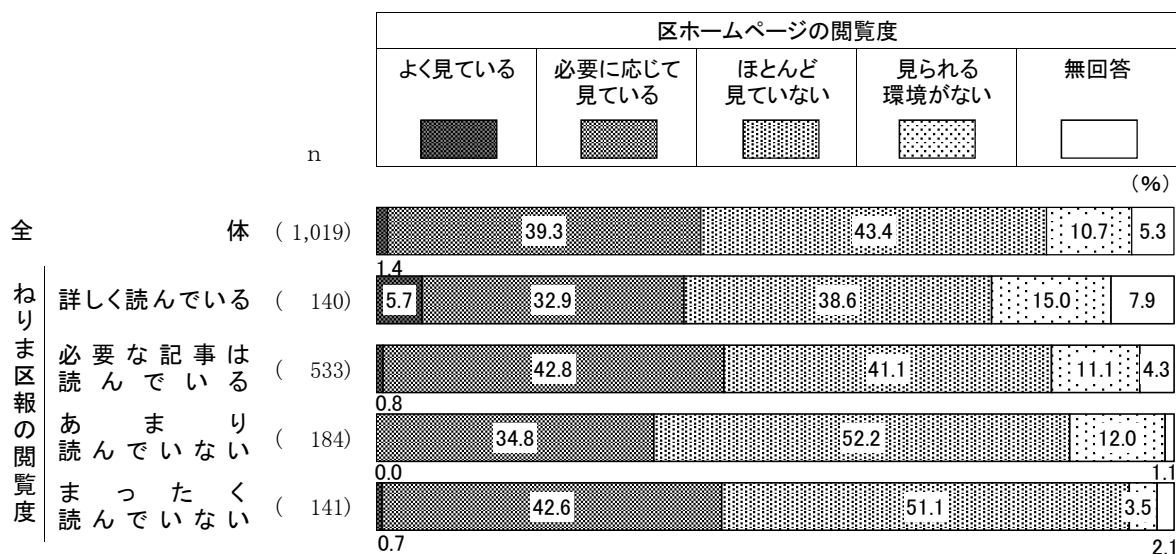
性・年齢別にみると、『満足評価』は男性60歳代で8割を超え、女性20歳代で7割半ば、女性50歳代でほぼ7割と多くなっている。(図1-12-7)

図1-12-8 『区ホームページ』の閲覧度－『ねりま区報』の閲読度別



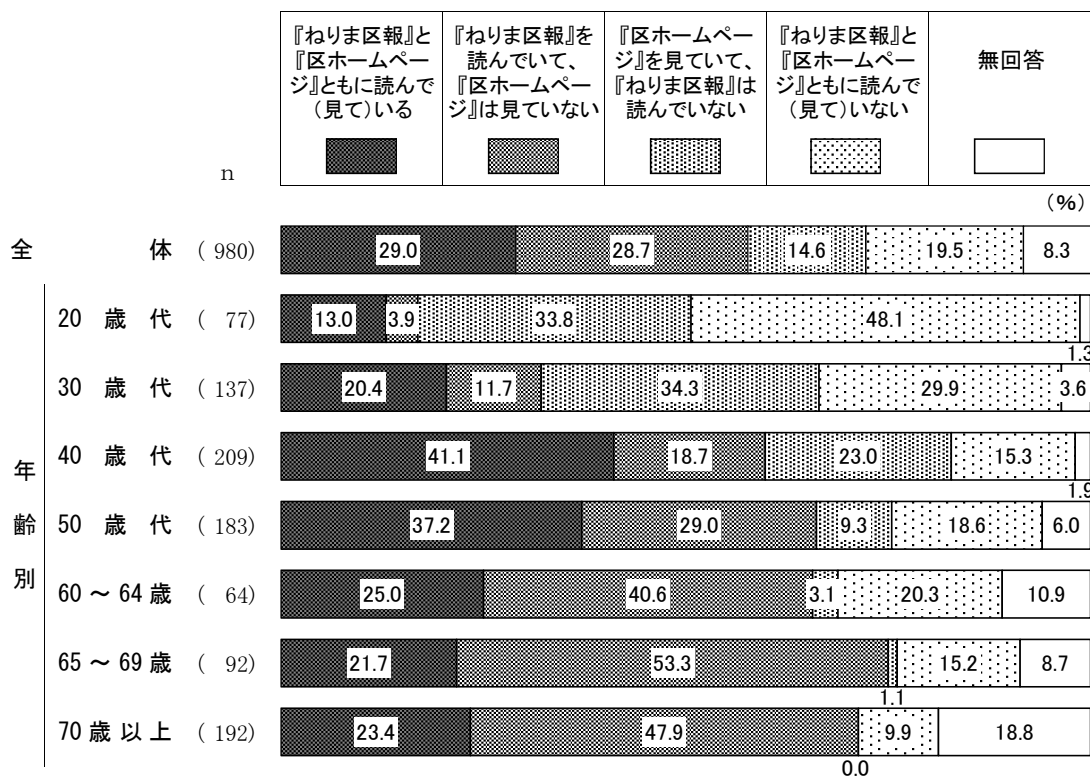
『区ホームページ』の閲覧度（問13・116ページ参照）について、『ねりま区報』の閲読度（問12・108ページ参照）別にみると、『ねりま区報』を詳しく読んでいる人は、『区ホームページ』を「よく見ている」の割合が6.8%と多くなっている。「見られる環境がない」は『ねりま区報』の閲覧頻度が高い人ほど割合が多くなっている。（図1-12-8）

図1-12-9 『区ホームページ』の閲覧度－『ねりま区報』の閲読度別（平成25年度調査の結果）



『ねりま区報』の閲読度別の傾向を前回調査（平成25年度）と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。（図1-12-9）

図1-12-10 『ねりま区報』の閲読度と『区ホームページ』の閲覧度一年齢別



『ねりま区報』と『区ホームページ』の2つの広報の手段について、年齢別の接触度をみた。『ねりま区報』の閲読度(問12・108ページ参照)と『区ホームページ』の閲覧度(問13・116ページ参照)の各回答について、以下の表に示すとおり分類した。

	読んで(見て)いる	読んで(見て)いない
『ねりま区報』の閲読度 (問12・108ページ参照)	「詳しく読んでいる」 「必要な記事は読んでいる」	「あまり読んでいない」 「まったく読んでいない」
『区ホームページ』の閲覧度 (問13・116ページ参照)	「よく見ている」 「必要に応じて見ている」	「ほとんど見ていない」 「見られる環境がない」

『ねりま区報』と『区ホームページ』ともに読んで(見て)いる人は、40歳代が4割を超え、50歳代が3割半ばと多くなっている。『ねりま区報』を読んでいて、『区ホームページ』は見えていない人は高い年代ほど多い傾向で、65歳以上の年代で5割近くとなっている。反対に、『区ホームページ』を見ていて、『ねりま区報』は読んでいない人は、低い年代ほど多い傾向で、20歳代と30歳代で3割を超えている。『ねりま区報』と『区ホームページ』ともに読んで(見て)いない人は、低い年代で多い傾向で、20歳代で5割近く、30歳代でほぼ3割となっている。(図1-12-10)

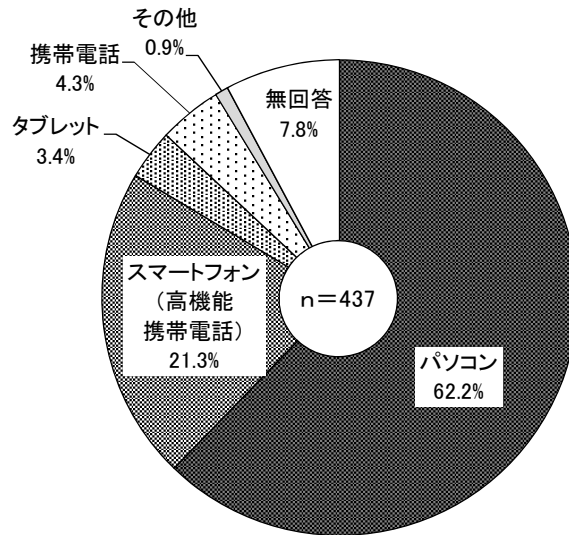
(12-2) 『区ホームページ』を閲覧するときに利用する機器

◇「パソコン」が6割を超え、「スマートフォン」が2割

(問13で「1. よく見ている」または「2. 必要に応じて見ている」と答えた方へ)

問13-2 『区ホームページ』を閲覧する際に、主に利用している機器は何ですか。
(○は1つ)

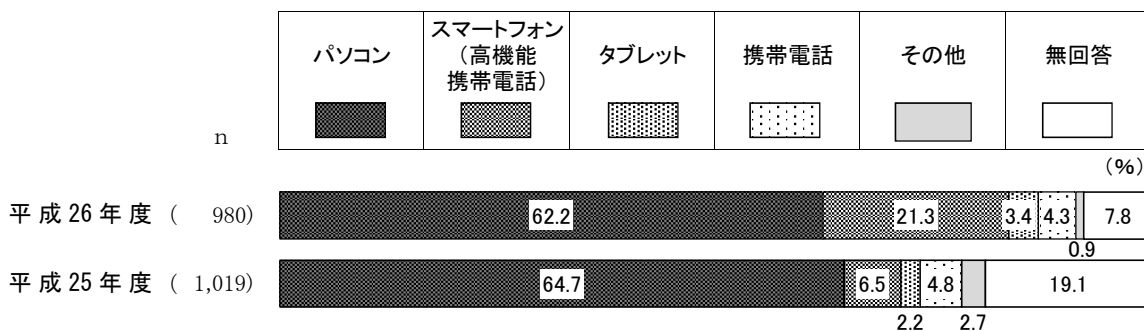
図1-12-11 『区ホームページ』を閲覧するときに利用する機器



『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(437人)に、閲覧する際に主に利用している機器を聞いたところ、「パソコン」(62.2%)が6割を超えて最も多くなっている。「スマートフォン(高機能携帯電話)」(21.3%)がほぼ2割、「携帯電話」(4.3%)、「タブレット」(3.4%)は5%未満となっている。

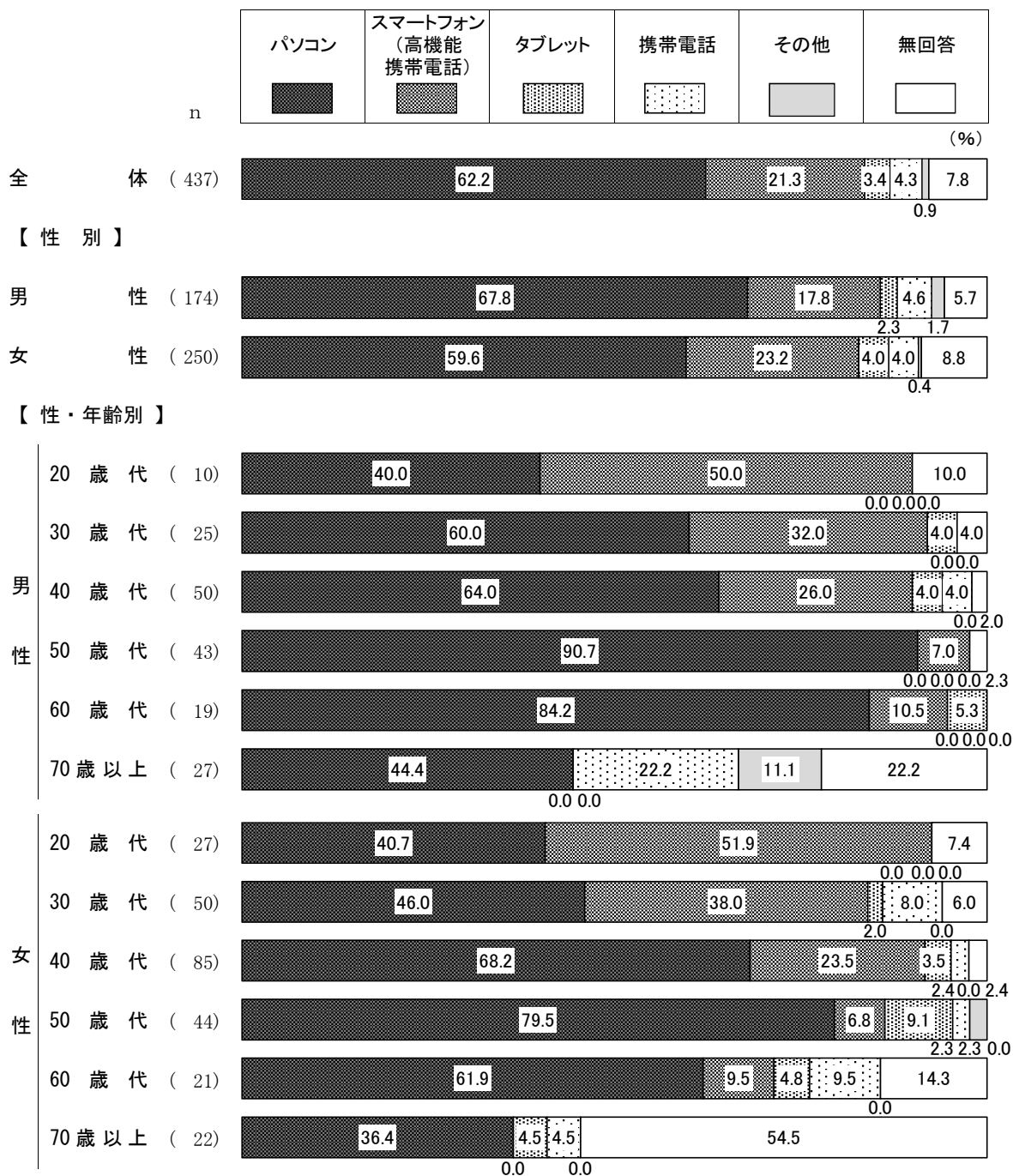
(図1-12-11)

図1-12-12 『区ホームページ』を閲覧するときに利用する機器一過年度比較



前回調査(平成25年度)と比較すると、「パソコン」は2.5ポイント減少している。一方、「スマートフォン(高機能携帯電話)」は14.8ポイント増加している。(図1-12-12)

図 1-12-13 『区ホームページ』を閲覧するときを利用する機器－性別／性・年齢別



性別にみると、「パソコン」は男性の方が8.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「スマートフォン（高機能携帯電話）」は男女ともに20歳代でほぼ5割、30歳代で3割台と多くなっている。（図 1-12-13）

(13) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度

◇「知っている」は3割近く

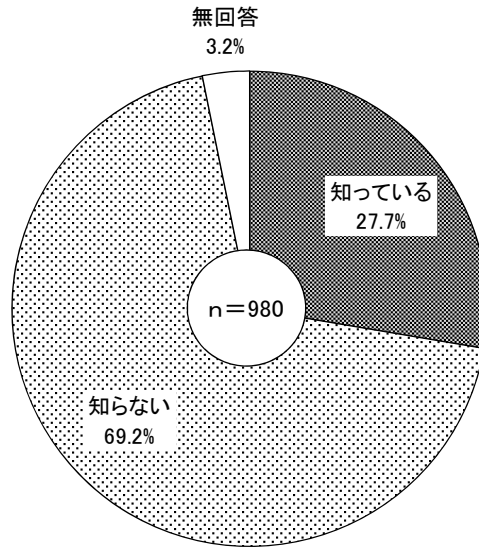
問14 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っていますか。

(○は1つ)

※ 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』は、ケーブルテレビJ：COM東京（デジタル：11ch）で毎日放映しています。区の事業やできごとなどを紹介し、区民の皆さまに、区政に関心を持っていただくことを目的としています。

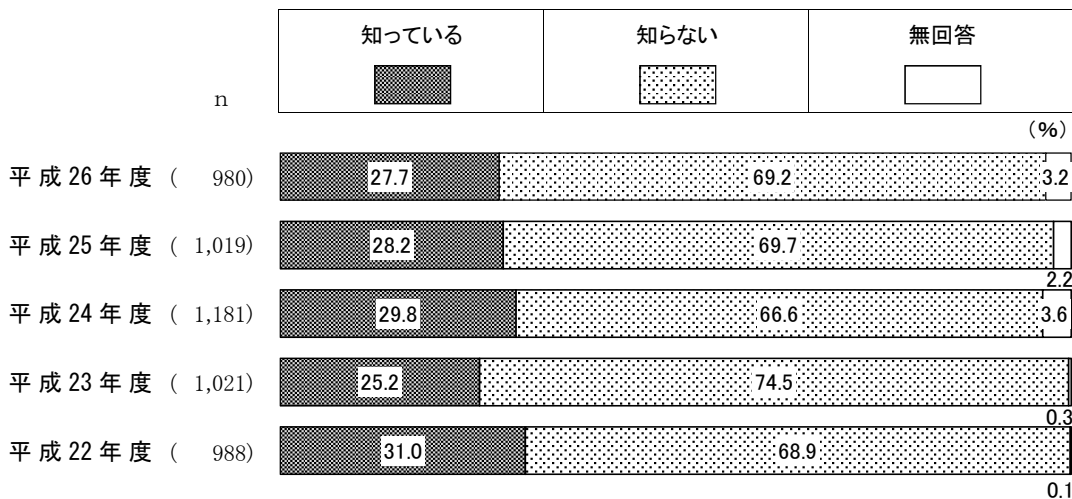
※ 放送時間は毎日9時、12時、20時の3回です（1回15分）。

図1-13-1 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度



『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(27.7%)は3割近くとなっている。一方、「知らない」(69.2%)はほぼ7割となっている。(図1-13-1)

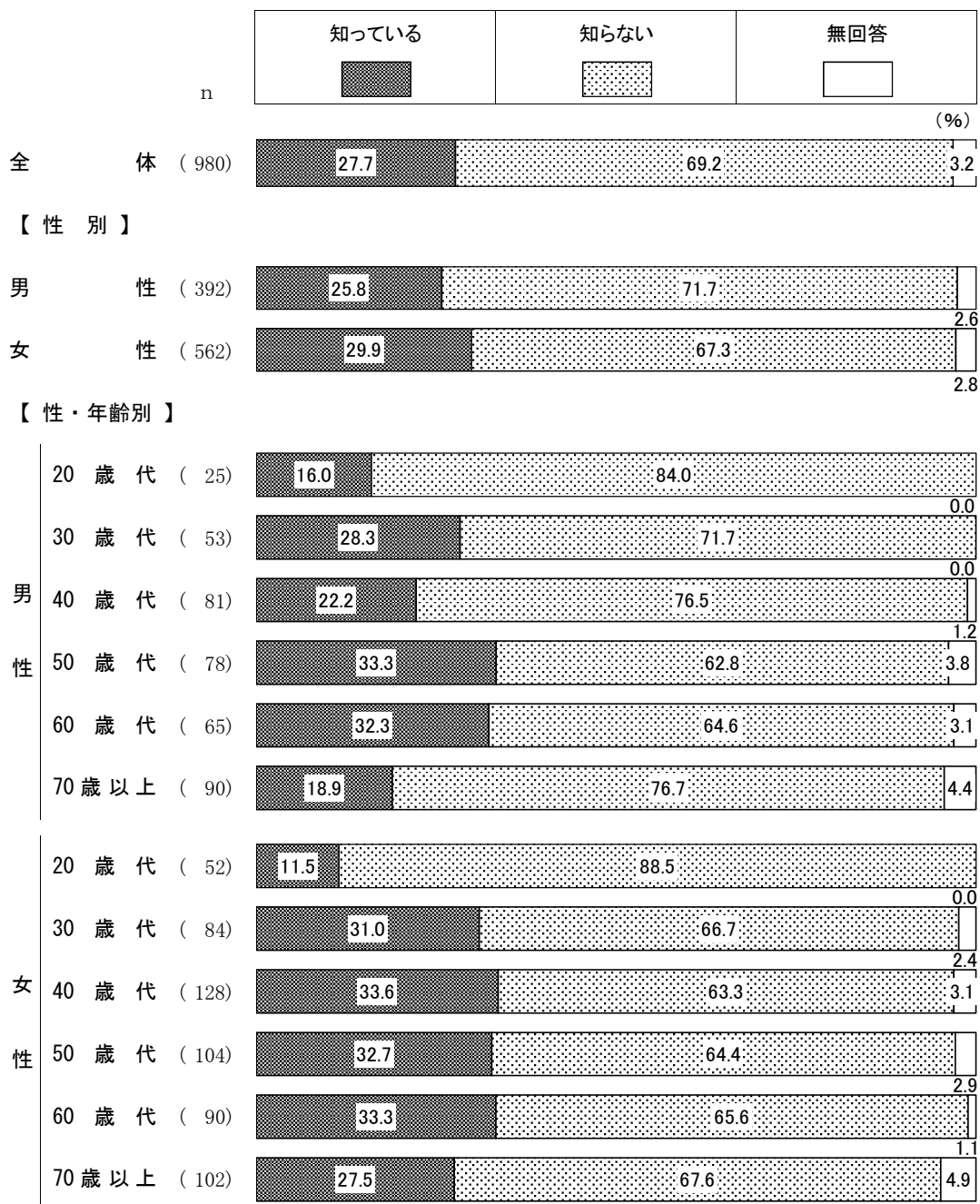
図1-13-2 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度一過年度比較



過去の調査と比較すると、「知っている」の割合は前回調査（平成25年度）とほぼ変わらないが、4年前（平成22年度）と比較して3.3ポイント減少しており、減少傾向となっている。

(図1-13-2)

図 1-13-3 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度—性別／性・年齢別



性別にみると、「知っている」は女性の方が4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「知っている」は男性50歳代、60歳代、女性30歳代から60歳代で3割を超えている。(図1-13-3)

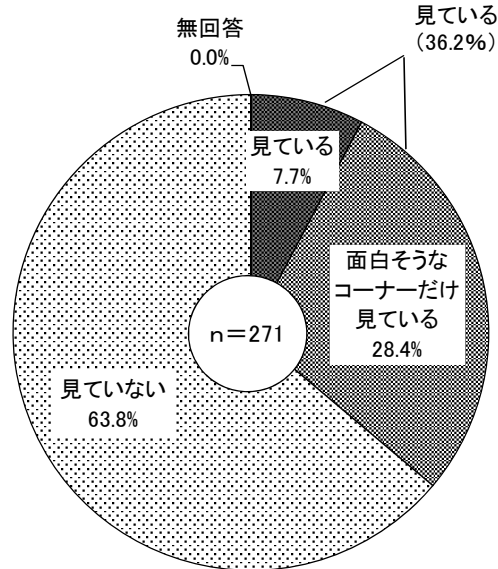
(13-1) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度

◇『見ている』は3割半ば

(問14で「1. 知っている」と答えた方へ)

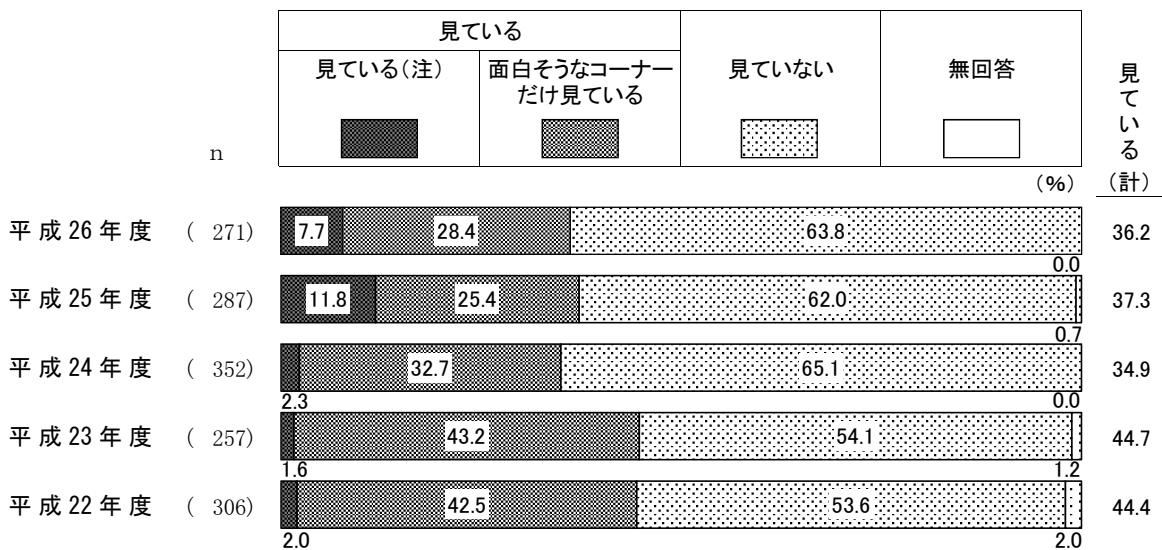
問14-1 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を見ていますか。
(○は1つ)

図1-13-4 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度



『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(271人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「見ている」(7.7%)と「面白そうなコーナーだけ見ている」(28.4%)と合わせた『見ている』(36.2%)は3割半ばとなっている。(図1-13-4)

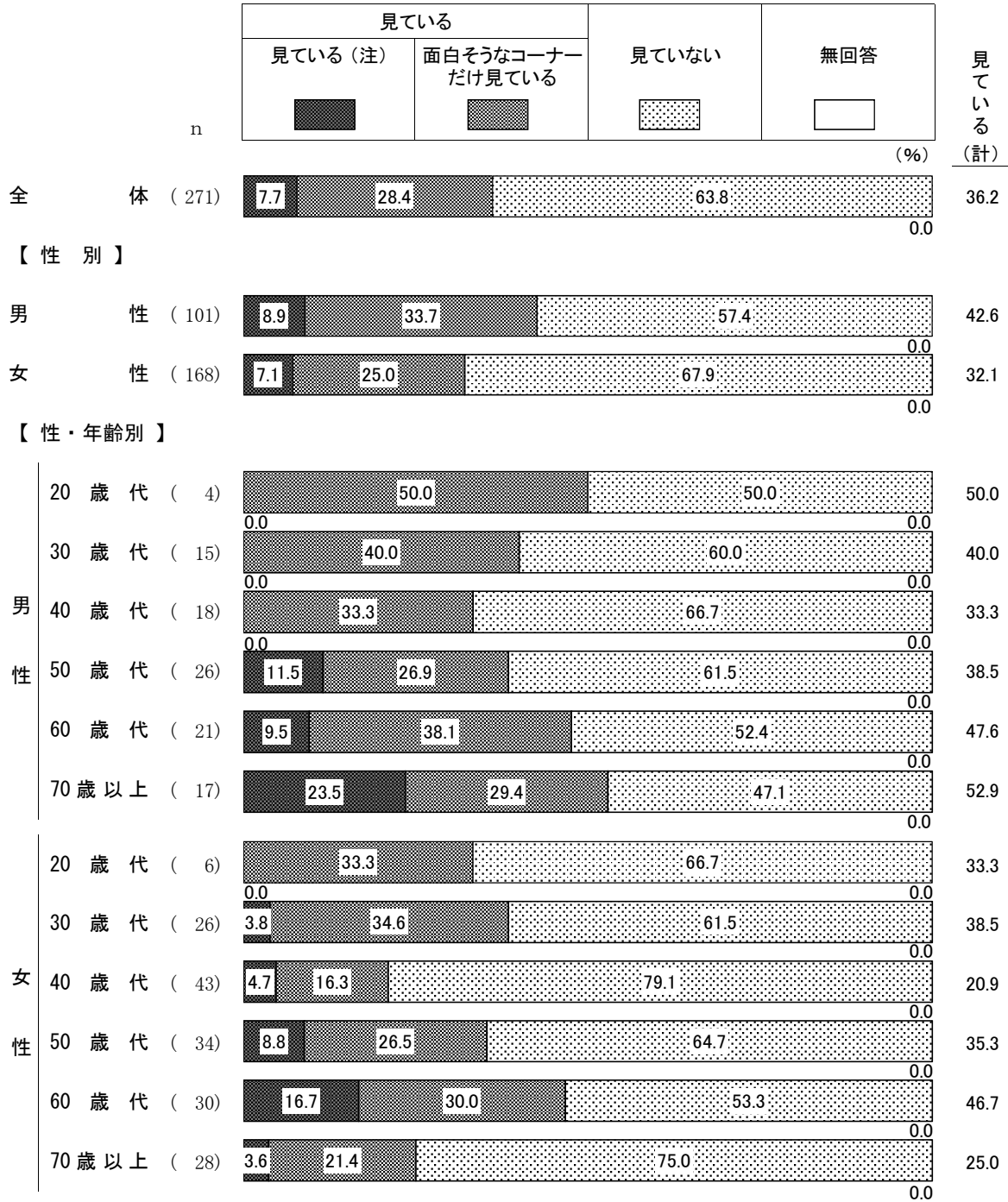
図1-13-5 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度一過年度比較



(注) 「見ている」の選択肢は、平成24年度以前は「詳しく見ている」としていた。

過去の調査と比較すると、「見ている」と「面白そうなコーナーだけ見ている」を合わせた『見ている』の割合は、前回調査(平成25年度)とほぼ変わらない。(図1-13-5)

図 1-13-6 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度—性別／性・年齢別



性別にみると、「見ている」は男性の方が10.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『見ている』は男性70歳以上で5割を超え、男女ともに60歳代で4割半ばと多くなっている。(図1-13-6)